

国道 9 号乙吉電線共同溝 PFI 事業

見積参考資料

令和 5 年 1 0 月

国土交通省中国地方整備局

この「見積参考資料」は、本事業の現場条件等を考慮し標準的な事業内容等を参考にした資料であり、契約図書ではない。従って「見積参考資料」は事業契約上の拘束力を生じるものではなく、事業者は、事業者は、施工方法、地質条件等を十分考慮して、設計、工事、維持管理、調整マネジメント等、事業目的を完成・維持するための一切の手段について事業者の責任において定めるものとする。

見積参考資料一覧

見積参考資料
見積参考図面（積算用参考図）
見積参考図面（参考図）

見積参考資料

見 積 参 考 資 料

工 事 名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側)

この「見積参考資料」は入札参加者の適切かつ迅速な見積に資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。従って「見積参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を充分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。

なお、この「見積参考資料」の有効期間は、この工事の入札日までとする。

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

見積参考資料（積算条件）

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側)	(当 初)	主たる工種	C・C・BOX工事
間 接 費 名 称		積 算 条 件		
		補 正 項 目	条 件	
共通仮設費（率計上）	施工地域補正 除雪工事補正	一般交通影響有り（1）－1 補正無		
現場環境改善費（率計上）	市街地補正	市街地		
現場管理費	施工地域補正 施工時期補正 熱中症補正 緊急工事補正 砂防・地滑り補正	一般交通影響有り（1）－1 補正しない 補正しない 補正しない 補正しない		
一般管理費等	財団法人等による補正 前払金割合による補正 契約保証に係る補正	補正しない 35%を超えるもの・補正しない 発注者が金銭的保証を必要とする場合		
その他	ICT施工補正 週休2日の補正	補正しない 4週8休以上		

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
電線共同溝		式		1					
開削土工		式		1					
掘削工 (夜間)		式		1					
開削掘削	土砂	m3		550		< 1 m3当り > 床掘り	m3	1	
開削掘削(二次掘削)	土砂 特殊部沈下埋設型	m3		60		< 1 m3当り > 床掘り(二次掘削)(特殊部沈下埋設型)	m3	1	
埋戻し工 (夜間)		式		1					
埋戻し・締固め	土砂	m3		280		< 1 m3当り > 埋戻し・締固め 土質=土砂;	m3	1	
埋戻し・締固め	中埋砂	m3		150		< 1 m3当り > 埋戻し・締固め 土質=中埋砂;	m3	1	
残土処理工		式		1					
整地	残土受入れ地での処理	m3		300		< 1 m3当り > 整地 作業区分=残土受入れ地での処理;	m3	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
土砂等運搬 (夜間)		m ³		300		< 1 m ³ 当り > 運搬(電線共同溝) 積載区分=土砂; DID区間の有無=有り; 運搬距離(km) (DID区間有)=6.0km以下;	m ³	1	
電線共同溝工		式		1					
管路工(管路部) (夜間)		式		1					
埋設管路	角型FEP φ 130	m		22		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=多条管設置;	m	1	
埋設管路	角型FEP φ 100	m		294		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=多条管設置;	m	1	
埋設管路	角型FEP φ 75	m		465		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=多条管設置;	m	1	
埋設管路	HIVP φ 100	m		316		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=単管設置;	m	1	
埋設管路	VP φ 200	m		136		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=ホテイ管(φ 200mm)設置 (さや管含む); さや管の条数=標準以外の組合せ(φ 50, φ 30使用); さや管(φ 50)の条数(標準以外の組 合せ)(実=4本; さや管(φ 30)の条数(標準以外の組 合せ)(実=0本;	m	1	
埋設管路	VP φ 150	m		192		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=FA管設置;	m	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
埋設管路	PV φ 50	m		211		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路	VE φ 70	m		150		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	HIVP φ 100	m		162		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	VP φ 200	m		34		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=ホテイ管(φ200mm)設置 (さや管含む)；さや管の条数=標準以外の組合せ(φ 50, φ30使用)；さや管(φ50)の条数(標準以外の組 合せ)(実=4本；さや管(φ30)の条数(標準以外の組 合せ)(実=0本；	m	1	
埋設管路 (EB曲管(R10))	VP φ 150	m		51		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=FA管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	PV φ 50	m		212		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	VE φ 70	m		91		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R6))	HIVP φ 100	m		12		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (EB曲管(R6))	VP φ 150	m		9		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=FA管設置；	m	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
埋設管路 (曲管(R6))	PV φ 50	m		23		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R6))	VE φ 70	m		9		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
中間継手	角型FEP φ 130用	個		2		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(角型FEP φ 130用)	個	1	
中間継手	角型FEP φ 100用	個		6		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(角型FEP φ 100用)	個	1	
中間継手	角型FEP φ 75用	個		14		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(角型FEP φ 75用)	個	1	
中間継手	HIVP φ 100用	個		6		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(HIVP φ 100用)	個	1	
中間継手	VP φ 200用	個		4		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(VP φ 200用)	個	1	
中間継手	VP φ 150用	個		5		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(VP φ 150用)	個	1	
中間継手	PV φ 50用	個		11		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(PV φ 50用)	個	1	
中間継手	VE φ 70用	個		6		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(VE φ 70用)	個	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
防水栓	VPφ150用	個		2		< 1 個当り > 防水栓(材料費)(VPφ150用)	個	1	
鞘管固定管 (起点側)	VPφ200用 ボルト固 定	個		4		< 1 個当り > 鞘管固定管設置(VPφ200用) 鞘管固定管(材料費)(起点側 VPφ200用 ボルト固定)	m 個	1.2 1	
鞘管固定管 (終点側)	VPφ200用 ボルト固 定	個		4		< 1 個当り > 鞘管固定管設置(VPφ200用) 鞘管固定管(材料費)(終点側 VPφ200用 ボルト固定)	m 個	1.14 1	
埋設標示シート	W300 2倍	m		607		< 1 m当り > 埋設標示シート(材料費)(W300 2倍)	m	1	
敷砂		m3		16		< 1 m3当り > 埋戻し・締固め 土質=中埋砂;	m3	1	
コンクリート	超速硬コンクリート	m3		2		< 1 m3当り > 超速硬コンクリート打設 超速硬コンクリート(材料費)	m3 m3	1 1	
型枠		m2		5		< 1 m2当り > 型枠 型枠の種類=一般型枠; 構造物の種類=小型構造物;	m2	1	
セラミック防護板	W100 t=7mm	m		21		< 1 m当り > セラミック防護板設置(W100) セラミック防護板(材料費)(W100 t=7mm)	m m	1 1	
エキスバンド [®] メタル	XG14 2枚重ね	m2		11		< 1 m2当り > エキスバンドメタル設置(2枚重ね) エキスバンドメタル(材料費)(XG14)	m2 m2	1 2	
鋼板防護	SS400 t=16mm	m2		4		< 1 m2当り > 鋼板設置(SS400 t=16mm) 鋼板(材料費)(SS400 t=16mm)	m2 m2	1 1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
管路布設工 (夜間)		式		1					
管路受台	φ100-150P HIVP 用	個		687		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ200-300P VP用	個		184		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ150-220P VP用	個		138		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ50-95P PV用	個		548		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ70-130P VE用	個		560		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
プレキャストボックス工(特殊部) (夜間)		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (MN2)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	2	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(MN2)(材料費)(B1350×H1800× L4500(首高 600) 付属金物、調整ブロック含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ100用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ100用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ200用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ150用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 PV φ50用)	個	6	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VE φ70用)	個	4	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎砕石 砕石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 砕石の種類= 再生クワッシュラン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	6.075	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=バックホ(ク ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	1.823	
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正 無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正= 補正無(一般構造物);	t	0.114							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理;	t	0.057	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (MN1-1)	内幅 1.35m/2.15 m 内高 1.8m RC -40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (11000kg超～15000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=4000kgを超え11000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(MN1-1)(材料費)(B1350/2150× H1800×L4500(首高 600) 付属金物、調整ブロック 含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ100用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ75用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ200用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ150用)	個	1	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クラッシュ 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	7.355	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パッド材(ル ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m 3	2.207	
						鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正 無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=	t	0.15	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		補正無(一般構造物); 鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理;	t	0.05	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (MN1)	内幅 1.35m/2.15 m 内高 1.8m RC -40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (11000kg超～15000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=4000kgを超え11000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(MN1)(材料費)(B1350/2150× H1800×L4500(首高 600) 付属金物、調整ブロック 含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 130用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 100用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 75用)	個	11	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ 100用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ 200用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ 150用)	個	3	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎砕石 砕石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 砕石の種類= 再生グラッサン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	7.355	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(ク レ-ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m 3	2.207	
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の	t	0.15							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=補正無(一般構造物)； 鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；	t	0.05	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側)				(当初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (AN1)	内幅 1.2m 内高 1.5m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (1000kg超～4000kg以下)	個	2	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						基礎ブロック設置(調整ブロック含む 200kg超～800kg 以下)	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(AN1)(材料費)(B1200×H1500× L3600(首高 650) 付属金物、調整・基礎ブロック含 む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ100用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ100用)	個	3	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類= 再生グラッサラン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	4.32	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(ク レ-ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	1.08	
						鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正 無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正= 補正無(一般構造物);	t	0.089	
鉄筋工 [市場単価]	t	0.037							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；			

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (TN2)	内幅 1m 内高 1.5m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソール賃料補正係数=標準以外; ラフレソール賃料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(TN2)(材料費)(B1000×H1500×L2200(首高 700) 付属金物、調整ブロック含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ75用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ200用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ150用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 PV φ50用)	個	5	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VE φ70用)	個	2	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類=再生グラッサン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	2.2	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(クレン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	0.55	
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物);	t	0.041							
鉄筋工 [市場単価]	t	0.017							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；			
プレキャストボックス (TN1)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下； ラフレックレン賃料補正係数=標準以外；ラフレックレン賃料補正係数(実数入力)=1.23 無； プレキャストボックス(TN1)(材料費)(B500×H1050×L2000 付属金物含む)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(従来型 VP φ200用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(従来型 VP φ150用)	個	2	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下；	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下；碎石の種類=再生グラッサラン 40～0；費用の内訳=全ての費用；	m ²	1.748	
						モルタル練 セメント種類=高炉；費用の内訳=全ての費用；	m ³	0.044	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (TN3)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40					プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下； ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外；ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無； プレキャストボックス(TN3)(材料費)(B500×H1050× L2000 付属金物含む) ベルマウス(材料費)(従来型 VPφ200用) ベルマウス(材料費)(従来型 VPφ150用) ベルマウス(材料費)(従来型 PVφ50用) 蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下； 蓋(材料費) 基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下；碎石の種類= 再生グラッサン 40～0；費用の内訳=全ての費用； モルタル練 セメント種類=高炉；費用の内訳=全ての費用；	個	1	
		個		1					
舗装工		式		1					
切削オーバーレイ工 (夜間)		式		1					
切削オーバーレイ (切削オーバーレイ(A))	7cmを超え12cm以 下 一層 段差すり つけ無 再生粗粒 度Asポリマー改質 I型(20)DS3000	m2		735		< 1 m2当り > 切削オーバーレイ 平均切削深さ=7cmを超え12cm以下；即日舗設の層数 =一層；すりつけの区分=無；舗装厚(一層目)(実数 入力)=50 mm；アスファルト材料(一層目)=各種；締固め後 密度(一層目)(実数入力)=2.35 t/m3；瀝青材料種類 (一層目)=各種；瀝青材料散布量(一層目)(実数入力)=43 L/100m2；	m2	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
殻運搬(路面切削)	As切削屑	m3		74		< 1 m3当り > 殻運搬(路面切削) DID区間の有無=無し; 運搬距離(km)(DID区間無)=47.0km以下; 費用の内訳=全ての費用;	m3	1	
殻処分	As切削屑	m3		74		< 1 m3当り > 処分費(m3)	m3	1	
排水性舗装工 (車道舗装(A))(夜間)		式		1					
排水性舗装・表層(車道・路肩部)	ポラスAs(13)DS300 0 2.4m以上 舗装厚 50mm	m2		841		< 1 m2当り > 排水性舗装・表層(車道・路肩部) 平均施工幅員=2.4m以上; 1層当り平均仕上り厚(65mm未満)(実数入力)=50mm; 導水パイプの設置=有り; 片側車線数=片側1車線; 材料=各種(2.00t/m3以上2.10t/m3未満); 瀝青材料の規格=タックコート PKR(コム入り);	m2	1	
透水性舗装工 (歩道舗装(A))(夜間)		式		1					
表層	ポラスAs(13) 2.4m以上 舗装厚 40mm	m2		502		< 1 m2当り > 透水性アスファルト舗装 平均幅員=2.4m以上; 1層当り平均仕上り厚(70mm以下)(実数入力)=40mm; 材料=各種(2.00以上2.10t/m3未満);	m2	1	
透水性舗装工 (歩道舗装(B))(夜間)		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
表層	ポ-ラスAs(13) 2.4m以上 舗装厚 50mm	m2		258		< 1 m2当り > 透水性アスファルト舗装 平均幅員=2.4m以上; 1層当り平均仕上り厚(70mm以下)(実数入力)=50 mm; 材料=各種(2.00以上2.10t/m3未満);	m2	1	
アスファルト舗装工 (舗装復旧(A))(夜間)		式		1					
下層路盤(車道・路肩部)	再生クラッシュ RC-40 仕上り厚 200mm	m2		106		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=200 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシュ RC-40; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
上層路盤(車道・路肩部)	粒度調整碎石 M-40 仕上り厚 150mm	m2		106		< 1 m2当り > 上層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150 mm; 施工区分=1層施工; 材料=粒度調整碎石 M-40; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
上層路盤(車道・路肩部)	再生As安定処理(30) 仕上り厚 80mm	m2		106		< 1 m2当り > 上層路盤(車道・路肩部) 材料=路盤材(各種); 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mmを超え100mm以下); 1層当り平均仕上り厚(50mm超100mm以下)(実=80 mm; 瀝青材料種類=プライムコート PK-3; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度Asポリマー改質 I型(20) DS3000 舗装厚 50mm 1.4m未満	m2		106		< 1 m2当り > 基層(車道・路肩部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下); 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=50 mm; 材料=各種(2.30以上2.40t/m3未満); 瀝青材料種類=タックコート(各種); 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
透水性舗装工 (舗装復旧(B))(夜間)		式		1					
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m ²		234		< 1 m ² 当り > フィルター層 平均厚さ=40mm以上60mm未満;	m ²	1	
下層路盤(歩道部) (路盤)	クラッシュラン C-30 仕上り厚 100mm	m ²		234		< 1 m ² 当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=100 mm; 施工区分=1層施工; 材料=クラッシュラン C-30; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	1	
透水性舗装工 (舗装復旧(C))(夜間)		式		1					
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m ²		80		< 1 m ² 当り > フィルター層 平均厚さ=40mm以上60mm未満;	m ²	1	
下層路盤(歩道部) (路盤)	再生クラッシュラン RC-40 仕上り厚 150mm	m ²		80		< 1 m ² 当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシュラン RC-40; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	1	
区画線工		式		1					
区画線工 (夜間)		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
溶融式区画線	溶融式手動 実線 15cm 白色 厚1.5mm 排水性舗装有	m		220		< 1 m当り > 区画線設置 夜間作業の有無=有り； 施工方法区分=溶融式手動； 豪雪補正の有無=無し； 規格・仕様区分=実線 15cm； 時間的制約の有無=無し； 塗布厚=1.5mm； 排水性舗 装に施工する場合の補正=有り； 未供用区間の場合 の補正=無し； 溶融式塗料規格=含有量15～18%； 塗 料区分=白； プライマー規格=アスファルト舗装； 費 用の内訳=全ての費用；	m	1	
排水構造物工		式		1					
排水性舗装用路肩排水工 (夜間)		式		1					
導水管(A)		m		220		< 10 m当り > 導水管(材料費)(樹脂製φ30) 排水性アスファルト合材(夜間単価)(材料費) (ポーラスAs(13)DS3000)	m t	10 0.1	
構造物撤去工		式		1					
構造物取壊し工 (夜間)		式		1					
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下	m		660		< 1 m当り > 舗装版切断 舗装版種別=アスファルト舗装版； アスファルト舗装版厚=15cm以下； 費用の内訳=全ての費用；	m	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cmを超え30cm以下	m		180		< 1 m当り > 舗装版切断 舗装版種別=アスファルト舗装版; アスファルト舗装版厚=15cmを超え30cm以下; 費用の内訳=全ての費用;	m	1	
舗装版破砕	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cm以下	m2		767		< 1 m2当り > 舗装版破砕 舗装版種別=アスファルト舗装版; 障害等の有無=無し; 騒音振動対策=必要; 舗装版厚=15cm以下; 積込作業の有無=有り; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
舗装版破砕	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cmを超え35cm以下	m2		106		< 1 m2当り > 舗装版破砕 舗装版種別=アスファルト舗装版; 障害等の有無=無し; 騒音振動対策=必要; 舗装版厚=15cmを超え35cm以下; 積込作業の有無=有り; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
運搬処理工		式		1					
殻運搬(夜間)	アスファルト殻	m3		52		< 1 m3当り > 殻運搬 殻発生作業=舗装版破砕; 積込工法区分=機械積込(騒音対策不要、厚15cm超)又(騒音対策必要); DID区間の有無=無し; 運搬距離(km)(DID区間無)=60.0km以下; 費用の内訳=全ての費用;	m3	1	
殻処分(夜間)	アスファルト殻	m3		52		< 1 m3当り > 処分費 (m3)	m3	1	
仮設工		式		1					
作業土工(夜間)		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
床掘り	土砂	m3		100		< 1 m3当り > 床掘り 土質=土砂； 施工方法=上記以外(小規模)； 費用の内訳=全ての費用；	m 3	1	
残土処理工		式		1					
整地	残土受入れ地での処理	m3		100		< 1 m3当り > 整地 作業区分=残土受入れ地での処理；	m 3	1	
土砂等運搬 (夜間)		m3		100		< 1 m3当り > 運搬(電線共同溝) 積載区分=土砂； DID区間の有無=有り； 運搬距離(km)(DID区間有)=6.0km以下；	m 3	1	
固結工 (夜間)		式		1					
薬液注入 (MN1 底版)	削孔長4.550m 土被り長3.050m	本		17		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式； セット数=4セット； 液質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.55 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=3.05 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=377 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無； 注入設備据付・解体 注入方式=二重管ストレーナ工法； セット数=4セット； 排水汚泥土処理	本 現場 日	17 1 2	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 (MN1 背面)	削孔長4.550m 土 被り長1.500m	本		40		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.55 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=948 L/本; 水カゝス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	40	
						排水汚泥土処理	日	5	
薬液注入 (MN1-1 底版)	削孔長4.550m 土 被り長3.050m	本		17		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.55 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=3.05 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=377 L/本; 水カゝス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	17	
						注入設備移設	回	1	
						排水汚泥土処理	日	2	
薬液注入 (MN1-1 背面)	削孔長4.550m 土 被り長1.500m	本		40		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.55 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=948 L/本; 水カゝス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	40	
						排水汚泥土処理	日	5	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 (AN1 底版)	削孔長4.250m 土 被り長2.750m	本		12		二重管ストレーナ工法	本	12	
						注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=2.75 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=324 L/本; 水が ^ラ 積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;			
						注入設備移設	回	1	
						排水汚泥土処理	日	1	
薬液注入 (AN1 背面)	削孔長4.250m 土 被り長1.500m	本		37		二重管ストレーナ工法	本	37	
						注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=766 L/本; 水が ^ラ 積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;			
						排水汚泥土処理	日	4	
薬液注入 (TN2 底版)	削孔長4.300m 土 被り長2.800m	本		5		二重管ストレーナ工法	本	5	
						注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.3 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=2.8 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=407 L/本; 水が ^ラ 積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;			
						注入設備移設	回	1	
						排水汚泥土処理	日	0.4	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 (TN2 背面)	削孔長4.300m 土 被り長1.500m	本		28		二重管ストレーナ工法	本	28	
						注入方式=複相方式; セット数=4セット; レ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.3 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=820 L/本; 水ガラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無; 排水汚泥土処理			日
土留・仮締切工 (夜間)		式		1					
簡易土留	H=2.0m	m		79		< 1 m当り >	m	1	
						簡易土留建込工(1.5m<H≤2.0m) 簡易土留引抜工(1.5m<H≤2.0m)			m
簡易土留	H=2.5m	m		7		簡易土留建込工(2.0m<H≤2.5m) 簡易土留引抜工(2.0m<H≤2.5m) 簡易土留材質料(H=2.5m 供用日数107日 転用回数5回)	m	7	
						m	7	m	7
仮舗装工 (仮舗装(A))(夜間)		式		1					
下層路盤(車道・路肩部) (路盤)	再生クラッシュ RC-40 仕上り厚 150mm	m2		106		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシュ RC-40; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
表層(車道・路肩部)	再生粗粒度As(20) 舗装厚 50mm 1.4m未満	m2		106		< 1 m2当り > 表層(車道・路肩部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下); 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=50 mm; 材料=各種(2.30以上2.40t/m3未満); 瀝青材料種類=プライムコート PK-3; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
仮舗装工 (仮舗装(B))(夜間)		式		1					
下層路盤(歩道部) (路盤)	クラッシュラン C-30 仕 上り厚 100mm	m2		314		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=100 mm; 施工区分=1層施工; 材料=クラッシュラン C-30; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1	
表層(歩道部)	再生密粒度As混合物(13) 舗装厚 40 mm 1.4m未満	m2		314		< 1 m2当り > 表層(歩道部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) ; 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=40 m m; 材料=各種(2.20以上2.30t/m3未満); 瀝青材料種類=プライムコート PK-3; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1	
構造物取壊し工 (夜間)		式		1					
舗装版破砕	アスファルト舗装版 舗 装版厚 15cm以下	m2		420		< 1 m2当り > 舗装版破砕 舗装版種別=アスファルト舗装版; 障害等の有無=無し; 騒 音振動対策=必要; 舗装版厚=15cm以下; 積込作業の 有無=有り; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1	
運搬処理工		式		1					
殻運搬 (夜間)	アスファルト殻	m3		18		< 1 m3当り > 運搬(電線共同溝) 積載区分=アスファルト塊; DID区間の有無=無し; 運搬距 離(km)(DID区間無)=60.0km以下;	m 3	1	
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3		18		< 1 m3当り > 処分費(m3)	m 3	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
産廃運搬処理	建設汚泥	m3		54		< 1 m3当り > 汚泥吸排車運搬(DID区間有り 運搬距離L=19.9km以下) 処分費 (m3) 産廃税	m3 m3 m3	1 1 1	
交通管理工				1					
			式						
交通誘導警備員 (夜間)		人日		100		< 1 人日当り > 交通誘導警備員A	人日	1	
交通誘導警備員 (夜間)		人日		400		< 1 人日当り > 交通誘導警備員B	人日	1	
直接工事費		式		1					
共通仮設費		式		1					
共通仮設費		式		1					
運搬費		式		1					
建設機械運搬費		台		2		< 1 台当り > 貨物自動車による運搬(1車1回) 運搬区分=路面切削機(ホイール式・廃材積込装置付) 2.0 m; 片道運搬距離(実数入力)=81.3 km; その他の諸 料金の有無=無; 運搬中の賃料(損料)の有無=有;	台	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
仮設材運搬費		t		11.1		< 1 t当り > 仮設材等(鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等)の運搬 発注機関区分=北海道・東北・北陸・中国・四国・九州； 片道運搬距離(実数入力)=1.7 km；製品長区分=12m 以内；運搬割増率=各種(実数入力)；運搬割増率(実 数入力)=0 無；その他の諸料金の有無=無； 仮設材等の積込み，取卸し費 作業区分=積込み，取卸し(片道分)；	t	1	
技術管理費		式		1					
道路施設基本データ作成費		式		1		道路施設基本データ作成費	式	1	
道路工事完成図作成費		式		1		道路工事完成図作成費	式	1	
現場環境改善費(率計上)		式		1		市街地補正=市街地			
共通仮設費(率計上)		式		1		施工地域補正=一般交通影響有り(1)-1；除雪 工補正=補正無；ICT施工補正=しない；週休2日の 補正=4週8休以上			
純工事費		式		1					
現場管理費		式		1		施工地域補正=一般交通影響有り(1)-1；緊急 工事補正=しない；砂防・地滑り工事補正=しない； ICT施工補正=しない；週休2日の補正=4週8休以 上			

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
工事原価		式		1					
一般管理費等		式		1					
工事価格		式		1					
消費税相当額		式		1					
工事費計		式		1		建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額、労務管理費、安全訓練等に要する費用等）が必要であり、本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。			

見積参考資料（管理費区分一覧表）

凡 例	管理費区分1 共通仮設費のみ非対象 管理費区分9 率計算の非対象		管理費区分2 工場管理費・一般管理費の対象 管理費区分T 処分費等の対象にする		管理費区分5 一般管理費等対象		管理費区分7 間接労務費対象 労務費		
	工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り起点側) (当初)				事業区分	共同溝・電線共同溝		
細別名称		規格	単位	数量	管理費区分 1 管理費区分 T	管理費区分 2	管理費区分 5	管理費区分 7	管理費区分 9
殻処分		アスファルト殻	m3	74	○				
殻処分 (夜間)		アスファルト殻	m3	52	○				
殻処分 (夜間)		アスファルト殻	m3	18	○				
産廃運搬処理		建設汚泥	m3	54	○				○
道路施設基本データ作成費			式	1					○
道路工事完成図作成費			式	1					○

○：該当する管理費区分が含まれている

見 積 参 考 資 料

工 事 名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側)

この「見積参考資料」は入札参加者の適切かつ迅速な見積に資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。従って「見積参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を充分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。

なお、この「見積参考資料」の有効期間は、この工事の入札日までとする。

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

見積参考資料（積算条件）

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側)	(当 初)	主たる工種	C・C・BOX工事
間 接 費 名 称	積 算 条 件			
	補 正 項 目	条 件		
共通仮設費（率計上）	施工地域補正 除雪工事補正	一般交通影響有り（1）－1 補正無		
現場環境改善費（率計上）	市街地補正	市街地		
現場管理費	施工地域補正 施工時期補正 熱中症補正 緊急工事補正 砂防・地滑り補正	一般交通影響有り（1）－1 補正しない 補正しない 補正しない 補正しない		
一般管理費等	財団法人等による補正 前払金割合による補正 契約保証に係る補正	補正しない 35%を超えるもの・補正しない 発注者が金銭的保証を必要とする場合		
その他	ICT施工補正 週休2日の補正	補正しない 4週8休以上		

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
電線共同溝		式		1					
開削土工		式		1					
掘削工 (夜間)		式		1					
開削掘削	土砂	m3		610		< 1 m3当り > 床掘り	m 3	1	
開削掘削(二次掘削)	土砂 特殊部沈下埋設型	m3		70		< 1 m3当り > 床掘り(二次掘削)(特殊部沈下埋設型)	m 3	1	
埋戻し工 (夜間)		式		1					
埋戻し・締固め	土砂	m3		300		< 1 m3当り > 埋戻し・締固め 土質=土砂;	m 3	1	
埋戻し・締固め	中埋砂	m3		160		< 1 m3当り > 埋戻し・締固め 土質=中埋砂;	m 3	1	
残土処理工		式		1					
整地	残土受入れ地での処理	m3		340		< 1 m3当り > 整地 作業区分=残土受入れ地での処理;	m 3	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
土砂等運搬 (夜間)		m3		340		< 1 m3当り > 運搬(電線共同溝) 積載区分=土砂; DID区間の有無=有り; 運搬距離(km) (DID区間有)=6.0km以下;	m3	1	
電線共同溝工		式		1					
管路工(管路部) (夜間)		式		1					
埋設管路	角型FEP φ 130	m		356		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=多条管設置;	m	1	
埋設管路	角型FEP φ 100	m		353		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=多条管設置;	m	1	
埋設管路	角型FEP φ 75	m		607		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=多条管設置;	m	1	
埋設管路	HIVP φ 125	m		82		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=単管設置;	m	1	
埋設管路	HIVP φ 100	m		79		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=単管設置;	m	1	
埋設管路	VP φ 200	m		123		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=ホテイ管(φ200mm)設置 (さや管含む); さや管の条数=標準以外の組合せ(φ 50, φ30使用); さや管(φ50)の条数(標準以外の組 合せ)(実=6本; さや管(φ30)の条数(標準以外の組 合せ)(実=0本;	m	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
埋設管路	VP φ 150	m		139		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=FA管設置；	m	1	
埋設管路	PV φ 50	m		159		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路	VE φ 70	m		45		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	HIVP φ 125	m		83		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	HIVP φ 100	m		84		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	VP φ 200	m		62		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=ホテイ管(φ200mm)設置 (さや管含む)；さや管の条数=標準以外の組合せ(φ 50, φ30使用)；さや管(φ50)の条数(標準以外の組 合せ)(実=6本；さや管(φ30)の条数(標準以外の組 合せ)(実=0本；	m	1	
埋設管路 (EB曲管(R10))	VP φ 150	m		73		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=FA管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	PV φ 50	m		256		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	VE φ 70	m		73		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
埋設管路 (曲管(R6))	VP φ 200	m		7		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=ホテイ管(φ200mm)設置(さや管含む)；さや管の条数=標準以外の組合せ(φ50, φ30使用)；さや管(φ50)の条数(標準以外の組合せ)(実=6本；さや管(φ30)の条数(標準以外の組合せ)(実=0本)；	m	1	
埋設管路 (EB曲管(R6))	VP φ 150	m		7		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=FA管設置；	m	1	
中間継手	角型FEP φ 130用	個		6		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(角型FEP φ 130用)	個	1	
中間継手	角型FEP φ 100用	個		10		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(角型FEP φ 100用)	個	1	
中間継手	角型FEP φ 75用	個		12		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(角型FEP φ 75用)	個	1	
中間継手	HIVP φ 125用	個		4		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(HIVP φ 125用)	個	1	
中間継手	HIVP φ 100用	個		6		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(HIVP φ 100用)	個	1	
中間継手	VP φ 200用	個		4		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(VP φ 200用)	個	1	
中間継手	VP φ 150用	個		4		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(VP φ 150用)	個	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
中間継手	PV φ50用	個		14		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(PV φ50用)	個	1	
中間継手	VE φ70用	個		4		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(VE φ70用)	個	1	
防水栓	VP φ150用	個		2		< 1 個当り > 防水栓(材料費)(VP φ150用)	個	1	
鞘管固定管 (起点側)	VP φ200用 ボルト固定	個		4		< 1 個当り > 鞘管固定管設置(VP φ200用) 鞘管固定管(材料費)(起点側 VP φ200用 ボルト固定)	m 個	1.2 1	
鞘管固定管 (終点側)	VP φ200用 ボルト固定	個		4		< 1 個当り > 鞘管固定管設置(VP φ200用) 鞘管固定管(材料費)(終点側 VP φ200用 ボルト固定)	m 個	1.14 1	
埋設標示シート	W300 2倍	m		580		< 1 m当り > 埋設標示シート(材料費)(W300 2倍)	m	1	
敷砂		m3		16		< 1 m3当り > 埋戻し・締固め 土質=中埋砂;	m3	1	
コンクリート	超速硬コンクリート	m3		2		< 1 m3当り > 超速硬コンクリート打設 超速硬コンクリート(材料費)	m3 m3	1 1	
型枠		m2		4		< 1 m2当り > 型枠 型枠の種類=一般型枠; 構造物の種類=小型構造物;	m2	1	
セラミック防護板	W100 t=7mm	m		15		< 1 m当り > セラミック防護板設置(W100) セラミック防護板(材料費)(W100 t=7mm)	m m	1 1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
エキスパンドメタル	XG14 2枚重ね	m2		11		< 1 m2当り > エキスパンドメタル設置(2枚重ね) エキスパンドメタル(材料費)(XG14)	m2 m2	1 2	
鋼板防護	SS400 t=16mm	m2		7		< 1 m2当り > 鋼板設置(SS400 t=16mm) 鋼板(材料費)(SS400 t=16mm)	m2 m2	1 1	
管路布設工 (夜間)		式		1					
管路受台	φ125-250P HIVP 用	個		274		< 1 個当り > 管路受台(スペーサ)(材料費)	個	1	
管路受台	φ100-150P HIVP 用	個		273		< 1 個当り > 管路受台(スペーサ)(材料費)	個	1	
管路受台	φ200-300P VP用	個		245		< 1 個当り > 管路受台(スペーサ)(材料費)	個	1	
管路受台	φ150-220P VP用	個		136		< 1 個当り > 管路受台(スペーサ)(材料費)	個	1	
管路受台	φ50-95P PV用	個		569		< 1 個当り > 管路受台(スペーサ)(材料費)	個	1	
管路受台	φ70-130P VE用	個		323		< 1 個当り > 管路受台(スペーサ)(材料費)	個	1	
プレキャストボックス工(特殊部) (夜間)		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)				工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項		
						名称	単位	数量
プレキャストボックス (MS2)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	2
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレンクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレンクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1
						集水釜設置	箇所	1
						プレキャストボックス(MS2)(材料費)(B1350×H1800× L4500(首高 300) 付属金物、調整ブロック含む)	基	1
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ130用)	個	2
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ100用)	個	2
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ75用)	個	3
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ125用)	個	2
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ100用)	個	2
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ200用)	個	1
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ150用)	個	2
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 PV φ50用)	個	7
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VE φ70用)	個	2
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1
						蓋(材料費)	組	1
基礎砕石 砕石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 砕石の種類= 再生クワッチェン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	6.075						
コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(ク レン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	1.823						
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の	t	0.114						

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=補正無(一般構造物)； 鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；	t	0.057	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)				工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項		
						名称	単位	数量
プレキャストボックス (MS3)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	2
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1
						集水釜設置	箇所	1
						プレキャストボックス(MS3)(材料費)(B1350×H1800× L4500(首高 300) 付属金物、調整ブロック含む)	基	1
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ130用)	個	2
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ100用)	個	2
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ75用)	個	3
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ125用)	個	2
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ100用)	個	2
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ200用)	個	1
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ150用)	個	1
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 PV φ50用)	個	7
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VE φ70用)	個	2
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1
						蓋(材料費)	組	1
基礎砕石 砕石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 砕石の種類= 再生クワッチャン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	6.075						
コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(ク レン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	1.823						
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の	t	0.114						

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=補正無(一般構造物)； 鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トソ内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；	t	0.057	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (MS1)	内幅 1.35m/2.15 m 内高 1.8m RC -40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (11000kg超～15000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=4000kgを超え11000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(MS1)(材料費)(B1350/2150× H1800×L4500(首高 600) 付属金物、調整ブロック 含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 130用)	個	6	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 100用)	個	4	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 75用)	個	11	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ 200用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ 150用)	個	3	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クワッチャン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	7.355	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(ク レ-ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m 3	2.207	
						鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 大径鉄筋補正=補正	t	0.15	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); 鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理;	t	0.05	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (MS1-1)	内幅 1.35m/2.15m 内高 1.8m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (11000kg超～15000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=4000kgを超え11000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(MS1-1)(材料費)(B1350/2150×H1800×L4500(首高 700) 付属金物、調整ブロック含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ130用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ100用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ75用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ200用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ150用)	個	1	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類=再生クワッシュラン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	7.355	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(クレン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m 3	2.207	
						鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 大径鉄筋補正=補正	t	0.15	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
		個		1		無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); 鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理;	t	0.05	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (AS1)	内幅 1.2m 内高 1.5m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (1000kg超～4000kg以下)	個	2	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソール賃料補正係数=標準以外; ラフレソール賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						基礎ブロック設置(調整ブロック含む 200kg超～800kg 以下)	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(AS1)(材料費)(B1200×H1500× L3600(首高 700) 付属金物、調整・基礎ブロック含 む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 130用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 100用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ 125用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ 100用)	個	2	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クラッシュ 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	4.32	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パッド材(ク レ-ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	1.08	
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正 無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=	t	0.089							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
		個		1		補正無(一般構造物); 鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理;	t	0.037	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (TS2)	内幅 1m 内高 1.5m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソール賃料補正係数=標準以外; ラフレソール賃料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(TS2)(材料費)(B1000×H1500×L2200(首高 300) 付属金物、調整ブロック含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ75用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ200用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ150用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 PV φ50用)	個	7	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VE φ70用)	個	2	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類=再生グラッサラン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	2.2	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(クレン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	0.55	
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物);	t	0.041							
鉄筋工 [市場単価]	t	0.017							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事															
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項																
						名称	単位	数量														
		個		1		鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；																
プレキャストボックス (TS1)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下； ラフレックレン賃料補正係数=標準以外；ラフレックレン賃料補正係数(実数入力)=1.23 無； プレキャストボックス(TS1)(材料費)(B500×H1050×L2000 付属金物含む) ベルマウス(材料費)(従来型 VP φ200用) ベルマウス(材料費)(従来型 VP φ150用) 蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下； 蓋(材料費) 基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下；碎石の種類=再生グラッサラン 40～0；費用の内訳=全ての費用； モルタル練 セメント種類=高炉；費用の内訳=全ての費用；	個	1	基	1	個	2	個	2	組	1	組	1	m ²	1.748	m ³	0.044
		個		1																		

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (BS1-1)	内幅 0.6m 内高 0.475m RC-40	個		1		プレキャストボックスブロック設置	個	1	
						ボックスブロック1個当り質量=1000kg以下; ラフテレンクレン賃料補正係数=標準以外; ラフテレンクレン賃料補正係数(実数入力)=1.23 無;			
						プレキャストボックス(BS1-1)(材料費)(B600×H475×L1200 付属金物含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(従来型 角型FEPφ100用)	個	2	
						蓋設置	組	1	
						蓋1組当り質量=200kg以下;			
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石	m 2	1.183	
						碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシュ 40~0; 費用の内訳=全ての費用;			
						モルタル練	m 3	0.029	
						セメント種類=高炉; 費用の内訳=全ての費用;			
プレキャストボックス (BS1)	内幅 0.6m 内高 0.475m RC-40	個		1		プレキャストボックスブロック設置	個	1	
						ボックスブロック1個当り質量=1000kg以下; ラフテレンクレン賃料補正係数=標準以外; ラフテレンクレン賃料補正係数(実数入力)=1.23 無;			
						プレキャストボックス(BS1)(材料費)(B600×H475×L1200 付属金物含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(従来型 角型FEPφ100用)	個	2	
						蓋設置	組	1	
						蓋1組当り質量=200kg以下;			
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石	m 2	1.183	
						碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシュ 40~0; 費用の内訳=全ての費用;			
						モルタル練	m 3	0.029	
						セメント種類=高炉; 費用の内訳=全ての費用;			

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (BS2)	内幅 0.6m 内高 0.475m RC-40	個				プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kg以下; ラフレンクレン賃 料補正係数=標準以外; ラフレンクレン賃料補正係数(実 数入力)=1.23 無; プレキャストボックス(BS2)(材料費)(B600×H475 ×L1200 付属金物含む) ベルマウス(材料費)(従来型 HIVP φ100用) 蓋設置 蓋1組当り質量=200kg以下; 蓋(材料費) 基礎砕石 砕石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 砕石の種類= 再生クラッシュ 40~0; 費用の内訳=全ての費用; モルタル練 セメント種類=高炉; 費用の内訳=全ての費用;	個	1	
			基	1					
			個	2					
			組	1					
			組	1					
		m2	1.183						
		m3	0.029						
舗装工		式		1					
切削オーバーレイ工 (夜間)		式		1					
切削オーバーレイ (切削オーバーレイ(A))	7cmを超え12cm以 下 一層 段差すり つけ無 再生粗粒 度Asポリマー改質 I型(20)DS3000	m2		1,010		< 1 m2当り > 切削オーバーレイ 平均切削深さ=7cmを超え12cm以下; 即日舗設の層数 =一層; すりつけの区分=無; 舗装厚(一層目)(実数 入力)=50 mm; アスファルト材料(一層目)=各種; 締固め後 密度(一層目)(実数入力)=2.35 t/m3; 瀝青材料種類 (一層目)=各種; 瀝青材料散布量(一層目)(実数入力)=43 L/100m2;	m2	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
殻運搬(路面切削)	As切削屑	m3		102		< 1 m3当り > 殻運搬(路面切削) DID区間の有無=無し; 運搬距離(km)(DID区間無)=47.0km以下; 費用の内訳=全ての費用;	m3	1	
殻処分	As切削屑	m3		102		< 1 m3当り > 処分費(m3)	m3	1	
排水性舗装工 (車道舗装(A))(夜間)		式		1					
排水性舗装・表層(車道・路肩部)	ポ-ラスAs(13)DS300 0 2.4m以上 舗装厚 50mm	m2		1,130		< 1 m2当り > 排水性舗装・表層(車道・路肩部) 平均施工幅員=2.4m以上; 1層当り平均仕上り厚(65mm未満)(実数入力)=50mm; 導水パイプの設置=有り; 片側車線数=片側1車線; 材料=各種(2.00t/m3以上2.10t/m3未満); 瀝青材料の規格=タックコート PKR(コ-ム入り);	m2	1	
透水性舗装工 (歩道舗装(A))(夜間)		式		1					
表層	ポ-ラスAs(13) 2.4m以上 舗装厚 40mm	m2		329		< 1 m2当り > 透水性アスファルト舗装 平均幅員=2.4m以上; 1層当り平均仕上り厚(70mm以下)(実数入力)=40mm; 材料=各種(2.00以上2.10t/m3未満);	m2	1	
透水性舗装工 (歩道舗装(B))(夜間)		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
表層	ポ-ラスAs(13) 2.4m以上 舗装厚 50mm	m2		264		< 1 m2当り > 透水性アスファルト舗装 平均幅員=2.4m以上; 1層当り平均仕上り厚(70mm以下)(実数入力)=50 mm; 材料=各種(2.00以上2.10t/m3未満);	m 2	1	
アスファルト舗装工(舗装復旧(A))(夜間)		式		1					
下層路盤(車道・路肩部)	再生クラッシュ RC-40 仕上り厚 200mm	m2		113		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=200 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシュ RC-40; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1	
上層路盤(車道・路肩部)	粒度調整碎石 M-40 仕上り厚 150mm	m2		113		< 1 m2当り > 上層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150 mm; 施工区分=1層施工; 材料=粒度調整碎石 M-40; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1	
上層路盤(車道・路肩部)	再生As安定処理(30) 仕上り厚 80mm	m2		113		< 1 m2当り > 上層路盤(車道・路肩部) 材料=路盤材(各種); 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mmを超え100mm以下); 1層当り平均仕上り厚(50mm超100mm以下)(実=80 mm; 瀝青材料種類=プライムコート PK-3; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1	
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度Asポリマー改質 I型(20) DS3000 舗装厚 50mm 1.4m未満	m2		113		< 1 m2当り > 基層(車道・路肩部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下); 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=50 mm; 材料=各種(2.30以上2.40t/m3未満); 瀝青材料種類=タックコート(各種); 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
透水性舗装工 (舗装復旧(B))(夜間)		式		1					
フィルター層	砂 仕上り厚 50m m	m2		237		< 1 m2当り > フィルター層 平均厚さ=40mm以上60mm未満;	m 2	1	
下層路盤(歩道部) (路盤)	クラッシュラン C-30 仕 上り厚 100mm	m2		237		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=100 mm; 施工区分=1層施工; 材料=クラッシュラン C-30; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1	
透水性舗装工 (舗装復旧(C))(夜間)		式		1					
フィルター層	砂 仕上り厚 50m m	m2		80		< 1 m2当り > フィルター層 平均厚さ=40mm以上60mm未満;	m 2	1	
下層路盤(歩道部) (路盤)	再生クラッシュラン RC-4 0 仕上り厚 150m m	m2		80		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシュラン RC-40; 費用の内訳=全ての費用 ;	m 2	1	
区画線工		式		1					
区画線工 (夜間)		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
溶融式区画線	溶融式手動 実線 15cm 白色 厚1.5mm 排水性舗装有	m		220		< 1 m当り > 区画線設置 夜間作業の有無=有り； 施工方法区分=溶融式手動； 豪雪補正の有無=無し； 規格・仕様区分=実線 15cm； 時間的制約の有無=無し； 塗布厚=1.5mm； 排水性舗 装に施工する場合の補正=有り； 未供用区間の場合 の補正=無し； 溶融式塗料規格=含有量15～18%； 塗 料区分=白； プライマー規格=アスファルト舗装； 費 用の内訳=全ての費用；	m	1	
排水構造物工		式		1					
排水性舗装用路肩排水工 (夜間)		式		1					
導水管(A)		m		220		< 10 m当り > 導水管(材料費)(樹脂製φ30) 排水性アスファルト合材(夜間単価)(材料費) (ポーラスAs(13)DS3000)	m t	10 0.1	
構造物撤去工		式		1					
構造物取壊し工 (夜間)		式		1					
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下	m		610		< 1 m当り > 舗装版切断 舗装版種別=アスファルト舗装版； アスファルト舗装版厚=15cm以下； 費用の内訳=全ての費用；	m	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cmを超え30cm以下	m		190		< 1 m当り > 舗装版切断 舗装版種別=アスファルト舗装版; アスファルト舗装版厚=15cmを超え30cm以下; 費用の内訳=全ての費用;	m	1	
舗装版破砕	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cm以下	m2		610		< 1 m2当り > 舗装版破砕 舗装版種別=アスファルト舗装版; 障害等の有無=無し; 騒音振動対策=必要; 舗装版厚=15cm以下; 積込作業の有無=有り; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
舗装版破砕	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cmを超え35cm以下	m2		113		< 1 m2当り > 舗装版破砕 舗装版種別=アスファルト舗装版; 障害等の有無=無し; 騒音振動対策=必要; 舗装版厚=15cmを超え35cm以下; 積込作業の有無=有り; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
運搬処理工		式		1					
殻運搬 (夜間)	アスファルト殻	m3		47		< 1 m3当り > 殻運搬 殻発生作業=舗装版破砕; 積込工法区分=機械積込(騒音対策不要、厚15cm超)又(騒音対策必要); DID区間の有無=無し; 運搬距離(km)(DID区間無)=60.0km以下; 費用の内訳=全ての費用;	m3	1	
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3		47		< 1 m3当り > 処分費 (m3)	m3	1	
仮設工		式		1					
作業土工 (夜間)		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
床掘り	土砂	m3		110		< 1 m3当り > 床掘り 土質=土砂；施工方法=上記以外(小規模)；費用の内訳=全ての費用；	m3	1	
残土処理工		式		1					
整地	残土受入れ地での処理	m3		110		< 1 m3当り > 整地 作業区分=残土受入れ地での処理；	m3	1	
土砂等運搬 (夜間)		m3		110		< 1 m3当り > 運搬(電線共同溝) 積載区分=土砂；DID区間の有無=有り；運搬距離(km)(DID区間有)=6.0km以下；	m3	1	
固結工 (夜間)		式		1					
薬液注入 (MS1-1 底版)	削孔長4.650m 土被り長3.150m	本		17		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式；セツト数=4セツト；液質土の削孔長(実数入力)=0 m；砂質土の削孔長(実数入力)=4.65 m；粘性土の削孔長(実数入力)=0 m；土被り長(L2)(実数入力)=3.15 m；1本当り注入量(QS)(実数入力)=377 L/本；水がラス積算流量計の有無=無；特許料の有無=無； 注入設備据付・解体 注入方式=二重管ストレーナ工法；セツト数=4セツト； 排水汚泥土処理	本 現場 日	17 1 2	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 (MS1-1 背面)	削孔長4.650m 土 被り長1.500m	本		40		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.65 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=979 L/本; 水カゝス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	40	
						排水汚泥土処理	日	5	
薬液注入 (MS1 底版)	削孔長4.550m 土 被り長3.050m	本		17		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.55 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=3.05 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=377 L/本; 水カゝス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	17	
						注入設備移設	回	1	
						排水汚泥土処理	日	2	
薬液注入 (MS1 背面)	削孔長4.550m 土 被り長1.500m	本		40		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.55 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=948 L/本; 水カゝス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	40	
						排水汚泥土処理	日	5	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 (MS2 底版)	削孔長4.250m 土 被り長2.750m	本		13		二重管ストレーナ工法	本	13	
						注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=2.75 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=422 L/本; 水が ^ラ 積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;			
						注入設備移設	回	1	
						排水汚泥土処理	日	1	
薬液注入 (MS2 背面)	削孔長4.250m 土 被り長1.500m	本		40		二重管ストレーナ工法	本	40	
						注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=802 L/本; 水が ^ラ 積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;			
						排水汚泥土処理	日	5	
薬液注入 (AS1 底版)	削孔長4.300m 土 被り長2.800m	本		12		二重管ストレーナ工法	本	12	
						注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.3 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=2.8 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=324 L/本; 水が ^ラ 積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;			
						注入設備移設	回	1	
						排水汚泥土処理	日	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 (AS1 背面)	削孔長4.300m 土 被り長1.500m	本		37		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.3 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=780 L/本; 水が ^ろ 積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無; 排水汚泥土処理	本	37	
薬液注入 (TS2 底版)	削孔長3.900m 土 被り長2.400m	本		5		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=3.9 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=2.4 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=407 L/本; 水が ^ろ 積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無; 注入設備移設 注入方式=二重管ストレーナ工法; セット数=4セット; 排水汚泥土処理	本	5	
薬液注入 (TS2 背面)	削孔長3.900m 土 被り長1.500m	本		28		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=3.9 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=703 L/本; 水が ^ろ 積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無; 排水汚泥土処理	本	28	
土留・仮締切工 (夜間)		式		1					
簡易土留	H=2.0m	m		146		< 1 m当り > 簡易土留建込工(1.5m<H≤2.0m) 簡易土留引抜工(1.5m<H≤2.0m)	m	1	
							m	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
簡易土留	H=2.5m	m		14		< 1 m当り > 簡易土留建込工(2.0m<H≤2.5m) 簡易土留引抜工(2.0m<H≤2.5m)	m m	1 1	
簡易土留	H=3.0m	m		3		簡易土留建込工(2.5m<H≤3.0m) 簡易土留引抜工(2.5m<H≤3.0m) 簡易土留材質料(H=3.0m供用日数115日 転用回数8回)	m m m	3 3 15	
仮舗装工 (仮舗装(A))(夜間)		式		1					
下層路盤(車道・路肩部) (路盤)	再生クラッシュ RC-40 仕上り厚 150mm	m ²		113		< 1 m ² 当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシュ RC-40; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	1	
表層(車道・路肩部)	再生粗粒度As(20) 舗装厚 50mm 1.4m未満	m ²		113		< 1 m ² 当り > 表層(車道・路肩部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下); 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=50mm; 材料=各種(2.30以上2.40t/m ³ 未満); 瀝青材料種類=プライムコート PK-3; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	1	
仮舗装工 (仮舗装(B))(夜間)		式		1					
下層路盤(歩道部) (路盤)	クラッシュ C-30 仕上り厚 100mm	m ²		316		< 1 m ² 当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=100mm; 施工区分=1層施工; 材料=クラッシュ C-30; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
表層(歩道部)	再生密粒度As混合物(13) 舗装厚 40mm 1.4m未満	m2		316		< 1 m2当り > 表層(歩道部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) ; 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=40mm; 材料=各種(2.20以上2.30t/m3未満); 瀝青材料種類=プライムコート PK-3; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
構造物取壊し工(夜間)		式		1					
舗装版破砕	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cm以下	m2		429		< 1 m2当り > 舗装版破砕 舗装版種別=アスファルト舗装版; 障害等の有無=無し; 騒音振動対策=必要; 舗装版厚=15cm以下; 積込作業の有無=有り; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
運搬処理工		式		1					
殻運搬(夜間)	アスファルト殻	m3		18		< 1 m3当り > 運搬(電線共同溝) 積載区分=アスファルト塊; DID区間の有無=無し; 運搬距離(km)(DID区間無)=60.0km以下;	m3	1	
殻処分(夜間)	アスファルト殻	m3		18		< 1 m3当り > 処分費(m3)	m3	1	
産廃運搬処理	建設汚泥	m3		68		< 1 m3当り > 汚泥吸排車運搬(DID区間有り 運搬距離L=19.9km以下) 処分費(m3) 産廃税	m3 m3 m3	1 1 1	
交通管理工		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
交通誘導警備員 (夜間)		人日		100		< 1 人日当り > 交通誘導警備員A	人日	1	
交通誘導警備員 (夜間)		人日		400		< 1 人日当り > 交通誘導警備員B	人日	1	
直接工事費		式		1					
共通仮設費		式		1					
共通仮設費		式		1					
運搬費		式		1					
建設機械運搬費		台		2		< 1 台当り > 貨物自動車による運搬 (1車1回) 運搬区分=路面切削機(ホイール式・廃材積込装置付) 2.0 m; 片道運搬距離(実数入力)=81.3 km; その他の諸料金の有無=無; 運搬中の賃料(損料)の有無=有;	台	1	
仮設材運搬費		t		13.7		< 1 t当り > 仮設材等(鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等)の運搬 発注機関区分=北海道・東北・北陸・中国・四国・九州; 片道運搬距離(実数入力)=1.7 km; 製品長区分=12m以内; 運搬割増率=各種(実数入力); 運搬割増率(実数入力)=0 無; その他の諸料金の有無=無; 仮設材等の積込み, 取卸し費 作業区分=積込み, 取卸し(片道分);	t	1	
							t	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
技術管理費		式		1					
道路施設基本データ作成費		式		1		道路施設基本データ作成費	式	1	
道路工事完成図作成費		式		1		道路工事完成図作成費	式	1	
現場環境改善費(率計上)		式		1		市街地補正=市街地			
共通仮設費(率計上)		式		1		施工地域補正=一般交通影響有り(1)-1; 除雪工補正=補正無; ICT施工補正=しない; 週休2日の補正=4週8休以上			
純工事費		式		1					
現場管理費		式		1		施工地域補正=一般交通影響有り(1)-1; 緊急工事補正=しない; 砂防・地滑り工事補正=しない; ICT施工補正=しない; 週休2日の補正=4週8休以上			
工事原価		式		1					
一般管理費等		式		1					
工事価格		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
消費税相当額		式		1					
工事費計		式		1		建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額、労務管理費、安全訓練等に要する費用等）が必要であり、本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。			

見積参考資料（管理費区分一覧表）

凡 例	管理費区分1 共通仮設費のみ非対象 管理費区分9 率計算の非対象	管理費区分2 工場管理費・一般管理費の対象 管理費区分T 処分費等の対象にする	管理費区分5 一般管理費等対象	管理費区分7 間接労務費対象 労務費					
	○：該当する管理費区分が含まれている								
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り起点側) (当初)				事業区分	共同溝・電線共同溝			
細別名称	規格	単位	数量	管理費区分 1 管理費区分 T	管理費区分 2	管理費区分 5	管理費区分 7	管理費区分 9	
殻処分	アスファルト殻	m3	102	○					
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3	47	○					
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3	18	○					
産廃運搬処理	建設汚泥	m3	68	○				○	
道路施設基本データ作成費		式	1					○	
道路工事完成図作成費		式	1					○	

見 積 参 考 資 料

工 事 名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側)

この「見積参考資料」は入札参加者の適切かつ迅速な見積に資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。従って「見積参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を充分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。

なお、この「見積参考資料」の有効期間は、この工事の入札日までとする。

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

見積参考資料（積算条件）

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側)	(当 初)	主たる工種	C・C・BOX工事
間 接 費 名 称		積 算 条 件		
		補 正 項 目	条 件	
共通仮設費（率計上）	施工地域補正 除雪工事補正	市街地（D I D補正）（1）－1 補正無		
現場環境改善費（率計上）	市街地補正	市街地		
現場管理費	施工地域補正 施工時期補正 熱中症補正 緊急工事補正 砂防・地滑り補正	市街地（D I D補正）（1）－1 補正しない 補正しない 補正しない 補正しない		
一般管理費等	財団法人等による補正 前払金割合による補正 契約保証に係る補正	補正しない 35%を超えるもの・補正しない 発注者が金銭的保証を必要とする場合		
その他	I C T施工補正 週休2日の補正	補正しない 4週8休以上		

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
電線共同溝		式		1					
開削土工		式		1					
掘削工 (夜間)		式		1					
開削掘削	土砂	m3		560		< 1 m3当り > 床掘り	m3	1	
開削掘削(二次掘削)	土砂 特殊部沈下埋設型	m3		50		< 1 m3当り > 床掘り(二次掘削)(特殊部沈下埋設型)	m3	1	
埋戻し工 (夜間)		式		1					
埋戻し・締固め	土砂	m3		290		< 1 m3当り > 埋戻し・締固め 土質=土砂;	m3	1	
埋戻し・締固め	中埋砂	m3		150		< 1 m3当り > 埋戻し・締固め 土質=中埋砂;	m3	1	
残土処理工		式		1					
整地	残土受入れ地での処理	m3		290		< 1 m3当り > 整地 作業区分=残土受入れ地での処理;	m3	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
土砂等運搬 (夜間)		m ³		290		< 1 m ³ 当り > 運搬(電線共同溝) 積載区分=土砂; DID区間の有無=有り; 運搬距離(km) (DID区間有)=6.0km以下;	m ³	1	
電線共同溝工		式		1					
管路工(管路部) (夜間)		式		1					
埋設管路	角型FEP φ 130	m		22		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=多条管設置;	m	1	
埋設管路	角型FEP φ 100	m		634		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=多条管設置;	m	1	
埋設管路	角型FEP φ 75	m		587		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=多条管設置;	m	1	
埋設管路	HIVP φ 100	m		48		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=単管設置;	m	1	
埋設管路	VP φ 200	m		113		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=ホテイ管(φ 200mm)設置 (さや管含む); さや管の条数=標準以外の組合せ(φ 50, φ 30使用); さや管(φ 50)の条数(標準以外の組 合せ)(実=4本; さや管(φ 30)の条数(標準以外の組 合せ)(実=0本);	m	1	
埋設管路	VP φ 150	m		150		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=FA管設置;	m	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
埋設管路	PV φ 50	m		135		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路	VE φ 70	m		110		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	HIVP φ 100	m		55		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	VP φ 200	m		55		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=ホテイ管(φ200mm)設置 (さや管含む)；さや管の条数=標準以外の組合せ(φ 50, φ30使用)；さや管(φ50)の条数(標準以外の組 合せ)(実=4本；さや管(φ30)の条数(標準以外の組 合せ)(実=0本；	m	1	
埋設管路 (EB曲管(R10))	VP φ 150	m		74		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=FA管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	PV φ 50	m		202		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	VE φ 70	m		81		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R6))	HIVP φ 100	m		35		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (EB曲管(R6))	VP φ 150	m		4		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=FA管設置；	m	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
埋設管路 (曲管(R6))	PV φ 50	m		80		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R6))	VE φ 70	m		32		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
中間継手	角型FEP φ 130用	個		2		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(角型FEP φ 130用)	個	1	
中間継手	角型FEP φ 100用	個		8		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(角型FEP φ 100用)	個	1	
中間継手	角型FEP φ 75用	個		21		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(角型FEP φ 75用)	個	1	
中間継手	HIVP φ 100用	個		6		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(HIVP φ 100用)	個	1	
中間継手	VP φ 200用	個		4		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(VP φ 200用)	個	1	
中間継手	VP φ 150用	個		5		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(VP φ 150用)	個	1	
中間継手	PV φ 50用	個		11		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(PV φ 50用)	個	1	
中間継手	VE φ 70用	個		6		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(VE φ 70用)	個	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
防水栓	VPφ150用	個		2		< 1 個当り > 防水栓(材料費)(VPφ150用)	個	1	
鞘管固定管 (起点側)	VPφ200用 ボルト固定	個		4		< 1 個当り > 鞘管固定管設置(VPφ200用) 鞘管固定管(材料費)(起点側 VPφ200用 ボルト固定)	m 個	1.2 1	
鞘管固定管 (終点側)	VPφ200用 ボルト固定	個		4		< 1 個当り > 鞘管固定管設置(VPφ200用) 鞘管固定管(材料費)(終点側 VPφ200用 ボルト固定)	m 個	1.14 1	
埋設標示シート	W300 2倍	m		618		< 1 m当り > 埋設標示シート(材料費)(W300 2倍)	m	1	
敷砂		m3		15		< 1 m3当り > 埋戻し・締固め 土質=中埋砂;	m3	1	
コンクリート	超速硬コンクリート	m3		2		< 1 m3当り > 超速硬コンクリート打設 超速硬コンクリート(材料費)	m3 m3	1 1	
型枠		m2		4		< 1 m2当り > 型枠 型枠の種類=一般型枠; 構造物の種類=小型構造物;	m2	1	
セラミック防護板	W100 t=7mm	m		14		< 1 m当り > セラミック防護板設置(W100) セラミック防護板(材料費)(W100 t=7mm)	m m	1 1	
エキスバンド [®] メタル	XG14 2枚重ね	m2		8		< 1 m2当り > エキスバンドメタル設置(2枚重ね) エキスバンドメタル(材料費)(XG14)	m2 m2	1 2	
鋼板防護	SS400 t=16mm	m2		3		< 1 m2当り > 鋼板設置(SS400 t=16mm) 鋼板(材料費)(SS400 t=16mm)	m2 m2	1 1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
管路布設工 (夜間)		式		1					
管路受台	φ100-150P HIVP 用	個		260		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ200-300P VP用	個		209		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ150-220P VP用	個		138		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ50-95P PV用	個		580		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ70-130P VE用	個		559		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
プレキャストボックス工(特殊部) (夜間)		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (MN3)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	2	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(MN3)(材料費)(B1350×H1800× L4500(首高 300) 付属金物、調整ブロック含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ100用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ100用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ200用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ150用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 PV φ50用)	個	6	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VE φ70用)	個	4	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎砕石 砕石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 砕石の種類= 再生クラッシュ 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	6.075	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=バックホ(ク ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	1.823	
						鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正 無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正= 補正無(一般構造物);	t	0.114	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
		個		1		鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理;	t	0.057	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (MN5)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	2	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソール賃料補正係数=標準以外; ラフレソール賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(MN5)(材料費)(B1350×H1800× L4500(首高 800) 付属金物、調整ブロック含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ100用)	個	9	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ75用)	個	17	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ200用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ150用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 PV φ75用)	個	3	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類= 再生グラッサン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	6.075	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(ク レ-ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	1.823	
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正 無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正= 補正無(一般構造物);	t	0.114							
鉄筋工 [市場単価]	t	0.057							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；			

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (MN4)	内幅 1.35m/2.15 m 内高 1.8m RC -40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (11000kg超～15000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=4000kgを超え11000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(MN4)(材料費)(B1350/2150× H1800×L4500(首高 700) 付属金物、調整ブロック 含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 130用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 100用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 75用)	個	9	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ 100用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ 200用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ 150用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 PV φ 50用)	個	5	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VE φ 70用)	個	2	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クワッシュン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	7.355							
コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(ク レ-ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m 3	2.207							
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分=	t	0.15							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=補正無(一般構造物)； 鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；	t	0.05	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (AN2)	内幅 1.2m 内高 1.5m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						基礎ブロック設置(調整ブロック含む 200kg超～800kg 以下)	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(AN2)(材料費)(B1200×H1500× L1800(首高 255) 付属金物、調整・基礎ブロック含 む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ100用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ100用)	個	3	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類= 再生グラッサラン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	2.16	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=バック材(ク レ-ン機能付)打設; コンクリ-ト規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	0.54	
						鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正 無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正= 補正無(一般構造物);	t	0.05	
						鉄筋工 [市場単価]	t	0.017	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；			

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (TN5)	内幅 1m 内高 1.5m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(TN5)(材料費)(B1000×H1500× L2200(首高 550) 付属金物、調整ブロック含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ75用)	個	6	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ200用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ150用)	個	2	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クラッシュ 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	2.2	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=バックホ(ク ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	0.55	
						鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 大径鉄筋補正=補正 無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正= 補正無(一般構造物);	t	0.041	
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け	t	0.017							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事																	
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項																		
						名称	単位	数量																
		個		1		る場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無（鉄筋割合10%未満含む）；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；																		
プレキャストボックス (TN4)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下； ラフレックレン賃料補正係数=標準以外；ラフレックレン賃料補正係数(実数入力)=1.23 無； プレキャストボックス (TN4) (材料費) (B500×H1050×L2000 付属金物含む) ベルマウス(材料費) (従来型 VP φ200用) ベルマウス(材料費) (従来型 VP φ150用) ベルマウス(材料費) (従来型 PV φ50用) 蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下； 蓋 (材料費) 基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下；碎石の種類=再生グラッサラン 40～0；費用の内訳=全ての費用； モルタル練 セメント種類=高炉；費用の内訳=全ての費用；	個	1	基	1	個	1	個	2	個	4	組	1	組	1	m 2	1.748	m 3	0.044
		個		1																				

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事															
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項																
						名称	単位	数量														
プレキャストボックス (TN6)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下； ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外；ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無； プレキャストボックス(TN6)(材料費)(B500×H1050× L2000 付属金物含む) ベルマウス(材料費)(従来型 VPφ200用) ベルマウス(材料費)(従来型 VPφ150用) 蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下； 蓋(材料費) 基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下；碎石の種類= 再生クワッチャン 40～0；費用の内訳=全ての費用； モルタル練 セメント種類=高炉；費用の内訳=全ての費用；	個	1	基	1	個	2	個	2	組	1	組	1	m 2	1.748	m 3	0.044
プレキャストボックス (BN1(2連))	内幅 0.6m 内高 0.475m RC-40	個		1		プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kg以下；ラフレソクレン賃 料補正係数=標準以外；ラフレソクレン賃料補正係数(実 数入力)=1.23 無； プレキャストボックス(BN1(2連))(材料費)(B600× H475×L1200(2連) 付属金物含む) ベルマウス(材料費)(従来型 角型FEPφ100用) 蓋設置 蓋1組当り質量=200kg以下； 蓋(材料費) 基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下；碎石の種類= 再生クワッチャン 40～0；費用の内訳=全ての費用； モルタル練 セメント種類=高炉；費用の内訳=全ての費用；	個	2	基	1	個	2	個	2	組	2	組	2	m 2	2.284	m 3	0.058

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
舗装工		式		1					
切削オーバーレイ工 (夜間)		式		1					
切削オーバーレイ (切削オーバーレイ(A))	7cmを超え12cm以下 一層 段差すりつけ無 再生粗粒度Asポリマー改質 I型(20)DS3000	m2		1,140		< 1 m2当り > 切削オーバーレイ 平均切削深さ=7cmを超え12cm以下; 即日舗設の層数=一層; すりつけの区分=無; 舗装厚(一層目)(実数入力)=50 mm; アスファルト材料(一層目)=各種; 締固め後密度(一層目)(実数入力)=2.35 t/m3; 瀝青材料種類(一層目)=各種; 瀝青材料散布量(一層目)(実数入力)=43 L/100m2;	m2	1	
殻運搬(路面切削)	As切削屑	m3		114		< 1 m3当り > 殻運搬(路面切削) DID区間の有無=有り; 運搬距離(km)(DID区間有)=46.0km以下; 費用の内訳=全ての費用;	m3	1	
殻処分	As切削屑	m3		114		< 1 m3当り > 処分費(m3)	m3	1	
排水性舗装工 (車道舗装(A))(夜間)		式		1					
排水性舗装・表層(車道・路肩部)	ポラスAs(13)DS3000 2.4m以上 舗装厚 50mm	m2		1,250		< 1 m2当り > 排水性舗装・表層(車道・路肩部) 平均施工幅員=2.4m以上; 1層当り平均仕上り厚(65mm未満)(実数入力)=50 mm; 導水パイプの設置=有り; 片側車線数=片側1車線; 材料=各種(2.00t/m3以上2.10t/m3未満); 瀝青材料の規格=タックコート PKR(ゴム入り);	m2	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
透水性舗装工 (歩道舗装(A))(夜間)		式		1					
表層	ポ-ラスAs(13) 2.4m 以上 舗装厚 40m m	m2		335		< 1 m2当り > 透水性アスファルト舗装 平均幅員=2.4m以上; 1層当り平均仕上り厚(70mm以下)(実数入力)=40 mm; 材料=各種(2.00以上2.10t/m3未満);	m2	1	
透水性舗装工 (歩道舗装(B))(夜間)		式		1					
表層	ポ-ラスAs(13) 2.4m 以上 舗装厚 50m m	m2		269		< 1 m2当り > 透水性アスファルト舗装 平均幅員=2.4m以上; 1層当り平均仕上り厚(70mm以下)(実数入力)=50 mm; 材料=各種(2.00以上2.10t/m3未満);	m2	1	
アスファルト舗装工 (舗装復旧(A))(夜間)		式		1					
下層路盤(車道・路肩部)	再生クラッシュラン RC-4 0 仕上り厚 200m m	m2		110		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=200 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシュラン RC-40; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
上層路盤(車道・路肩部)	粒度調整碎石 M-4 0 仕上り厚 150m m	m2		110		< 1 m2当り > 上層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150 mm; 施工区分=1層施工; 材料=粒度調整碎石 M-40; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
上層路盤(車道・路肩部)	再生As安定処理(30) 仕上り厚 80mm	m2		110		< 1 m2当り > 上層路盤(車道・路肩部) 材料=路盤材(各種); 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mmを超え100mm以下); 1層当り平均仕上り厚(50mm超100mm以下)(実=80 mm; 瀝青材料種類=プライムコート PK-3; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度Asポリマー改質I型(20) DS3000 舗装厚 50mm 1.4m未満	m2		110		< 1 m2当り > 基層(車道・路肩部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下); 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=50 mm; 材料=各種(2.30以上2.40t/m3未満); 瀝青材料種類=タックコート(各種); 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
透水性舗装工(舗装復旧(B))(夜間)		式		1					
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m2		227		< 1 m2当り > フィルター層 平均厚さ=40mm以上60mm未満;	m2	1	
下層路盤(歩道部)(路盤)	クラッシュラン C-30 仕上り厚 100mm	m2		227		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=100 mm; 施工区分=1層施工; 材料=クラッシュラン C-30; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
透水性舗装工(舗装復旧(C))(夜間)		式		1					
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m2		55		< 1 m2当り > フィルター層 平均厚さ=40mm以上60mm未満;	m2	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
下層路盤(歩道部) (路盤)	再生クラッシュラン RC-40 仕上り厚 150mm	m2		55		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシュラン RC-40; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
区画線工		式		1					
区画線工 (夜間)		式		1					
溶融式区画線	溶融式手動 実線 15cm 白色 厚1.5mm 排水性舗装有	m		250		< 1 m当り > 区画線設置 夜間作業の有無=有り; 施工方法区分=溶融式手動; 豪雪補正の有無=無し; 規格・仕様区分=実線 15cm; 時間的制約の有無=無し; 塗布厚=1.5mm; 排水性舗装に施工する場合の補正=有り; 未供用区間の場合の補正=無し; 溶融式塗料規格=含有量15~18%; 塗料区分=白; プライマー規格=アスファルト舗装; 費用の内訳=全ての費用;	m	1	
排水構造物工		式		1					
排水性舗装用路肩排水工 (夜間)		式		1					
導水管(A)		m		251		< 10 m当り > 導水管(材料費)(樹脂製φ30) 排水性アスファルト合材(夜間単価)(材料費) (ポーラスAs(13)DS3000)	m t	10 0.1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
構造物撤去工		式		1					
構造物取壊し工 (夜間)		式		1					
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下	m		530		< 1 m当り > 舗装版切断 舗装版種別=アスファルト舗装版; アスファルト舗装版厚=15cm以下; 費用の内訳=全ての費用;	m	1	
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cmを超え30cm以下	m		200		< 1 m当り > 舗装版切断 舗装版種別=アスファルト舗装版; アスファルト舗装版厚=15cmを超え30cm以下; 費用の内訳=全ての費用;	m	1	
舗装版破砕	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cm以下	m2		626		< 1 m2当り > 舗装版破砕 舗装版種別=アスファルト舗装版; 障害等の有無=無し; 騒音振動対策=必要; 舗装版厚=15cm以下; 積込作業の有無=有り; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
舗装版破砕	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cmを超え35cm以下	m2		111		< 1 m2当り > 舗装版破砕 舗装版種別=アスファルト舗装版; 障害等の有無=無し; 騒音振動対策=必要; 舗装版厚=15cmを超え35cm以下; 積込作業の有無=有り; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
運搬処理工		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
殻運搬 (夜間)	アスファルト殻	m3		48		< 1 m3当り > 殻運搬 殻発生作業=舗装版破碎；積込工法区分=機械積込(騒音対策不要、厚15cm超)又(騒音対策必要)；DID区間の有無=有り；運搬距離(km)(DID区間有)=60.0km以下；費用の内訳=全ての費用；	m3	1	
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3		48		< 1 m3当り > 処分費 (m3)	m3	1	
仮設工		式		1					
作業土工 (夜間)		式		1					
床掘り	土砂	m3		100		< 1 m3当り > 床掘り 土質=土砂；施工方法=上記以外(小規模)；費用の内訳=全ての費用；	m3	1	
残土処理工		式		1					
整地	残土受入れ地での処理	m3		100		< 1 m3当り > 整地 作業区分=残土受入れ地での処理；	m3	1	
土砂等運搬 (夜間)		m3		100		< 1 m3当り > 運搬 (電線共同溝) 積載区分=土砂；DID区間の有無=有り；運搬距離(km)(DID区間有)=6.0km以下；	m3	1	
固結工 (夜間)		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 (MN4 底版)	削孔長4.650m 土 被り長3.150m	本		17		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.65 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=3.15 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=377 L/本; 水ガラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無; 注入設備据付・解体 注入方式=二重管ストレーナ工法; セット数=4セット; 排水汚泥土処理	本 現場 日	17 1 2	
薬液注入 (MN4 背面)	削孔長4.650m 土 被り長1.500m	本		40		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.65 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=979 L/本; 水ガラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無; 排水汚泥土処理	本 日	40 5	
薬液注入 (MN5 底版)	削孔長4.750m 土 被り長3.250m	本		13		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.75 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=3.25 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=422 L/本; 水ガラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無; 注入設備移設 注入方式=二重管ストレーナ工法; セット数=4セット; 排水汚泥土処理	本 回 日	13 1 1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 (MN5 背面)	削孔長4.750m 土 被り長1.500m	本		40		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; レ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.75 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=948 L/本; 水ガ`ラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	40	
						排水汚泥土処理	日	5	
薬液注入 (AN2 底版)	削孔長3.855m 土 被り長2.355m	本		6		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; レ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=3.855 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=2.355 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=363 L/本; 水ガ`ラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	6	
						注入設備移設 注入方式=二重管ストレーナ工法; セット数=4セット; 排水汚泥土処理	回	1	
薬液注入 (AN2 背面)	削孔長3.855m 土 被り長1.500m	本		29		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; レ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=3.855 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=664 L/本; 水ガ`ラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	29	
						排水汚泥土処理	日	3	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 (TN5 底版)	削孔長4.150m 土 被り長2.650m	本		5		二重管ストレーナ工法	本	5	
						注入方式=複相方式; セット数=4セット; 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.15 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=2.65 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=407 L/本; 水ガラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;			
						注入設備移設	回	1	
薬液注入 (TN5 背面)	削孔長4.150m 土 被り長1.500m	本		28		二重管ストレーナ工法	本	28	
						注入方式=複相方式; セット数=4セット; 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.15 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=776 L/本; 水ガラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;			
						排水汚泥土処理	日	3	
土留・仮締切工 (夜間)		式		1					
簡易土留	H=2.0m	m		163		簡易土留建込工(1.5m<H≤2.0m)	m	163	
						簡易土留引抜工(1.5m<H≤2.0m)	m	163	
						簡易土留材賃料(H=2.0m供用日数107日 転用回数11回)	m	15	
仮舗装工 (仮舗装(A))(夜間)		式		1					
下層路盤(車道・路肩部) (路盤)	再生クラッシュ RC-4 0 仕上り厚 150m m	m2		110		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシュ RC-40; 費用の内訳=全ての費用; ;	m 2	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
表層(車道・路肩部)	再生粗粒度As(20) 舗装厚 50mm 1.4m未満	m2		110		< 1 m2当り > 表層(車道・路肩部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) ; 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=50 mm ; 材料=各種(2.30以上2.40t/m3未満) ; 瀝青材料種類=プライムコート PK-3 ; 費用の内訳=全ての費用 ;	m 2	1	
仮舗装工 (仮舗装(B))(夜間)		式		1					
下層路盤(歩道部) (路盤)	クラッシュラン C-30 仕上り厚 100mm	m2		282		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=100 mm ; 施工区分=1層施工 ; 材料=クラッシュラン C-30 ; 費用の内訳=全ての費用 ;	m 2	1	
表層(歩道部)	再生密粒度As混合物(13) 舗装厚 40mm 1.4m未満	m2		282		< 1 m2当り > 表層(歩道部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) ; 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=40 mm ; 材料=各種(2.20以上2.30t/m3未満) ; 瀝青材料種類=プライムコート PK-3 ; 費用の内訳=全ての費用 ;	m 2	1	
構造物取壊し工 (夜間)		式		1					
舗装版破碎	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cm以下	m2		392		< 1 m2当り > 舗装版破碎 舗装版種別=アスファルト舗装版 ; 障害等の有無=無し ; 騒音振動対策=必要 ; 舗装版厚=15cm以下 ; 積込作業の有無=有り ; 費用の内訳=全ての費用 ;	m 2	1	
運搬処理工		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
殻運搬 (夜間)	アスファルト殻	m3		17		< 1 m3当り > 運搬(電線共同溝) 積載区分=アスファルト塊; DID区間の有無=有り; 運搬距離(km)(DID区間有)=60.0km以下;	m3	1	
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3		17		< 1 m3当り > 処分費(m3)	m3	1	
産廃運搬処理	建設汚泥	m3		49		< 1 m3当り > 汚泥吸排車運搬(DID区間有り 運搬距離L=19.9km以下) 処分費(m3) 産廃税	m3 m3 m3	1 1 1	
交通管理工		式		1					
交通誘導警備員 (夜間)		人日		100		< 1 人日当り > 交通誘導警備員A	人日	1	
交通誘導警備員 (夜間)		人日		400		< 1 人日当り > 交通誘導警備員B	人日	1	
直接工事費		式		1					
共通仮設費		式		1					
共通仮設費		式		1					
運搬費		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
建設機械運搬費		台		2		< 1 台当り > 貨物自動車による運搬 (1車1回) 運搬区分=路面切削機(ホイール式・廃材積込装置付) 2.0 m; 片道運搬距離(実数入力)=80.9 km; その他の諸料金の有無=無; 運搬中の賃料(損料)の有無=有;			
仮設材運搬費		t		9.6		< 1 t当り > 仮設材等(鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等)の運搬 発注機関区分=北海道・東北・北陸・中国・四国・九州; 片道運搬距離(実数入力)=1.3 km; 製品長区分=12m以内; 運搬割増率=各種(実数入力); 運搬割増率(実数入力)=0 無; その他の諸料金の有無=無; 仮設材等の積込み, 取卸し費 作業区分=積込み, 取卸し(片道分);			
技術管理費		式		1					
道路施設基本データ作成費		式		1		道路施設基本データ作成費			
道路工事完成図作成費		式		1		道路工事完成図作成費			
現場環境改善費(率計上)		式		1		市街地補正=市街地			
共通仮設費(率計上)		式		1		施工地域補正=市街地(DID補正)(1)-1; 除雪工補正=補正無; ICT施工補正=しない; 週休2日の補正=4週8休以上			
純工事費		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
現場管理費		式		1		施工地域補正=市街地（D I D補正）（1）- 1； 緊急工事補正=しない；砂防・地滑り工事補正=しない； ICT施工補正=しない；週休2日の補正=4週8 休以上			
工事原価		式		1					
一般管理費等		式		1					
工事価格		式		1					
消費税相当額		式		1					
工事費計		式		1		建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる 経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の 事業者負担額、労務管理費、安全訓練等に要する費用 等）が必要であり、本積算ではこれらを現場管理費等 の一部として率計上している。			

見積参考資料（管理費区分一覧表）

凡 例	管理費区分1 共通仮設費のみ非対象 管理費区分9 率計算の非対象	管理費区分2 工場管理費・一般管理費の対象 管理費区分T 処分費等の対象にする	管理費区分5 一般管理費等対象	管理費区分7 間接労務費対象 労務費					
	○：該当する管理費区分が含まれている								
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(上り終点側) (当初)				事業区分	共同溝・電線共同溝			
細別名称	規格	単位	数量	管理費区分 1 管理費区分 T	管理費区分 2	管理費区分 5	管理費区分 7	管理費区分 9	
殻処分	アスファルト殻	m3	114	○					
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3	48	○					
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3	17	○					
産廃運搬処理	建設汚泥	m3	49	○				○	
道路施設基本データ作成費		式	1					○	
道路工事完成図作成費		式	1					○	

見 積 参 考 資 料

工 事 名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側)

この「見積参考資料」は入札参加者の適切かつ迅速な見積に資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。従って「見積参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を充分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。

なお、この「見積参考資料」の有効期間は、この工事の入札日までとする。

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

見積参考資料（積算条件）

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側)	(当 初)	主たる工種	C・C・BOX工事
間 接 費 名 称	積 算 条 件			
	補 正 項 目	条 件		
共通仮設費（率計上）	施工地域補正 除雪工事補正	市街地（D I D補正）（1）－1 補正無		
現場環境改善費（率計上）	市街地補正	市街地		
現場管理費	施工地域補正 施工時期補正 熱中症補正 緊急工事補正 砂防・地滑り補正	市街地（D I D補正）（1）－1 補正しない 補正しない 補正しない 補正しない		
一般管理費等	財団法人等による補正 前払金割合による補正 契約保証に係る補正	補正しない 35%を超えるもの・補正しない 発注者が金銭的保証を必要とする場合		
その他	I C T施工補正 週休2日の補正	補正しない 4週8休以上		

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
電線共同溝		式		1					
開削土工		式		1					
掘削工 (夜間)		式		1					
開削掘削	土砂	m3		550		< 1 m3当り > 床掘り	m3	1	
開削掘削(二次掘削)	土砂 特殊部沈下埋設型	m3		50		< 1 m3当り > 床掘り(二次掘削)(特殊部沈下埋設型)	m3	1	
埋戻し工 (夜間)		式		1					
埋戻し・締固め	土砂	m3		260		< 1 m3当り > 埋戻し・締固め 土質=土砂;	m3	1	
埋戻し・締固め	中埋砂	m3		160		< 1 m3当り > 埋戻し・締固め 土質=中埋砂;	m3	1	
残土処理工		式		1					
整地	残土受入れ地での処理	m3		310		< 1 m3当り > 整地 作業区分=残土受入れ地での処理;	m3	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
土砂等運搬 (夜間)		m3		310		< 1 m3当り > 運搬 (電線共同溝) 積載区分=土砂; DID区間の有無=有り; 運搬距離(km) (DID区間有)=6.0km以下;	m 3	1	
電線共同溝工		式		1					
管路工(管路部) (夜間)		式		1					
埋設管路	角型FEP φ 100	m		406		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=多条管設置;	m	1	
埋設管路	角型FEP φ 75	m		564		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=多条管設置;	m	1	
埋設管路	HIVP φ 125	m		103		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=単管設置;	m	1	
埋設管路	HIVP φ 100	m		91		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=単管設置;	m	1	
埋設管路	VP φ 250	m		67		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部; 設置区分=ホテイ管(φ250mm)設置 (さや管含む); さや管の条数=標準以外の組合せ(φ 50, φ30使用); さや管(φ50)の条数(標準以外の組 合せ)(実=8本; さや管(φ30)の条数(標準以外の組 合せ)(実=0本;	m	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
埋設管路	VP φ 200	m		25		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=ホﾞテイ管(φ200mm)設置(さや管含む)；さや管の条数=標準以外の組合せ(φ50, φ30使用)；さや管(φ50)の条数(標準以外の組合せ)(実=6本；さや管(φ30)の条数(標準以外の組合せ)(実=0本)；	m	1	
埋設管路	VP φ 150	m		133		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=FA管設置；	m	1	
埋設管路	PV φ 50	m		185		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路	VE φ 70	m		53		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	HIVP φ 125	m		98		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	HIVP φ 100	m		94		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	VP φ 250	m		62		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=ホﾞテイ管(φ250mm)設置(さや管含む)；さや管の条数=標準以外の組合せ(φ50, φ30使用)；さや管(φ50)の条数(標準以外の組合せ)(実=8本；さや管(φ30)の条数(標準以外の組合せ)(実=0本)；	m	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
埋設管路 (曲管(R10))	VP φ 200	m		22		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=ホテイ管(φ200mm)設置(さや管含む)；さや管の条数=標準以外の組合せ(φ50, φ30使用)；さや管(φ50)の条数(標準以外の組合せ)(実=6本；さや管(φ30)の条数(標準以外の組合せ)(実=0本)；	m	1	
埋設管路 (EB曲管(R10))	VP φ 150	m		84		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=FA管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	PV φ 50	m		163		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R10))	VE φ 70	m		46		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R6))	HIVP φ 125	m		20		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R6))	HIVP φ 100	m		35		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R6))	PV φ 50	m		71		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
埋設管路 (曲管(R6))	VE φ 70	m		20		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
中間継手	角型FEP φ 100用	個		9		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(角型FEP φ 100用)	個	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
中間継手	角型FEP φ 75用	個		12		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(角型FEP φ 75用)	個	1	
中間継手	HIVP φ 125用	個		4		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(HIVP φ 125用)	個	1	
中間継手	HIVP φ 100用	個		6		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(HIVP φ 100用)	個	1	
中間継手	VP φ 250用	個		3		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(VP φ 250用)	個	1	
中間継手	VP φ 200用	個		1		中間継手(材料費)(VP φ 200用)	個	1	
中間継手	VP φ 150用	個		4		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(VP φ 150用)	個	1	
中間継手	PV φ 50用	個		14		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(PV φ 50用)	個	1	
中間継手	VE φ 70用	個		4		< 1 個当り > 中間継手(材料費)(VE φ 70用)	個	1	
防水栓	VP φ 150用	個		2		< 1 個当り > 防水栓(材料費)(VP φ 150用)	個	1	
鞘管固定管 (起点側)	VP φ 250用 ボルト固定	個		3		< 1 個当り > 鞘管固定管設置(VP φ 250用) 鞘管固定管(材料費)(起点側 VP φ 250用 ボルト固定)	m 個	1.2 1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
鞘管固定管 (終点側)	VPφ250用 ボルト固定	個		3		< 1 個当り > 鞘管固定管設置(VPφ250用) 鞘管固定管(材料費)(終点側 VPφ250用 ボルト固定)	m 個	1.14 1	
鞘管固定管 (起点側)	VPφ200用 ボルト固定	個		1		鞘管固定管設置(VPφ200用) 鞘管固定管(材料費)(起点側 VPφ200用 ボルト固定)	m 個	1.2 1	
鞘管固定管 (終点側)	VPφ200用 ボルト固定	個		1		鞘管固定管設置(VPφ200用) 鞘管固定管(材料費)(終点側 VPφ200用 ボルト固定)	m 個	1.14 1	
埋設標示シート	W300 2倍	m		541		< 1 m当り > 埋設標示シート(材料費)(W300 2倍)	m	1	
敷砂		m3		14		< 1 m3当り > 埋戻し・締固め 土質=中埋砂;	m3	1	
コンクリート	超速硬コンクリート	m3		3		< 1 m3当り > 超速硬コンクリート打設 超速硬コンクリート(材料費)	m3 m3	1 1	
型枠		m2		7		< 1 m2当り > 型枠 型枠の種類=一般型枠; 構造物の種類=小型構造物;	m2	1	
セラミック防護板	W100 t=7mm	m		31		< 1 m当り > セラミック防護板設置(W100) セラミック防護板(材料費)(W100 t=7mm)	m m	1 1	
エキスパンド [®] メタル	XG14 2枚重ね	m2		14		< 1 m2当り > エキスパンドメタル設置(2枚重ね) エキスパンドメタル(材料費)(XG14)	m2 m2	1 2	
鋼板防護	SS400 t=16mm	m2		8		< 1 m2当り > 鋼板設置(SS400 t=16mm) 鋼板(材料費)(SS400 t=16mm)	m2 m2	1 1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
管路布設工 (夜間)		式		1					
管路受台	φ125-250P HIVP 用	個		367		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ100-150P HIVP 用	個		377		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ250-325P VP用	個		184		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ200-300P VP用	個		65		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ150-220P VP用	個		138		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ50-95P PV用	個		554		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
管路受台	φ70-130P VE用	個		313		< 1 個当り > 管路受台 (スペーサ) (材料費)	個	1	
プレキャストボックス工(特殊部) (夜間)		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (MS4)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	2	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(MS4)(材料費)(B1350×H1800× L4500(首高 300) 付属金物、調整ブロック含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEPφ75用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVPφ125用)	個	4	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVPφ100用)	個	4	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VPφ200用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VPφ150用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 PVφ50用)	個	7	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VEφ70用)	個	2	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クラッシュ 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	6.075	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パッド材(ク ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	1.823	
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正 無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=	t	0.114							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
		個		1		補正無(一般構造物); 鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理;	t	0.057	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
プレキャストボックス (MS6)	内幅 1.35m 内高 1.8m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	2	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソール賃料補正係数=標準以外; ラフレソール賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(MS6)(材料費)(B1350×H1800× L4500(首高 300) 付属金物、調整ブロック含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ100用)	個	9	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ75用)	個	19	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ250用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ150用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 PV φ75用)	個	3	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎砕石 砕石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 砕石の種類= 再生グラッサラン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	6.075	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(ク レ-ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	1.823	
						鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正 無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正= 補正無(一般構造物);	t	0.114	
鉄筋工 [市場単価]	t	0.057							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；			

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側)				(当初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (MS5)	内幅 1.35m/2.15 m 内高 1.8m RC -40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (11000kg超～15000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=4000kgを超え11000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(MS5)(材料費)(B1350/2150× H1800×L4500(首高 700) 付属金物、調整ブロック 含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 130用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 100用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ 75用)	個	9	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ 125用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 HIVP φ 100用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ 250用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ 150用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 PV φ 50用)	個	7	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VE φ 70用)	個	2	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クラッシュ 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	7.355	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(ク レ-ン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	2.207	
鉄筋工 [市場単価]	t	0.15							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=補正無(一般構造物)； 鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；	t	0.05	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (AS2)	内幅 1.2m 内高 1.5m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						基礎ブロック設置(調整ブロック含む 200kg超～800kg 以下)	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(AS2)(材料費)(B1200×H1500× L1800(首高 255) 付属金物、調整・基礎ブロック含 む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ100用)	個	6	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎砕石 砕石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 砕石の種類= 再生クラッシュ 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	2.16	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=バックホ(ク レーン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	0.54	
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 大径鉄筋補正=補正 無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正= 補正無(一般構造物);	t	0.05							
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分=	t	0.017							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トソ内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；			

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (AS3)	内幅 1.2m 内高 1.5m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外; ラフレソクレン賃 料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						基礎ブロック設置(調整ブロック含む 200kg超～800kg 以下)	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(AS3)(材料費)(B1200×H1500× L1800(首高 255) 付属金物、調整・基礎ブロック含 む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ100用)	個	6	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クラッシュ 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	2.16	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=バック材(ク レン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類= 一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	0.54	
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分= 一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受け る場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の 補正=無; 法面作業の補正=無; 大径鉄筋補正=補正 無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正= 補正無(一般構造物);	t	0.05							
鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分=	t	0.017							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
		個		1		一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トソ内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；			

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (TS3)	内幅 1m 内高 1.5m RC-40					プレキャストボックスブロック設置(沈下埋設型) (4000kg超～11000kg以下)	個	1	
						プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下; ラフレソール賃料補正係数=標準以外; ラフレソール賃料補正係数(実数入力)=1.23 無;	個	1	
						集水釜設置	箇所	1	
						プレキャストボックス(TS3)(材料費)(B1000×H1500×L2200(首高 550) 付属金物、調整ブロック含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 角型FEP φ75用)	個	3	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ200用)	個	1	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VP φ150用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 PV φ50用)	個	7	
						ベルマウス(材料費)(沈下埋設型 VE φ70用)	個	2	
						蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下;	組	1	
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎砕石 砕石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下; 砕石の種類=再生グラッサラン 40～0; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	2.2	
						コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック材(クレン機能付)打設; コンクリート規格=各種; 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用;	m ³	0.55	
						鉄筋工 [市場単価] 鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=有; トンネル内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物);	t	0.041	
鉄筋工 [市場単価]	t	0.017							

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事															
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項																
						名称	単位	数量														
		個		1		鉄筋材料規格・径=SD345 D16～25；規格・仕様区分=一般構造物；施工規模=10t未満；時間的制約を受ける場合の補正=無；夜間作業補正=有；トンネル内作業の補正=無；法面作業の補正=無；太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む)；構造物種別による補正=差筋及び杭頭処理；																
プレキャストボックス (TS4)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下； ラフレックレン賃料補正係数=標準以外；ラフレックレン賃料補正係数(実数入力)=1.23 無； プレキャストボックス(TS4)(材料費)(B500×H1050×L2000 付属金物含む) ベルマウス(材料費)(従来型 VP φ250用) ベルマウス(材料費)(従来型 VP φ150用) 蓋設置 蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下； 蓋(材料費) 基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下；碎石の種類=再生グラッサラン 40～0；費用の内訳=全ての費用； モルタル練 セメント種類=高炉；費用の内訳=全ての費用；	個	1	基	1	個	2	個	2	組	1	組	1	m ²	1.748	m ³	0.044
		個		1																		

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側)				(当 初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス (TS5)	内幅 0.5m 内高 1.05m RC-40	個		1		プレキャストボックスブロック設置	個	1	
						ボックスブロック1個当り質量=1000kgを超え4000kg以下；ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外；ラフレソクレン賃料補正係数(実数入力)=1.23 無；			
						プレキャストボックス(TS5)(材料費)(B500×H1050×L2000 付属金物含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(従来型 VP φ250用)	個	2	
						ベルマウス(材料費)(従来型 VP φ150用)	個	2	
						蓋設置	組	1	
						蓋1組当り質量=200kgを超え800kg以下；			
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石	m ²	1.748	
						碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下；碎石の種類=再生クワッチャン 40～0；費用の内訳=全ての費用；			
モルタル練	m ³	0.044							
セメント種類=高炉；費用の内訳=全ての費用；									
プレキャストボックス (BS3)	内幅 0.6m 内高 0.475m RC-40	個		1		プレキャストボックスブロック設置	個	1	
						ボックスブロック1個当り質量=1000kg以下；ラフレソクレン賃料補正係数=標準以外；ラフレソクレン賃料補正係数(実数入力)=1.23 無；			
						プレキャストボックス(BS3)(材料費)(B600×H475×L1200 付属金物含む)	基	1	
						ベルマウス(材料費)(従来型 HIVP φ100用)	個	2	
						蓋設置	組	1	
						蓋1組当り質量=200kg以下；			
						蓋(材料費)	組	1	
						基礎碎石	m ²	1.183	
						碎石の厚さ=7.5cmを超え12.5cm以下；碎石の種類=再生クワッチャン 40～0；費用の内訳=全ての費用；			
						モルタル練	m ³	0.029	
セメント種類=高炉；費用の内訳=全ての費用；									

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
舗装工		式		1					
切削オーバーレイ工 (夜間)		式		1					
切削オーバーレイ (切削オーバーレイ(A))	7cmを超え12cm以下 一層 段差すりつけ無 再生粗粒度Asポリマー改質 I型(20)DS3000	m2		1,150		< 1 m2当り > 切削オーバーレイ 平均切削深さ=7cmを超え12cm以下; 即日舗設の層数=一層; すりつけの区分=無; 舗装厚(一層目)(実数入力)=50 mm; アスファルト材料(一層目)=各種; 締固め後密度(一層目)(実数入力)=2.35 t/m3; 瀝青材料種類(一層目)=各種; 瀝青材料散布量(一層目)(実数入力)=43 L/100m2;	m2	1	
殻運搬(路面切削)	As切削屑	m3		115		< 1 m3当り > 殻運搬(路面切削) DID区間の有無=有り; 運搬距離(km)(DID区間有)=46.0km以下; 費用の内訳=全ての費用;	m3	1	
殻処分	As切削屑	m3		115		< 1 m3当り > 処分費(m3)	m3	1	
排水性舗装工 (車道舗装(A))(夜間)		式		1					
排水性舗装・表層(車道・路肩部)	ポラスAs(13)DS3000 2.4m以上 舗装厚 50mm	m2		1,280		< 1 m2当り > 排水性舗装・表層(車道・路肩部) 平均施工幅員=2.4m以上; 1層当り平均仕上り厚(65mm未満)(実数入力)=50 mm; 導水パイプの設置=有り; 片側車線数=片側1車線; 材料=各種(2.00t/m3以上2.10t/m3未満); 瀝青材料の規格=タックコート PKR(ゴム入り);	m2	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
透水性舗装工 (歩道舗装(A))(夜間)		式		1					
表層	ポ-ラスAs(13) 2.4m 以上 舗装厚 40m m	m2		350		< 1 m2当り > 透水性アスファルト舗装 平均幅員=2.4m以上; 1層当り平均仕上り厚(70mm以下)(実数入力)=40 mm; 材料=各種(2.00以上2.10t/m3未満);	m 2	1	
透水性舗装工 (歩道舗装(B))(夜間)		式		1					
表層	ポ-ラスAs(13) 2.4m 以上 舗装厚 50m m	m2		235		< 1 m2当り > 透水性アスファルト舗装 平均幅員=2.4m以上; 1層当り平均仕上り厚(70mm以下)(実数入力)=50 mm; 材料=各種(2.00以上2.10t/m3未満);	m 2	1	
アスファルト舗装工 (舗装復旧(A))(夜間)		式		1					
下層路盤(車道・路肩部)	再生クラッシュラン RC-4 0 仕上り厚 200m m	m2		126		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=200 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシュラン RC-40; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1	
上層路盤(車道・路肩部)	粒度調整碎石 M-4 0 仕上り厚 150m m	m2		126		< 1 m2当り > 上層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150 mm; 施工区分=1層施工; 材料=粒度調整碎石 M-40; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
上層路盤(車道・路肩部)	再生As安定処理(30) 仕上り厚 80mm	m2		126		< 1 m2当り > 上層路盤(車道・路肩部) 材料=路盤材(各種); 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mmを超え100mm以下); 1層当り平均仕上り厚(50mm超100mm以下)(実=80 mm; 瀝青材料種類=プライムコート PK-3; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度Asポリマー改質I型(20) DS3000 舗装厚 50mm 1.4m未満	m2		126		< 1 m2当り > 基層(車道・路肩部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下); 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=50 mm; 材料=各種(2.30以上2.40t/m3未満); 瀝青材料種類=タックコート(各種); 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
透水性舗装工(舗装復旧(B))(夜間)		式		1					
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m2		213		< 1 m2当り > フィルター層 平均厚さ=40mm以上60mm未満;	m2	1	
下層路盤(歩道部)(路盤)	クラッシュラン C-30 仕上り厚 100mm	m2		213		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=100 mm; 施工区分=1層施工; 材料=クラッシュラン C-30; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
透水性舗装工(舗装復旧(C))(夜間)		式		1					
フィルター層	砂 仕上り厚 50mm	m2		54		< 1 m2当り > フィルター層 平均厚さ=40mm以上60mm未満;	m2	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
下層路盤(歩道部) (路盤)	再生クラッシュラン RC-40 仕上り厚 150mm	m ²		54		< 1 m ² 当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシュラン RC-40; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	1	
区画線工		式		1					
区画線工 (夜間)		式		1					
熔融式区画線	熔融式手動 実線 15cm 白色 厚1.5mm 排水性舗装有	m		250		< 1 m当り > 区画線設置 夜間作業の有無=有り; 施工方法区分=熔融式手動; 豪雪補正の有無=無し; 規格・仕様区分=実線 15cm; 時間的制約の有無=無し; 塗布厚=1.5mm; 排水性舗装に施工する場合の補正=有り; 未供用区間の場合の補正=無し; 熔融式塗料規格=含有量15~18%; 塗料区分=白; プライマー規格=アスファルト舗装; 費用の内訳=全ての費用;	m	1	
熔融式区画線	熔融式手動 実線 30cm 黄色 厚1.5mm 排水性舗装有	m		110		< 1 m当り > 区画線設置 夜間作業の有無=有り; 施工方法区分=熔融式手動; 豪雪補正の有無=無し; 規格・仕様区分=実線 30cm; 時間的制約の有無=無し; 塗布厚=1.5mm; 排水性舗装に施工する場合の補正=有り; 未供用区間の場合の補正=無し; 熔融式塗料規格=含有量15~18%; 塗料区分=黄 鉛・クロムフリー; プライマー規格=アスファルト舗装; 費用の内訳=全ての費用;	m	1	
排水構造物工		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
排水性舗装用路肩排水工 (夜間)		式		1					
導水管(A)		m		251		< 10 m当り > 導水管(材料費)(樹脂製φ30) 排水性アスファルト合材(夜間単価)(材料費) (ポーラスAs(13)DS3000)	m t	10 0.1	
構造物撤去工		式		1					
構造物取壊し工 (夜間)		式		1					
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下	m		560		< 1 m当り > 舗装版切断 舗装版種別=アスファルト舗装版; アスファルト舗装版厚=15cm以下; 費用の内訳=全ての費用;	m	1	
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cmを超え30cm以下	m		240		< 1 m当り > 舗装版切断 舗装版種別=アスファルト舗装版; アスファルト舗装版厚=15cmを超え30cm以下; 費用の内訳=全ての費用;	m	1	
舗装版破砕	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cm以下	m ²		596		< 1 m ² 当り > 舗装版破砕 舗装版種別=アスファルト舗装版; 障害等の有無=無し; 騒音振動対策=必要; 舗装版厚=15cm以下; 積込作業の有無=有り; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	1	
舗装版破砕	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cmを超え35cm以下	m ²		127		< 1 m ² 当り > 舗装版破砕 舗装版種別=アスファルト舗装版; 障害等の有無=無し; 騒音振動対策=必要; 舗装版厚=15cmを超え35cm以下; 積込作業の有無=有り; 費用の内訳=全ての費用;	m ²	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
運搬処理工		式		1					
殻運搬 (夜間)	アスファルト殻	m3		49		< 1 m3当り > 殻運搬 殻発生作業=舗装版破碎; 積込工法区分=機械積込(騒音対策不要、厚15cm超)又(騒音対策必要); DID区間の有無=有り; 運搬距離(km)(DID区間有)=60.0km以下; 費用の内訳=全ての費用;	m3	1	
殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3		49		< 1 m3当り > 処分費 (m3)	m3	1	
仮設工		式		1					
作業土工 (夜間)		式		1					
床掘り	土砂	m3		100		< 1 m3当り > 床掘り 土質=土砂; 施工方法=上記以外(小規模); 費用の内訳=全ての費用;	m3	1	
残土処理工		式		1					
整地	残土受入れ地での処理	m3		100		< 1 m3当り > 整地 作業区分=残土受入れ地での処理;	m3	1	
土砂等運搬 (夜間)		m3		100		< 1 m3当り > 運搬 (電線共同溝) 積載区分=土砂; DID区間の有無=有り; 運搬距離(km)(DID区間有)=6.0km以下;	m3	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
固結工 (夜間)		式		1					
薬液注入 (MS5 底版)	削孔長4.650m 土 被り長3.150m	本		17		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.65 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=3.15 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=377 L/本; 水が ^ラ 積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無; 注入設備据付・解体 注入方式=二重管ストレーナ工法; セット数=4セット; 排水汚泥土処理	本 現場 日	17 1 2	
薬液注入 (MS5 背面)	削孔長4.650m 土 被り長1.500m	本		40		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.65 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=979 L/本; 水が ^ラ 積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無; 排水汚泥土処理	本 日	40 5	
薬液注入 (MS6 底版)	削孔長4.250m 土 被り長2.750m	本		13		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; ㄱ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=2.75 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=422 L/本; 水が ^ラ 積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無; 注入設備移設 注入方式=二重管ストレーナ工法; セット数=4セット; 排水汚泥土処理	本 回 日	13 1 1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 (MS6 背面)	削孔長4.250m 土 被り長1.500m	本		40		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; レ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=802 L/本; 水ガ`ラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	40	
						排水汚泥土処理	日	5	
薬液注入 (AS2、AA3 底版)	削孔長3.855m 土 被り長2.355m	本		12		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; レ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=3.855 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=2.355 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=363 L/本; 水ガ`ラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	12	
						注入設備移設 注入方式=二重管ストレーナ工法; セット数=4セット; 排水汚泥土処理	回	2	
薬液注入 (AS2、AS3 背面)	削孔長3.855m 土 被り長1.500m	本		58		二重管ストレーナ工法 注入方式=複相方式; セット数=4セット; レ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=3.855 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=664 L/本; 水ガ`ラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	58	
						排水汚泥土処理	日	6	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 (TS3 底版)	削孔長4.150m 土 被り長2.650m	本		5		二重管ストレーナ工法	本	5	
						注入方式=複相方式; セット数=4セット; 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.15 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=2.65 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=407 L/本; 水ガラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;			
						注入設備移設	回	1	
薬液注入 (TS3 背面)	削孔長4.150m 土 被り長1.500m	本		28		排水汚泥土処理	日	0.4	
						二重管ストレーナ工法	本	28	
						注入方式=複相方式; セット数=4セット; 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.15 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.5 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=776 L/本; 水ガラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;			
排水汚泥土処理	日	3							
土留・仮締切工 (夜間)		式		1					
簡易土留	H=2.0m	m		85		< 1 m当り >			
						簡易土留建込工(1.5m<H≤2.0m)	m	1	
簡易土留	H=2.5m	m		15		簡易土留引抜工(1.5m<H≤2.0m)	m	1	
						< 1 m当り >			
簡易土留	H=3.0m	m		4		簡易土留建込工(2.0m<H≤2.5m)	m	1	
						簡易土留引抜工(2.0m<H≤2.5m)	m	1	
簡易土留	H=3.0m	m		4		簡易土留建込工(2.5m<H≤3.0m)	m	4	
						簡易土留引抜工(2.5m<H≤3.0m)	m	4	
						簡易土留材賃料(H=3.0m供用日数111日 転用回数5回)	m	15	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
仮舗装工 (仮舗装(A))(夜間)		式		1					
下層路盤(車道・路肩部) (路盤)	再生クラッシュラン RC-40 仕上り厚 150mm	m2		126		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシュラン RC-40; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
表層(車道・路肩部)	再生粗粒度As(20) 舗装厚 50mm 1.4m未満	m2		126		< 1 m2当り > 表層(車道・路肩部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下); 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=50 mm; 材料=各種(2.30以上2.40t/m3未満); 瀝青材料種類=プライムコート PK-3; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
仮舗装工 (仮舗装(B))(夜間)		式		1					
下層路盤(歩道部) (路盤)	クラッシュラン C-30 仕上り厚 100mm	m2		267		< 1 m2当り > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=100 mm; 施工区分=1層施工; 材料=クラッシュラン C-30; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
表層(歩道部)	再生密粒度As混合物(13) 舗装厚 40mm 1.4m未満	m2		267		< 1 m2当り > 表層(歩道部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下); 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=40 mm; 材料=各種(2.20以上2.30t/m3未満); 瀝青材料種類=プライムコート PK-3; 費用の内訳=全ての費用;	m2	1	
構造物取壊し工 (夜間)		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
舗装版破碎	アスファルト舗装版 舗装版厚 15cm以下	m2		393		< 1 m2当り > 舗装版破碎 舗装版種別=アスファルト舗装版; 障害等の有無=無し; 騒音振動対策=必要; 舗装版厚=15cm以下; 積込作業の有無=有り; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1	
運搬処理工		式		1					
殻運搬(夜間)	アスファルト殻	m3		17		< 1 m3当り > 運搬(電線共同溝) 積載区分=アスファルト塊; DID区間の有無=有り; 運搬距離(km)(DID区間有)=60.0km以下;	m 3	1	
殻処分(夜間)	アスファルト殻	m3		17		< 1 m3当り > 処分費(m3)	m 3	1	
産廃運搬処理	建設汚泥	m3		56		< 1 m3当り > 汚泥吸排車運搬(DID区間有り 運搬距離L=19.9km以下) 処分費(m3) 産廃税	m 3 m 3 m 3	1 1 1	
交通管理工		式		1					
交通誘導警備員(夜間)		人日		100		< 1 人日当り > 交通誘導警備員A	人日	1	
交通誘導警備員(夜間)		人日		400		< 1 人日当り > 交通誘導警備員B	人日	1	
直接工事費		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
共通仮設費		式		1					
共通仮設費		式		1					
運搬費		式		1					
建設機械運搬費		台		2		< 1 台当り > 貨物自動車による運搬(1車1回) 運搬区分=路面切削機(ホイール式・廃材積込装置付) 2.0 m; 片道運搬距離(実数入力)=80.9 km; その他の諸料金の有無=無; 運搬中の賃料(損料)の有無=有;	台	1	
仮設材運搬費		t		13.7		< 1 t当り > 仮設材等(鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等)の運搬 発注機関区分=北海道・東北・北陸・中国・四国・九州; 片道運搬距離(実数入力)=1.3 km; 製品長区分=12m以内; 運搬割増率=各種(実数入力); 運搬割増率(実数入力)=0 無; その他の諸料金の有無=無; 仮設材等の積込み, 取卸し費 作業区分=積込み, 取卸し(片道分);	t	1	
技術管理費		式		1					
道路施設基本データ作成費		式		1		道路施設基本データ作成費	式	1	
道路工事完成図作成費		式		1		道路工事完成図作成費	式	1	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
現場環境改善費(率計上)		式		1		市街地補正=市街地			
共通仮設費(率計上)		式		1		施工地域補正=市街地(DID補正)(1)-1; 除雪工補正=補正無; ICT施工補正=しない; 週休2 日の補正=4週8休以上			
純工事費		式		1					
現場管理費		式		1		施工地域補正=市街地(DID補正)(1)-1; 緊急工事補正=しない; 砂防・地滑り工事補正=しな い; ICT施工補正=しない; 週休2日の補正=4週8 休以上			
工事原価		式		1					
一般管理費等		式		1					
工事価格		式		1					
消費税相当額		式		1					
工事費計		式		1		建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる 経費として、労務費のほか各種経費(法定福利費の 事業者負担額、労務管理費、安全訓練等に要する費用 等)が必要であり、本積算ではこれらを現場管理費等 の一部として率計上している。			

見積参考資料（管理費区分一覧表）

凡 例	管理費区分1 共通仮設費のみ非対象 管理費区分9 率計算の非対象	管理費区分2 工場管理費・一般管理費の対象 管理費区分T 処分費等の対象にする	管理費区分5 一般管理費等対象	管理費区分7 間接労務費対象 労務費					
○：該当する管理費区分が含まれている									
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(下り終点側) (当初)				事業区分	共同溝・電線共同溝			
					工事区分	電線共同溝			
	細別名称	規格	単位	数量	管理費区分 1 管理費区分 T	管理費区分 2	管理費区分 5	管理費区分 7	管理費区分 9
	殻処分	アスファルト殻	m3	115	○				
	殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3	49	○				
	殻処分 (夜間)	アスファルト殻	m3	17	○				
	産廃運搬処理	建設汚泥	m3	56	○				○
	道路施設基本データ作成費		式	1					○
	道路工事完成図作成費		式	1					○

見 積 参 考 資 料

工 事 名 国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(橋梁部)

この「見積参考資料」は入札参加者の適切かつ迅速な見積に資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。従って「見積参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を充分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。

なお、この「見積参考資料」の有効期間は、この工事の入札日までとする。

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所 道路管理課

見積参考資料（積算条件）

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(橋梁部)	(当初)	主たる工種	C・C・BOX工事
間 接 費 名 称	積 算 条 件			
	補 正 項 目	条 件		
共通仮設費（率計上）	施工地域補正 除雪工事補正	市街地（D I D補正）（1）－1 補正無		
現場環境改善費（率計上）	市街地補正	市街地		
現場管理費	施工地域補正 施工時期補正 熱中症補正 緊急工事補正 砂防・地滑り補正	市街地（D I D補正）（1）－1 補正しない 補正しない 補正しない 補正しない		
一般管理費等	財団法人等による補正 前払金割合による補正 契約保証に係る補正	補正しない 35%を超えるもの・補正しない 発注者が金銭的保証を必要とする場合		
その他	I C T施工補正 週休2日の補正	補正しない 4週8休以上		

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(橋梁部) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
電線共同溝		式		1					
電線共同溝工		式		1					
橋梁添架工 (夜間)		式		1					
1号添架		m		108		1号配管支持金具・配管設置 管路(材料費)(SPGφ125) 管路(材料費)(SPGφ100) 管路(材料費)(SPGφ80) 管路(材料費)(SPGφ50) 支持金具(材料費)(H=1200 W=700 SUS(補強板、Uボルト・ナット、Uボルト用プレート、ボルト・ナット含む)) コンクリート削孔(電動ハンマドリル) 削孔深さ=30mm以上200mm未満; コンクリートアンカー(材料費)(M16×100)	m m m m m 個 孔 本	108 215 215 215 754 53 159 159	
2号添架		m		109		2号配管支持金具・配管設置 管路(材料費)(SPGφ100) 管路(材料費)(SPGφ80) 管路(材料費)(SPGφ50) 支持金具(材料費)(H=1430 W=700 SUS(補強板、Uボルト・ナット、Uボルト用プレート、ボルト・ナット含む)) コンクリート削孔(電動ハンマドリル) 削孔深さ=30mm以上200mm未満; コンクリートアンカー(材料費)(M16×100)	m m m m 個 孔 本	109 327 218 545 53 212 212	

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(橋梁部) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名称	単位	数量	
異種管継手	HIVP φ125-SGP φ125	個		4		< 1 個当り > 異種管継手(材料費)(HIVP φ125-SGP φ125)	個	1	
異種管継手	HIVP φ100-SGP φ100	個		10		< 1 個当り > 異種管継手(材料費)(HIVP φ100-SGP φ100)	個	1	
異種管継手	VE φ70-SGP φ80	個		8		< 1 個当り > 異種管継手(材料費)(VE φ70-SGP φ80)	個	1	
異種管継手	PV φ50-SGP φ50	個		24		< 1 個当り > 異種管継手(材料費)(PV φ50-SGP φ50)	個	1	
橋台コア削孔工 (夜間)		式		1					
コンクリート削孔	穿孔径φ120 削孔長 L=0.5m	孔		6		< 1 孔当り > コンクリート削孔(穿孔孔φ120 削孔長L=0.5m)	孔	1	
コンクリート削孔	穿孔径φ100 削孔長 L=0.5m	孔		4		< 1 孔当り > コンクリート削孔(穿孔孔φ100 削孔長L=0.5m)	孔	1	
コンクリート削孔	穿孔径φ75 削孔長 L=0.5m	孔		10		< 1 孔当り > コンクリート削孔(コンクリート穿孔機) 削孔径=64mm以上77mm未満; 削孔深さ=400mm以上600mm未満;	孔	1	
モルタル充填	高炉	m3		0.01		< 1 m3当り > モルタル練 セメント種類=高炉; 費用の内訳=全ての費用;	m3	1	
仮設工		式		1					

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(橋梁部) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
交通管理工		式		1					
交通誘導警備員 (夜間)		人日		100		< 1 人日当り > 交通誘導警備員A	人日	1	
交通誘導警備員 (夜間)		人日		400		< 1 人日当り > 交通誘導警備員B	人日	1	
直接工事費		式		1					
共通仮設費		式		1					
共通仮設費		式		1					
現場環境改善費(率計上)		式		1		市街地補正=市街地			
共通仮設費(率計上)		式		1		施工地域補正=市街地(DID補正)(1)-1; 除雪工補正=補正無; ICT施工補正=しない; 週休2 日の補正=4週8休以上			
純工事費		式		1					
現場管理費		式		1		施工地域補正=市街地(DID補正)(1)-1; 緊急工事補正=しない; 砂防・地滑り工事補正=しな い; ICT施工補正=しない; 週休2日の補正=4週8 休以上			

見積参考資料

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(橋梁部) (当初)					工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参 考 事 項			
						名 称	単 位	数 量	
工事原価		式		1					
一般管理費等		式		1					
工事価格		式		1					
消費税相当額		式		1					
工事費計		式		1		建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額、労務管理費、安全訓練等に要する費用等）が必要であり、本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。			

見積参考資料（管理費区分一覧表）＜データ無し＞

凡 例	○：該当する管理費区分が含まれている								
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業(橋梁部)				(当 初)		事業区分		
	細別名称	規格	単位	数量			工事区分		

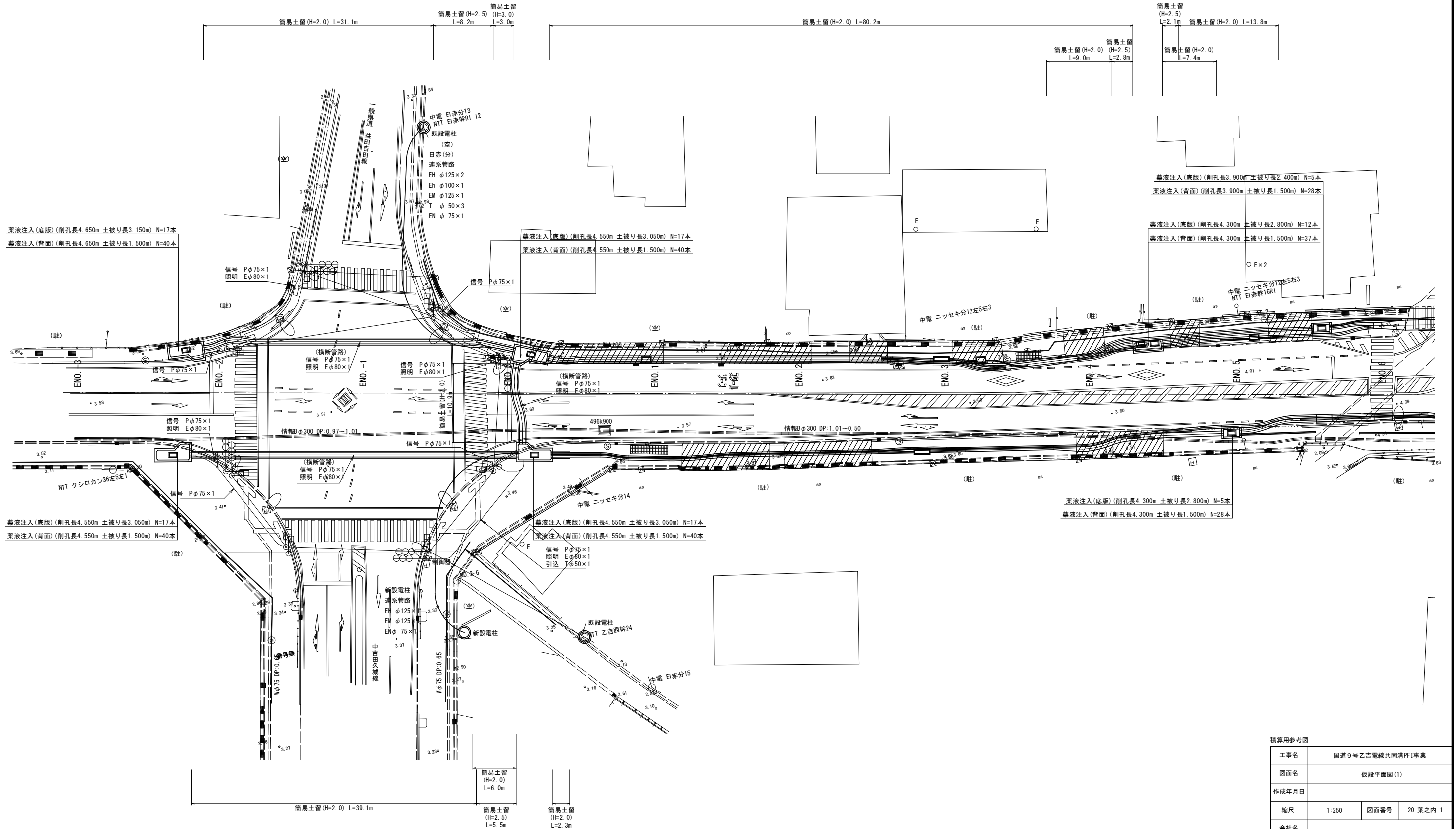
見積参考図面（積算用参考図）

仮設平面図(1)

国道9号乙吉電線共同溝PF1事業 L=660m

工事起点
ENO-3

仮舗装(A)		
路盤(RC-40 t=15cm)	A=	455 m ²
表層(再生粗粒度As(20) t=5cm)	A=	455 m ²
仮舗装(B)		
路盤(C-30 t=10cm)	A=	1,180 m ²
表層(再生密粒度As(13) t=4cm)	A=	1,180 m ²

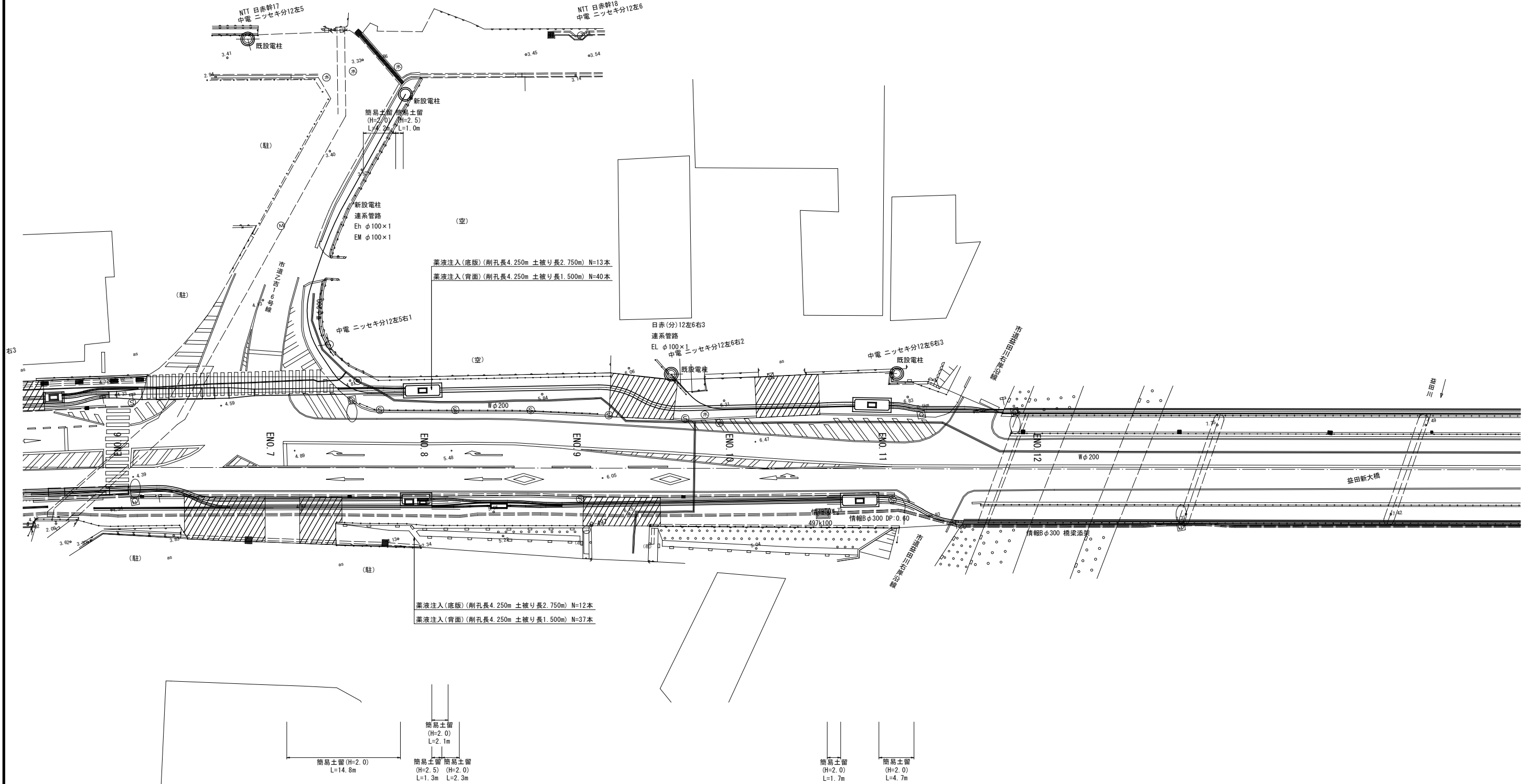


積算用参考図

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	仮設平面図(1)		
作成年月日			
縮尺	1:250	図面番号	20 葉之内 1
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

仮設平面図(2)

国道9号乙吉電線共同溝PF1事業 L=660m

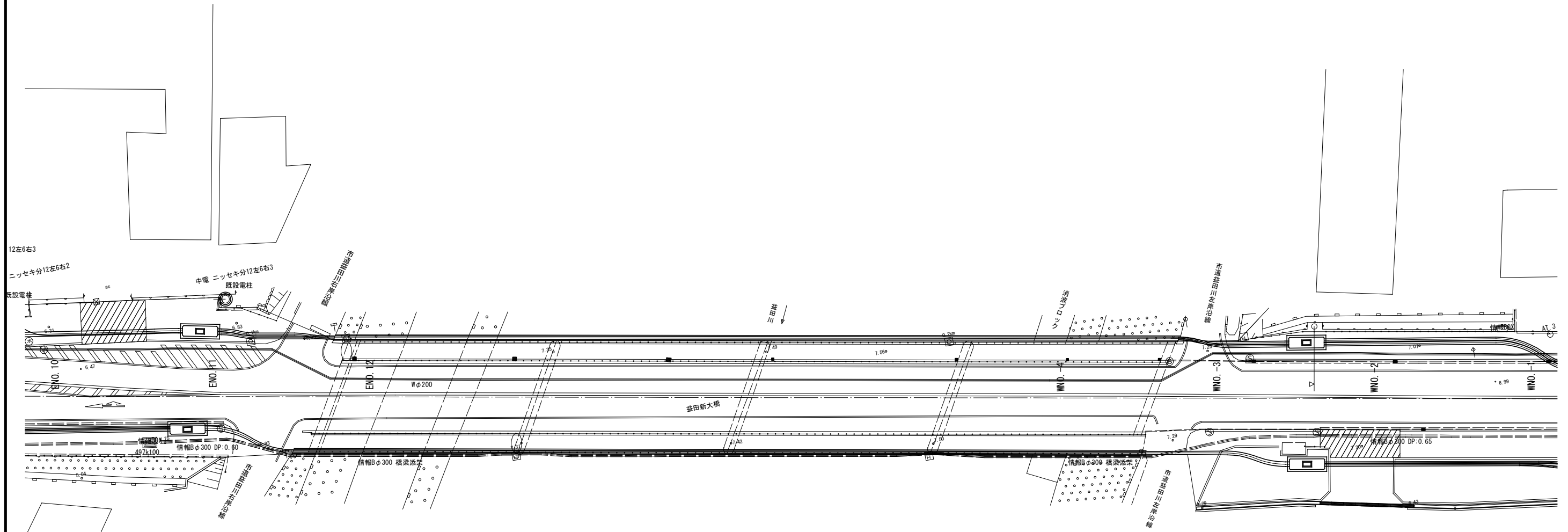


積算用参考図

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	仮設平面図(2)		
作成年月日			
縮尺	1:250	図面番号	20 葉之内 2
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

仮設平面図(3)

国道9号乙吉電線共同溝PF1事業 L=660m

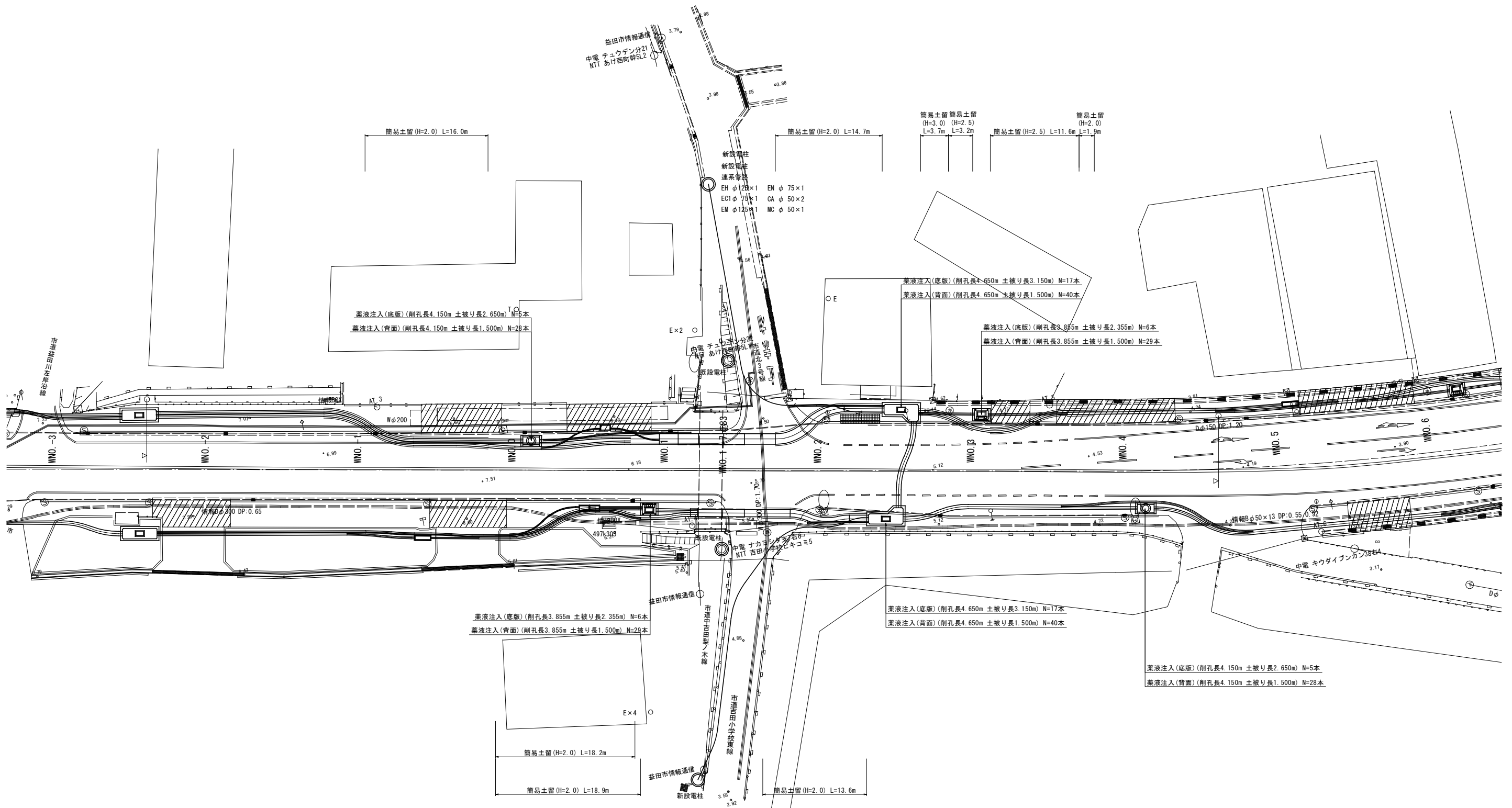


積算用参考図

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	仮設平面図(3)		
作成年月日			
縮尺	1:250	図面番号	20 葉之内 3
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

仮設平面図(4)

国道9号乙吉電線共同溝PF1事業 L=660m

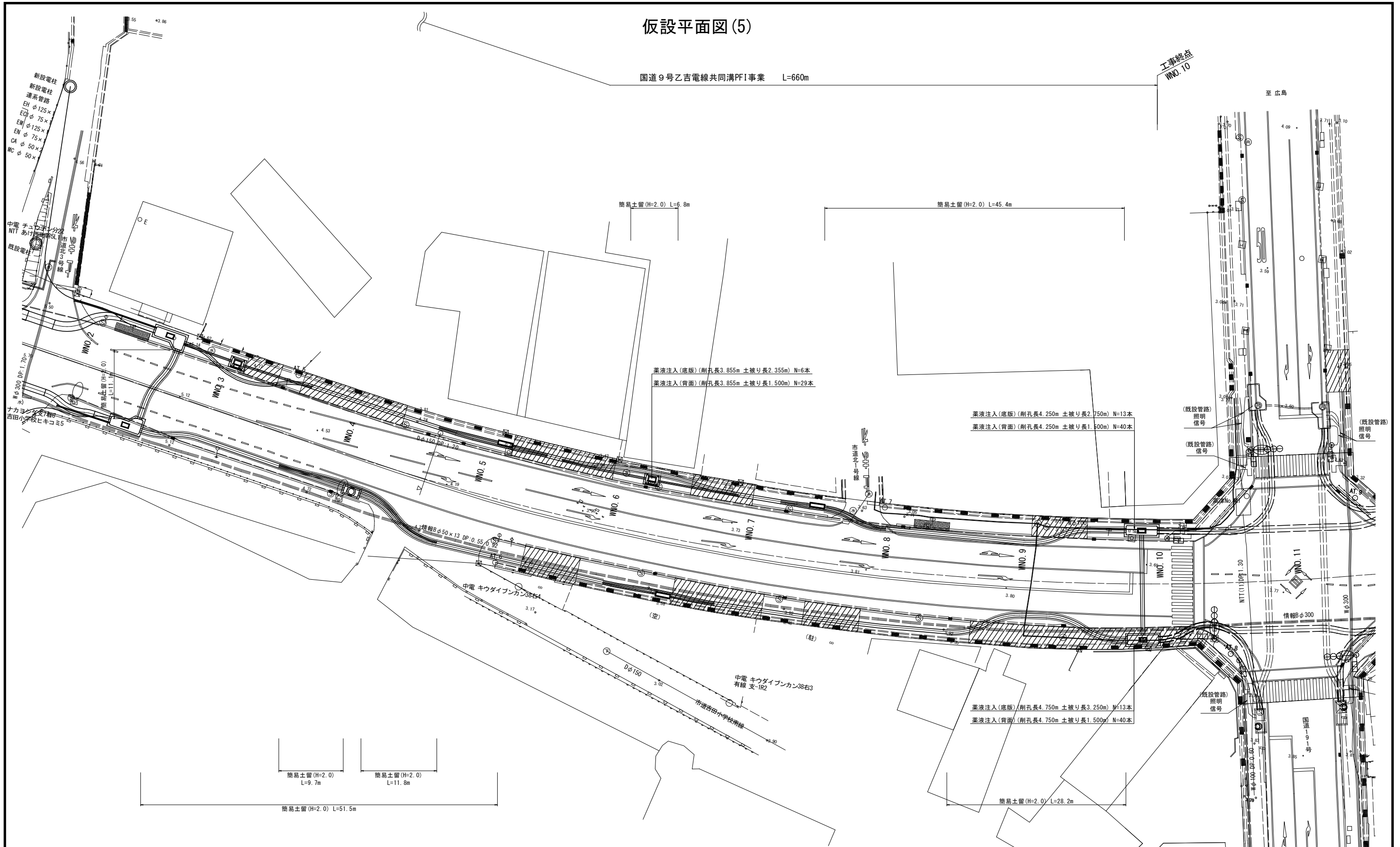


積算用参考図

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	仮設平面図(4)		
作成年月日			
縮尺	1:250	図面番号	20 葉之内 4
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

仮設平面図(5)

国道9号乙吉電線共同溝PF1事業 L=660m

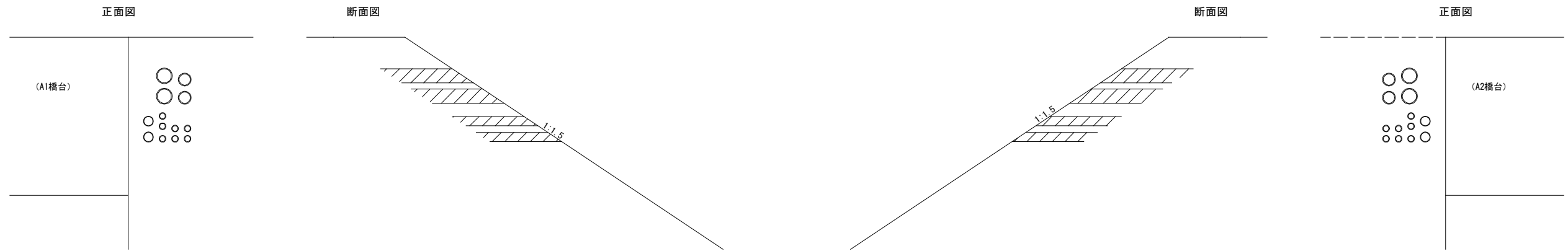


工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	仮設平面図(5)		
作成年月日			
縮尺	1:250	図面番号	20 葉之内 5
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

下部工管路配置図

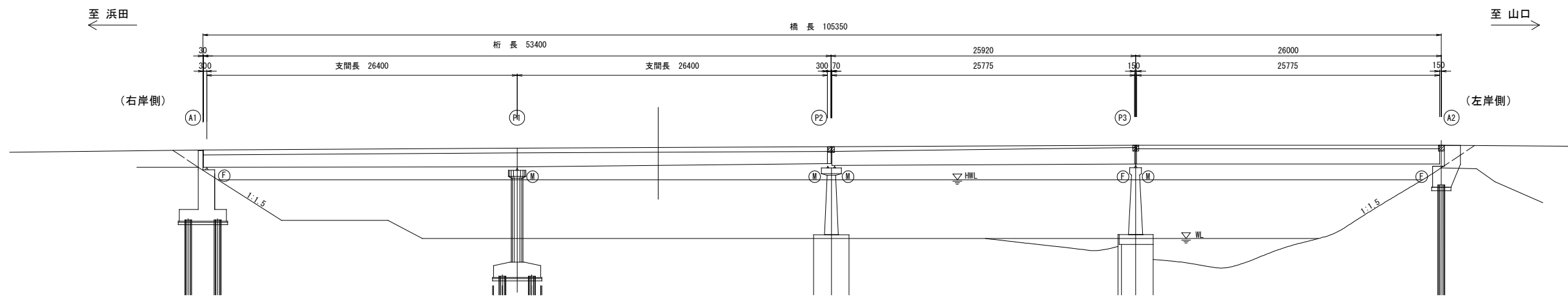
右岸上流部 S=1:20

左岸上流部 S=1:20



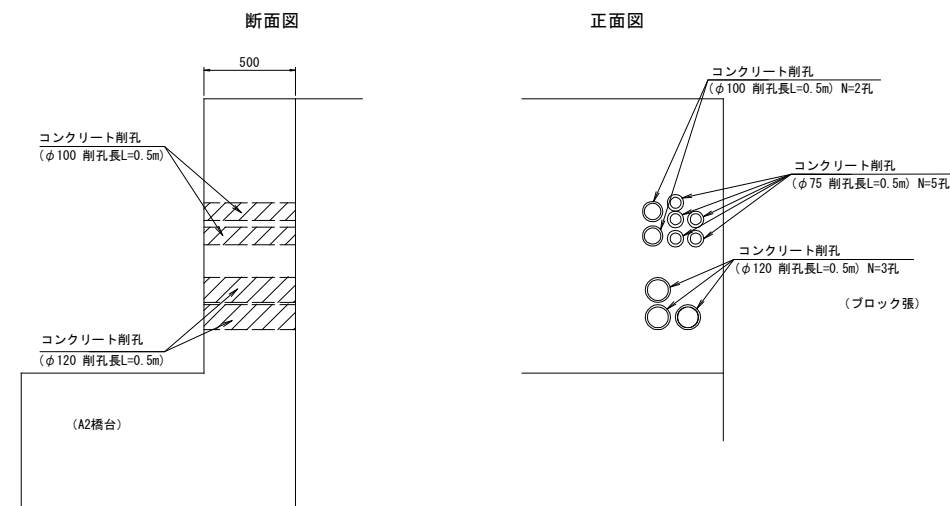
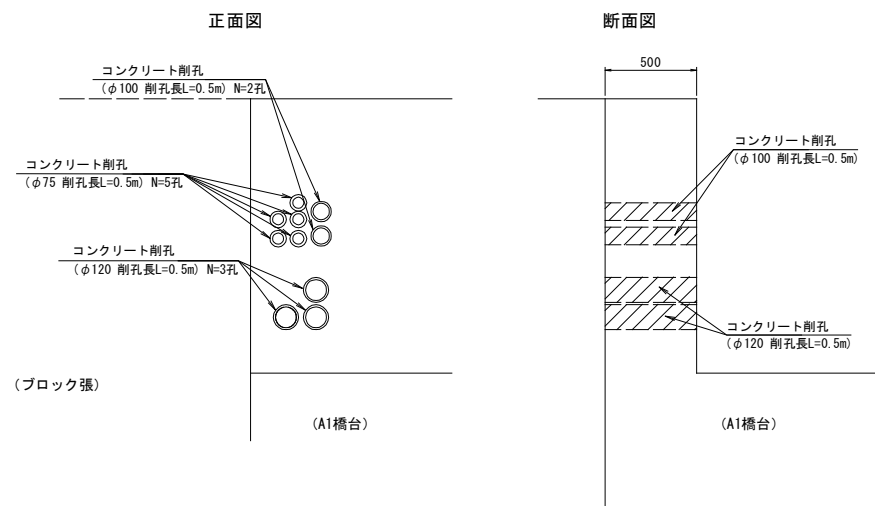
注) 当初は、上流部の箱抜きは土工で見込んでいたが、河川協議と詳細設計により構造を決定すること。

側面図 S=1:200



右岸下流部 S=1:20

左岸下流部 S=1:20



積算用参考図

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	下部工管路配置図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	20 葉之内 6
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

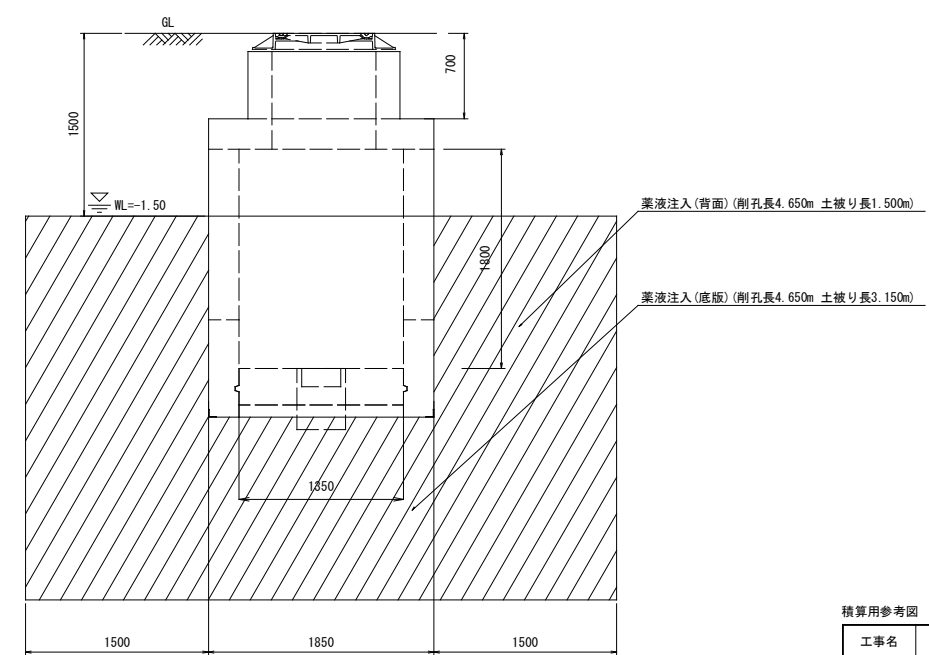
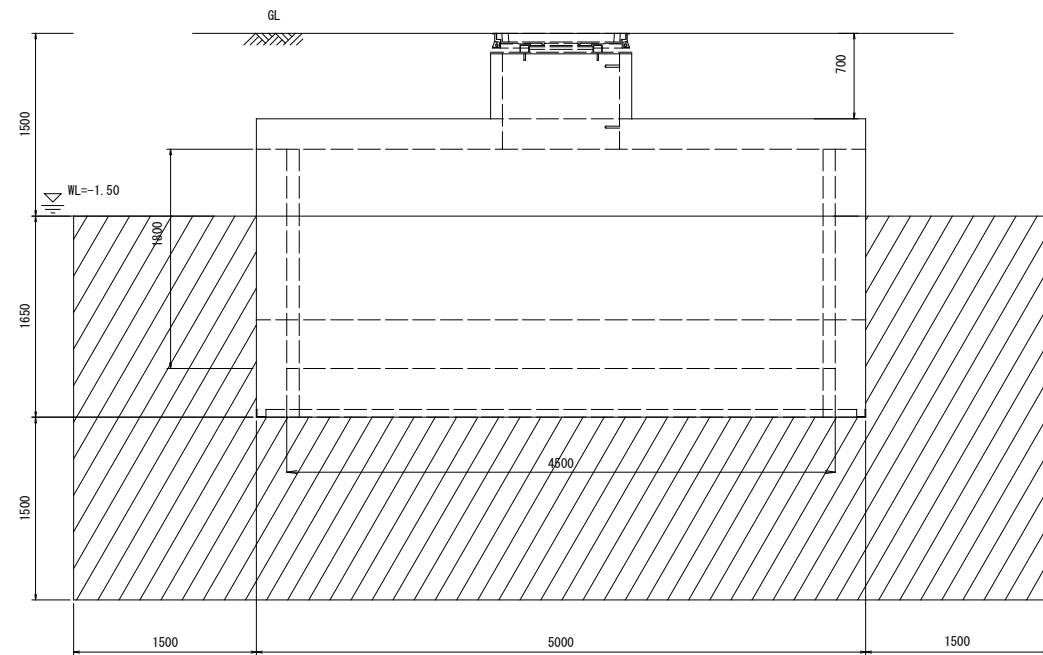
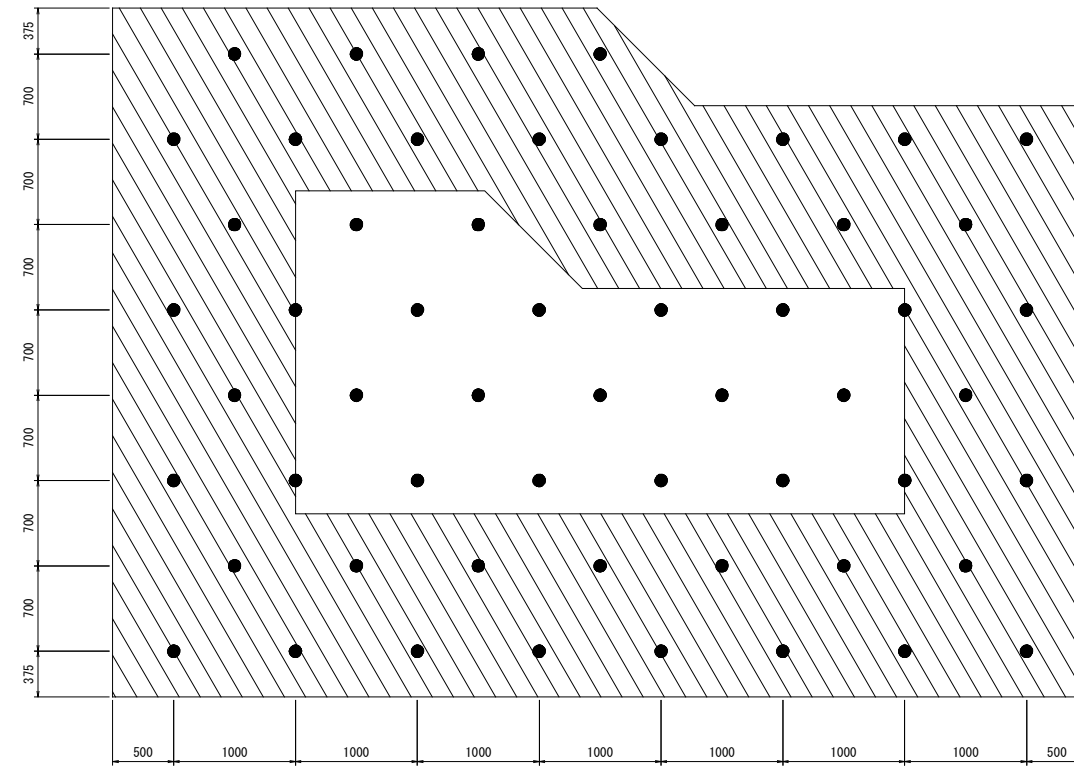
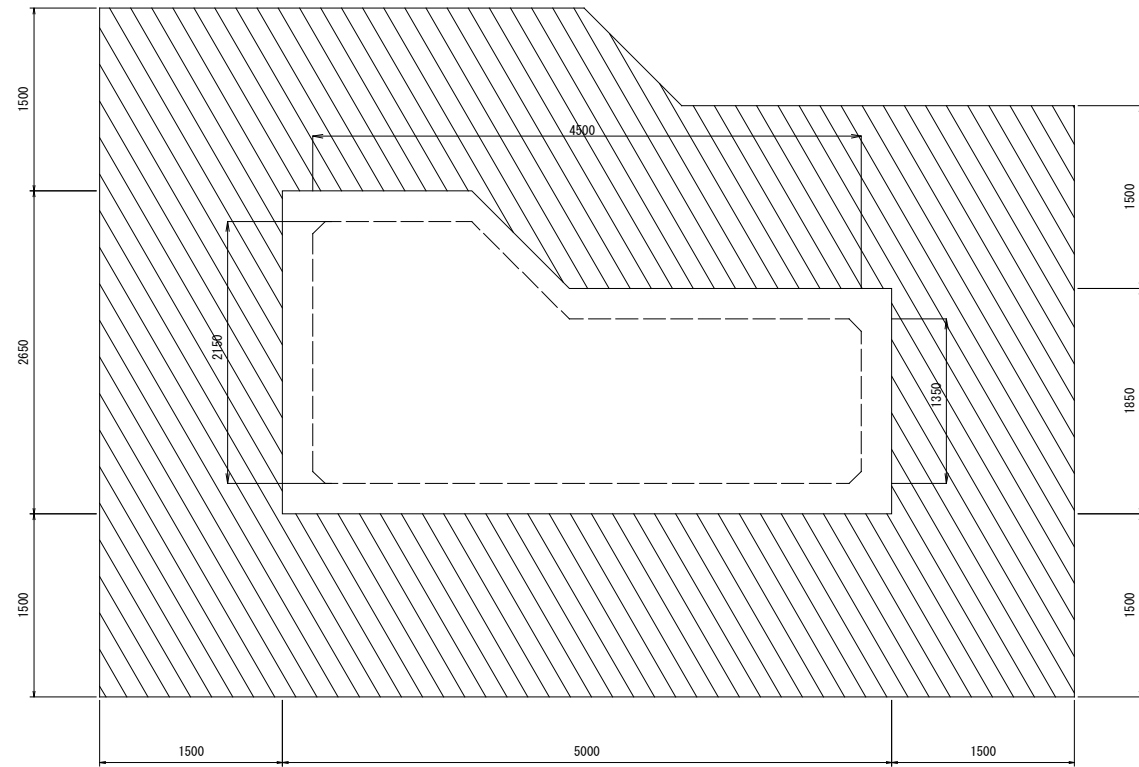
注) 詳細設計時には鉄筋探査が必要である。

薬液注入詳細図(1)

(L型マンホール)

MS1-1, MS5

注入孔間隔



積算用参考図

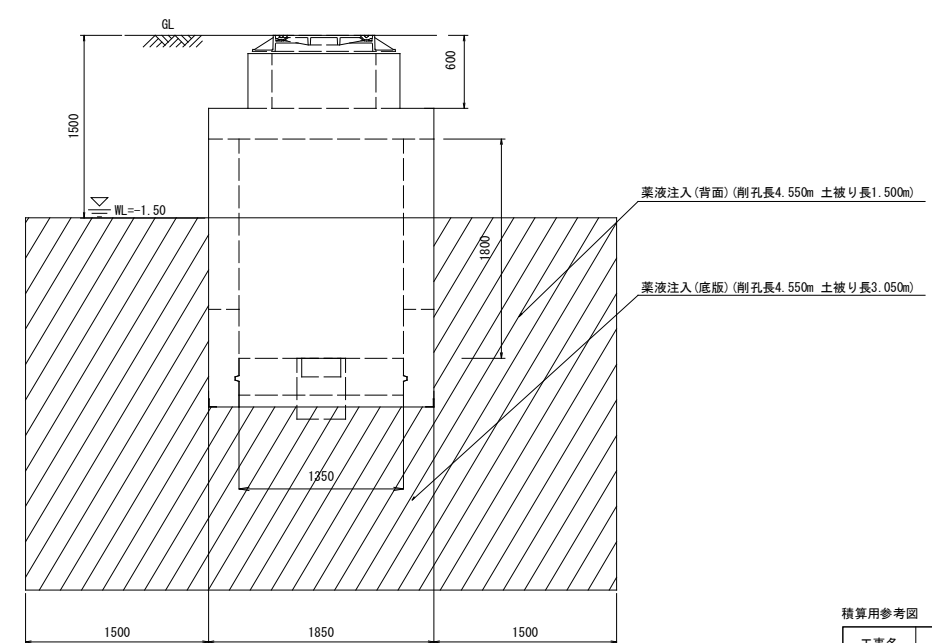
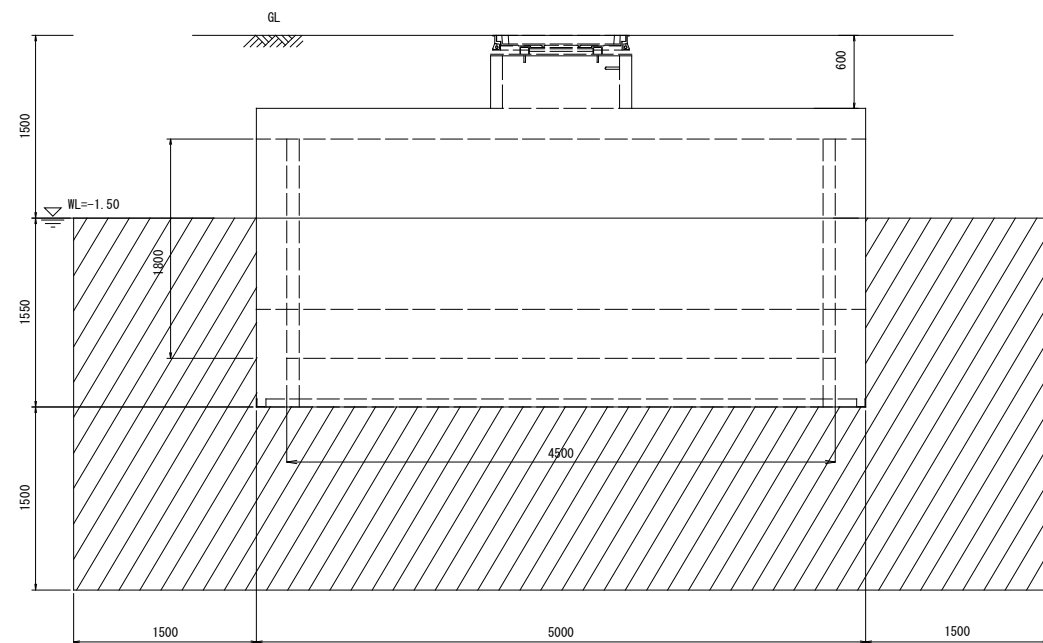
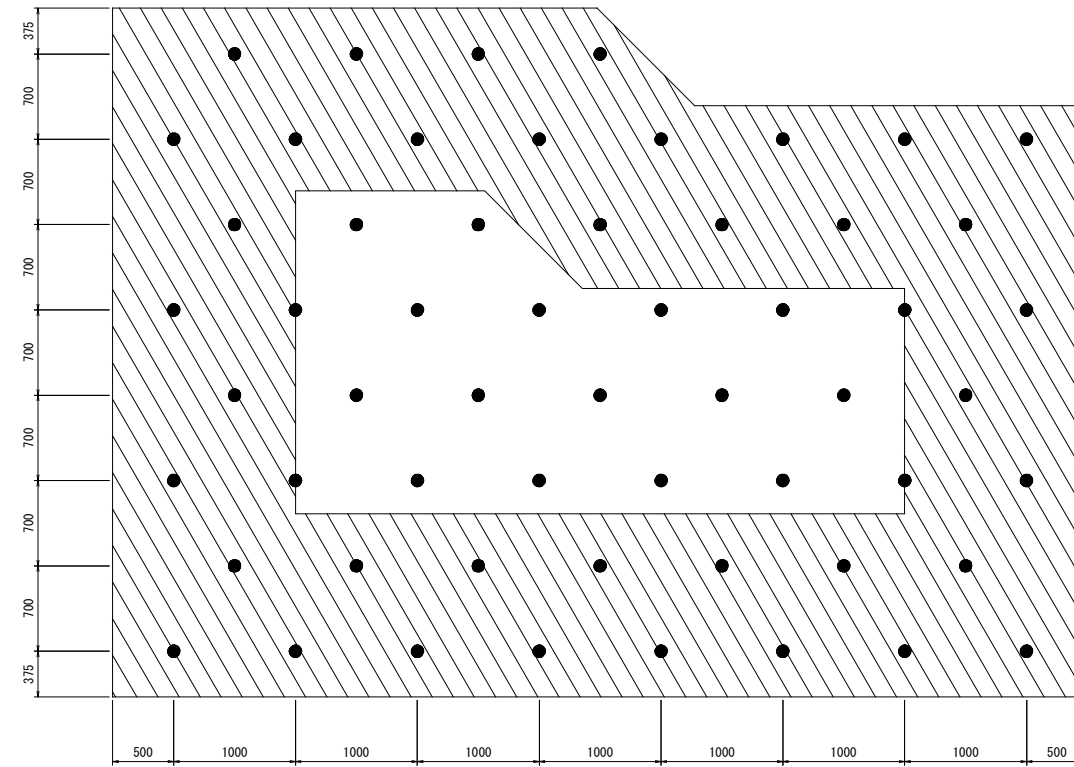
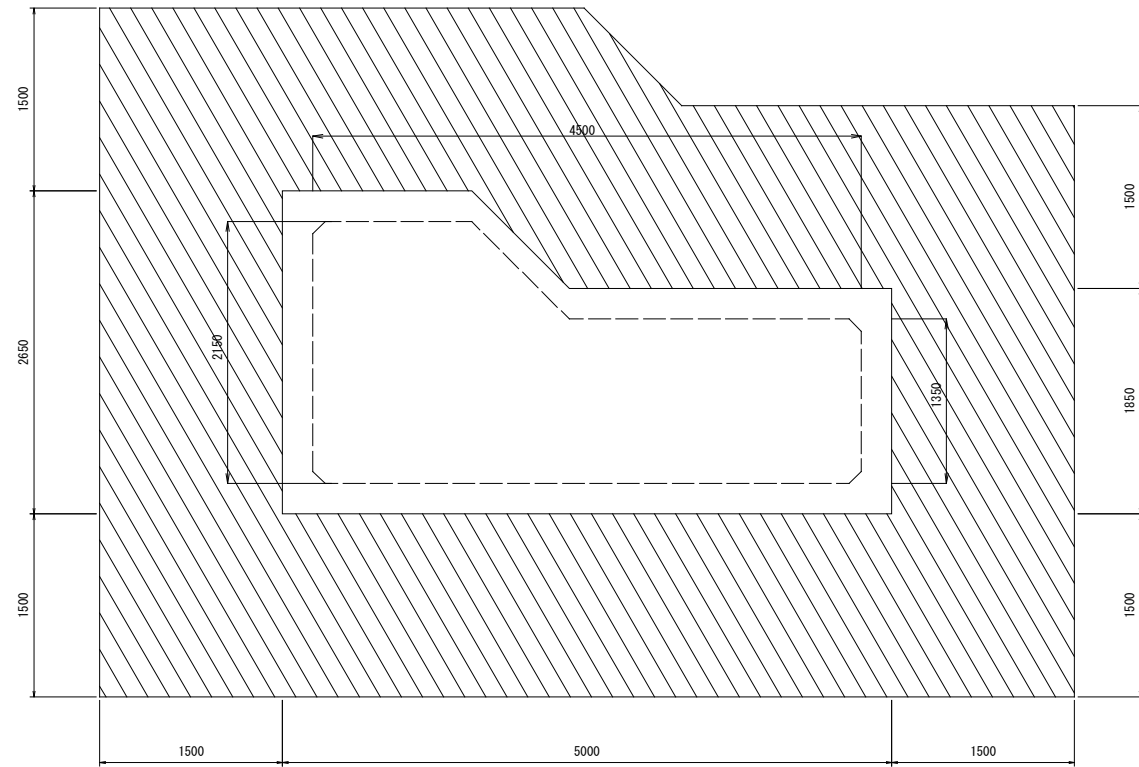
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	薬液注入詳細図(1)		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	20 葉之内 7
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

薬液注入詳細図(2)

(L型マンホール)

MN1

注入孔間隔



積算用参考図

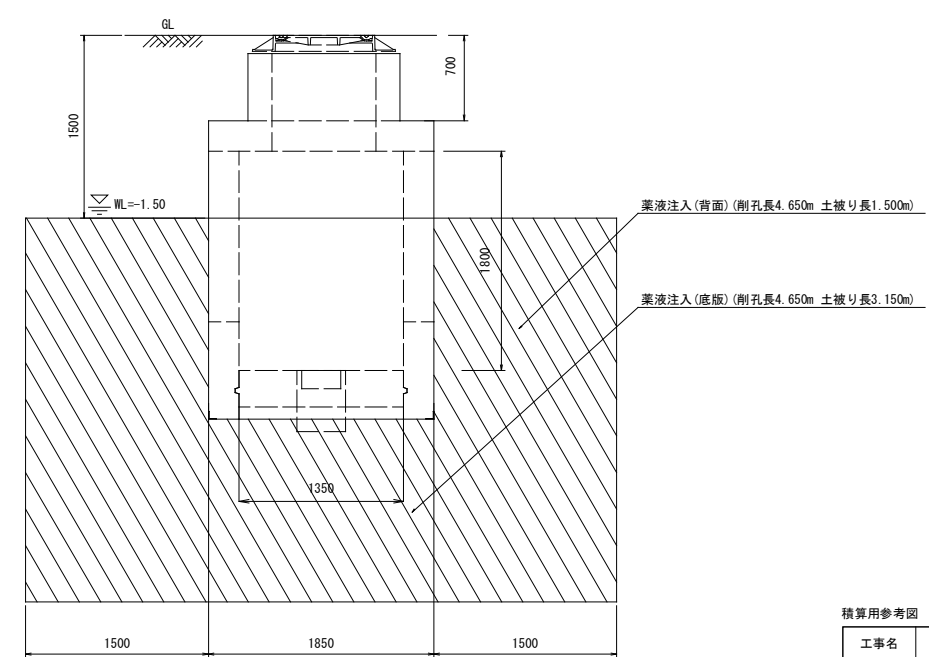
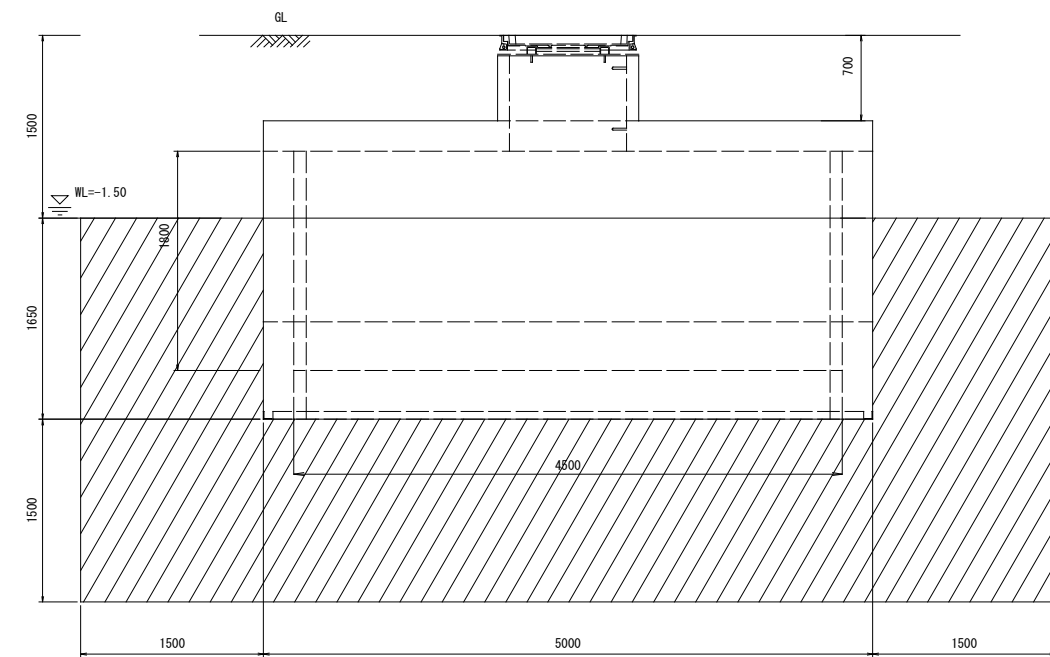
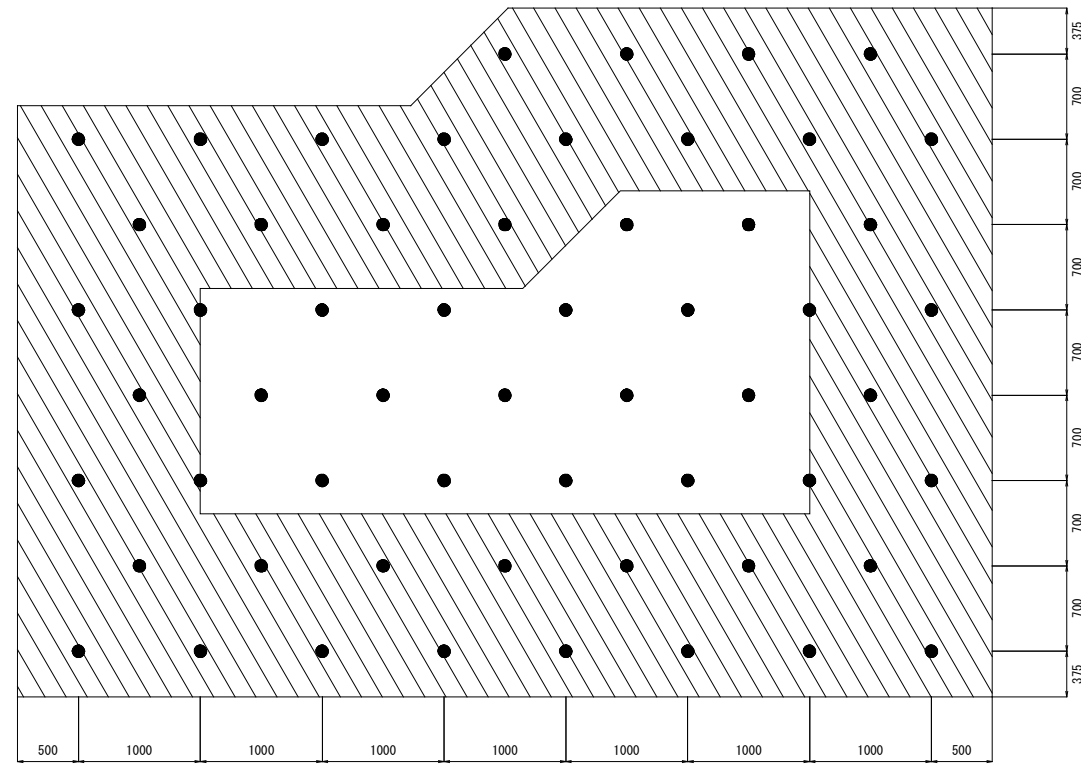
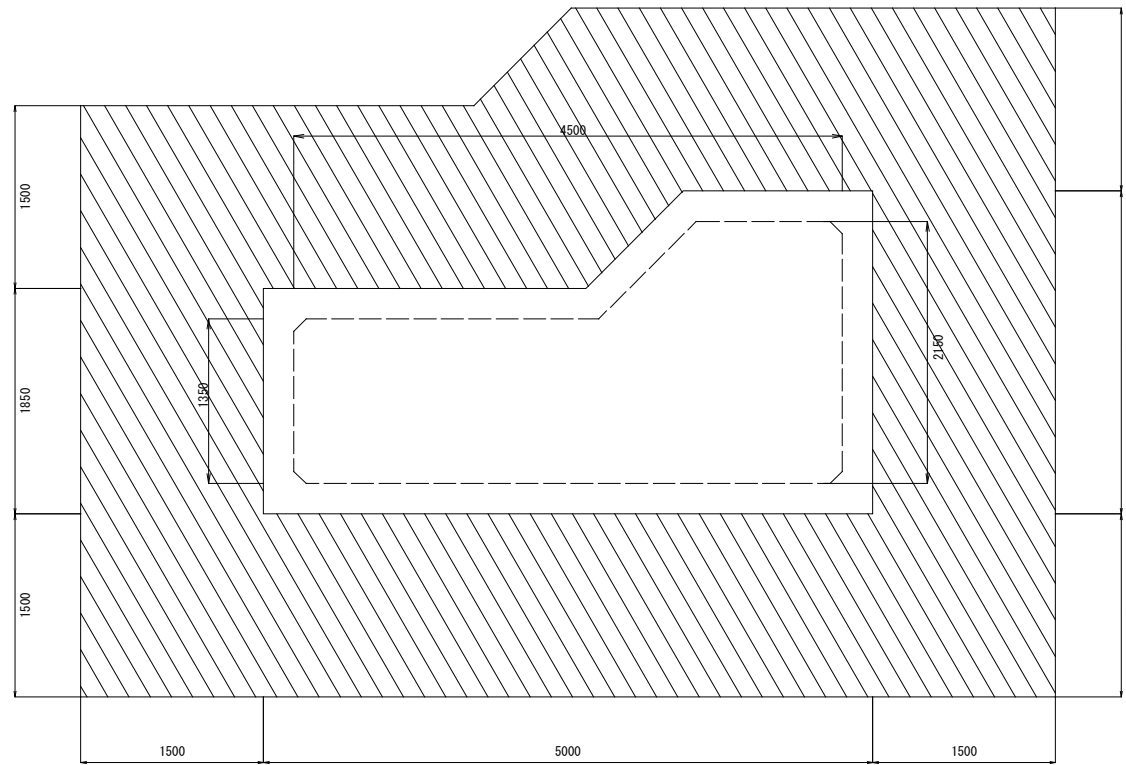
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	薬液注入詳細図(2)		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	20 葉之内 8
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

薬液注入詳細図(3)

(L型マンホール)

MN4

注入孔間隔



積算用参考図

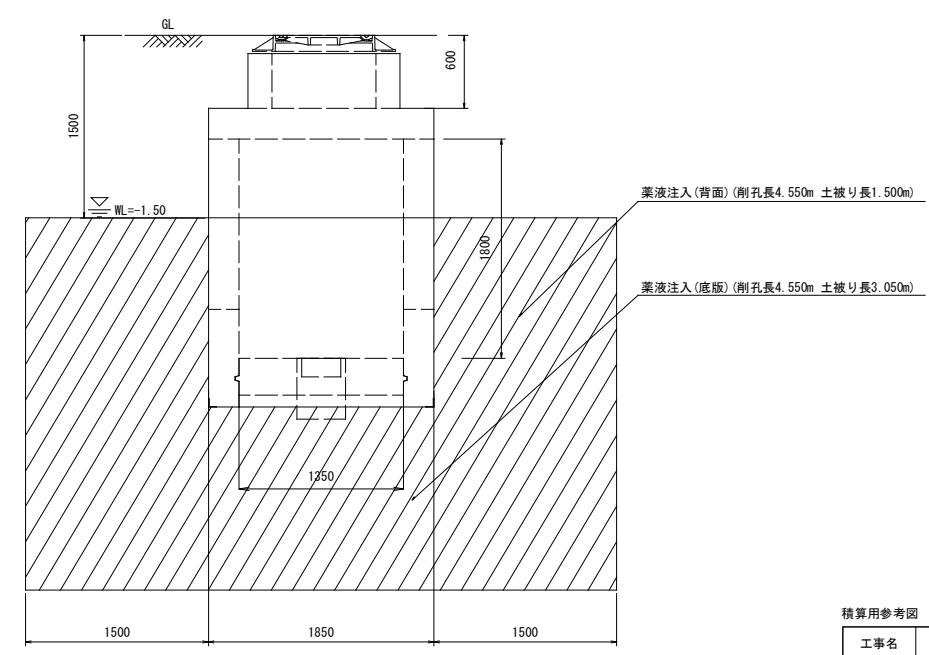
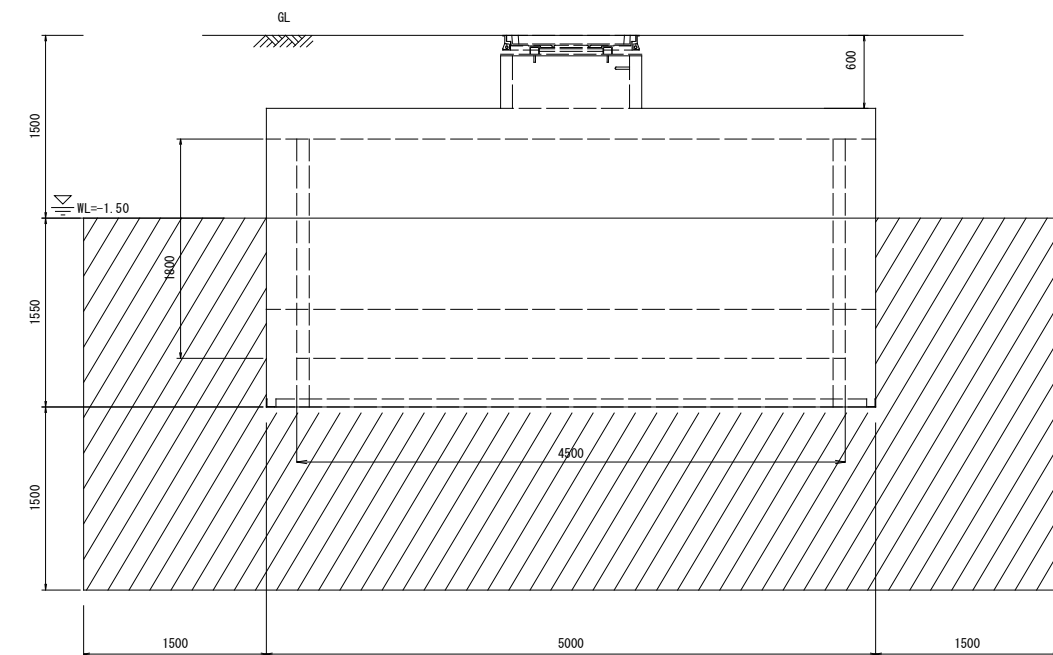
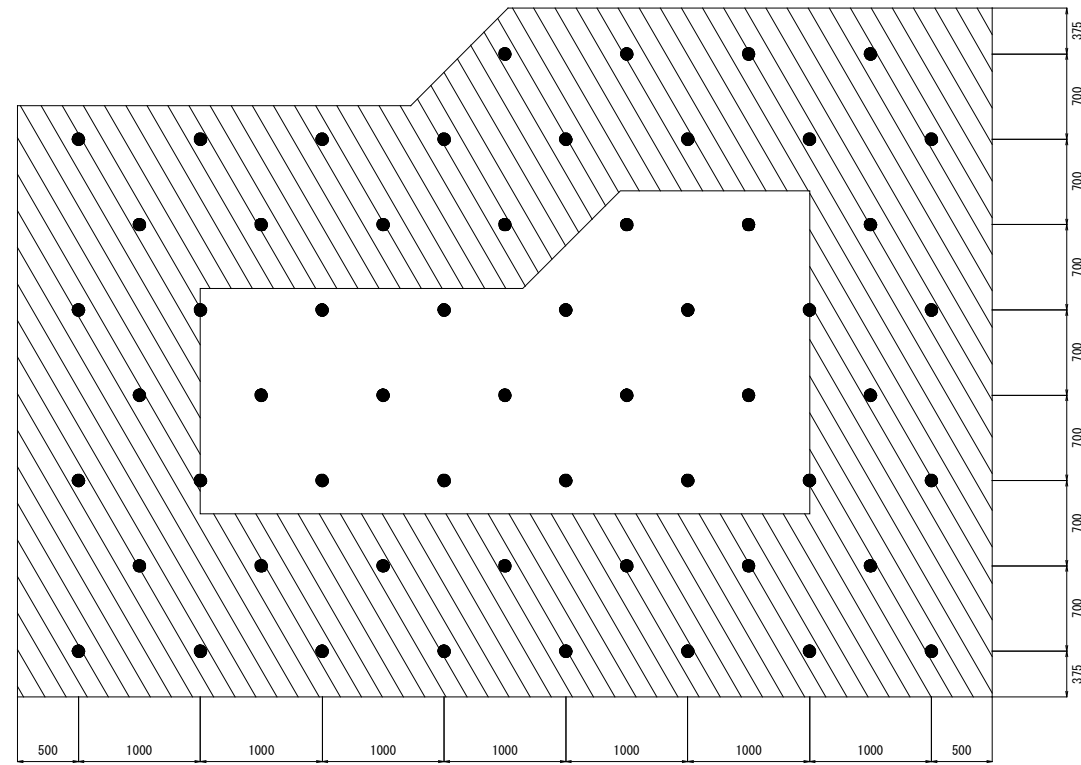
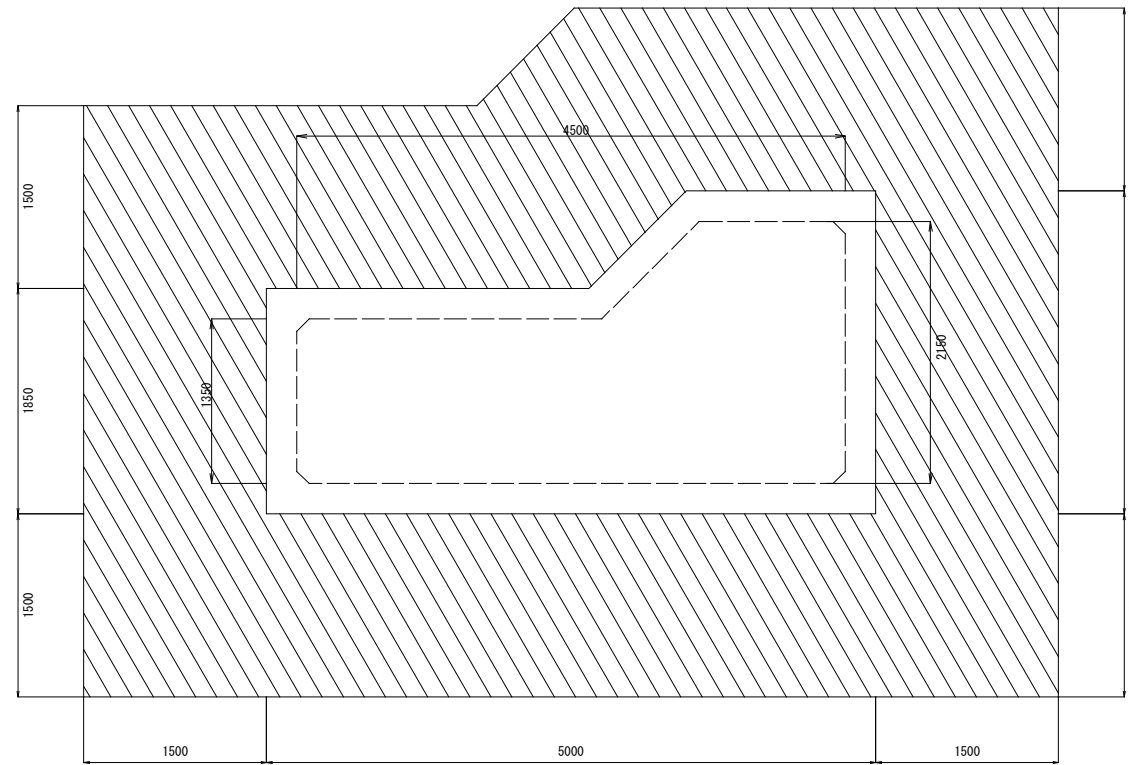
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	薬液注入詳細図(3)		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	20 葉之内 9
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

薬液注入詳細図(4)

(L型マンホール)

MS1, MN1-1

注入孔間隔



積算用参考図

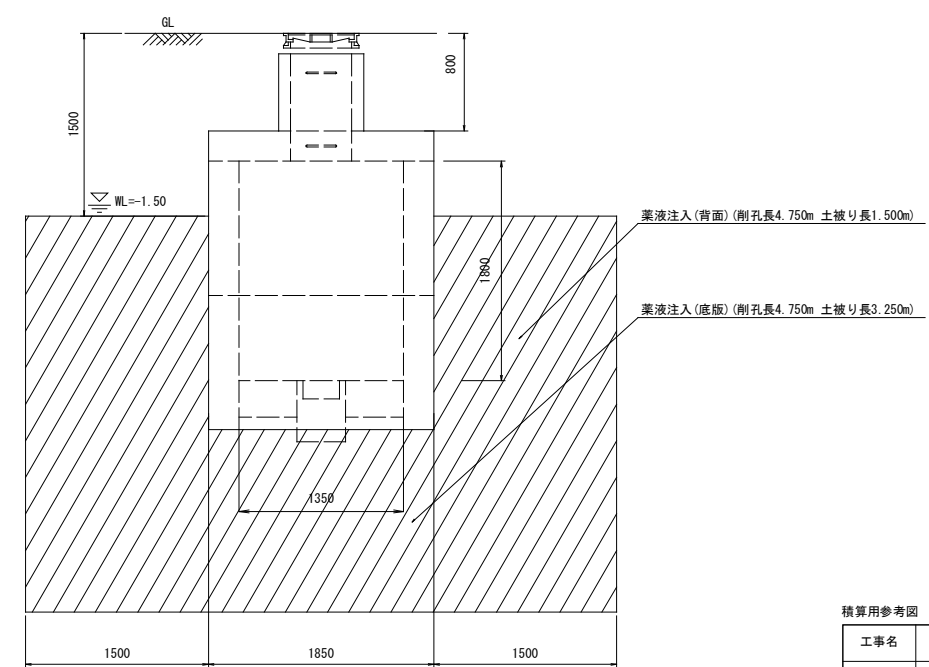
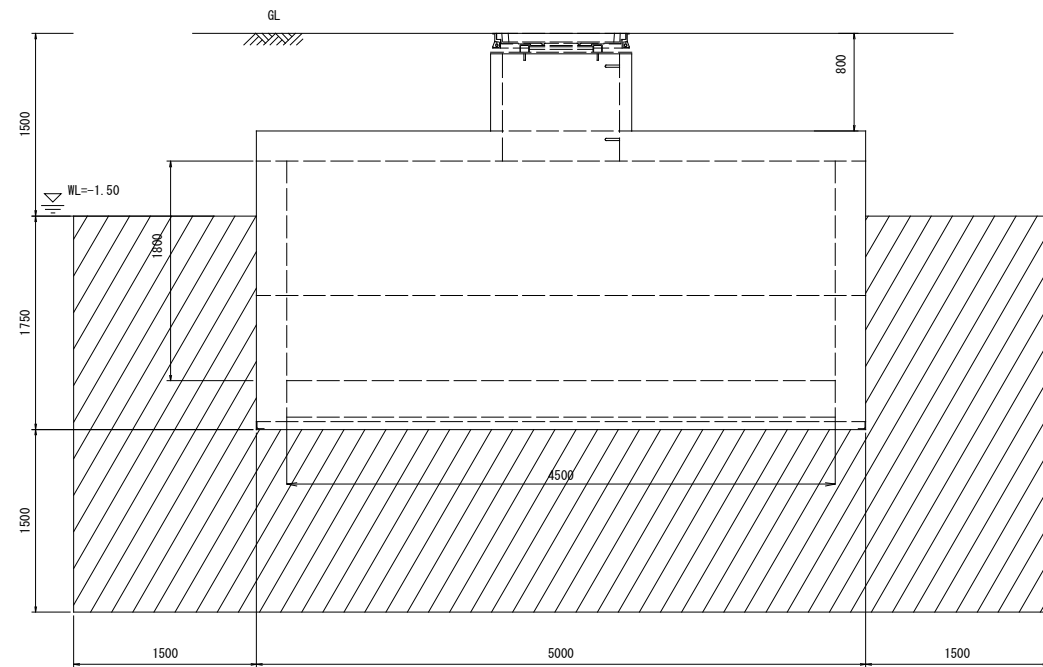
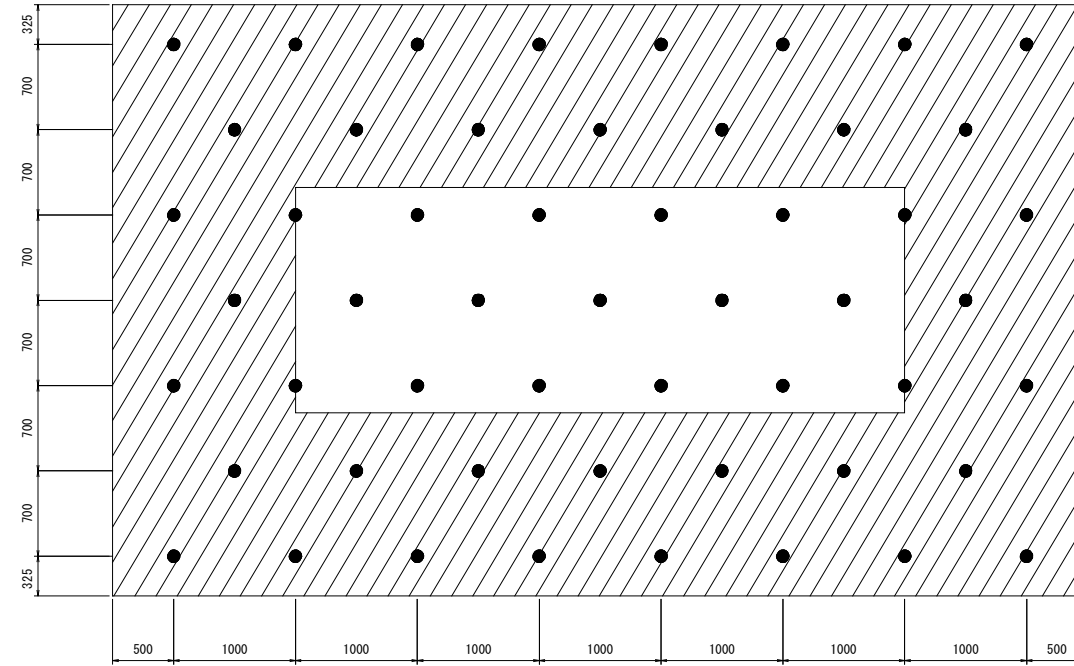
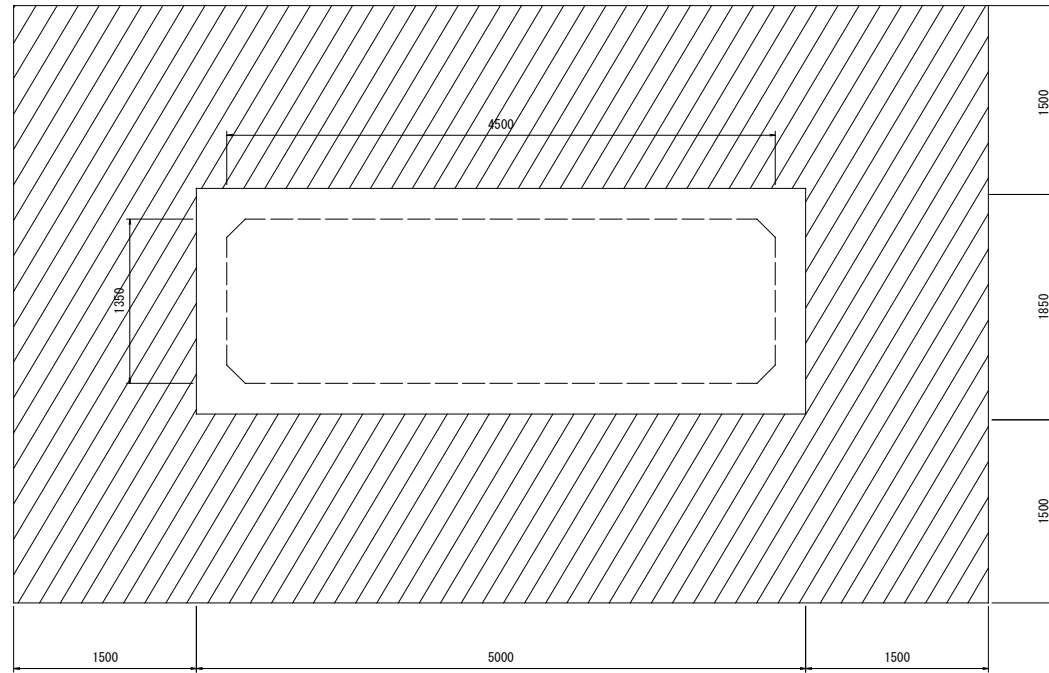
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	薬液注入詳細図(4)		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	20 葉之内 10
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

薬液注入詳細図(5)

(S型マンホール)

MN5

注入孔間隔



積算用参考図

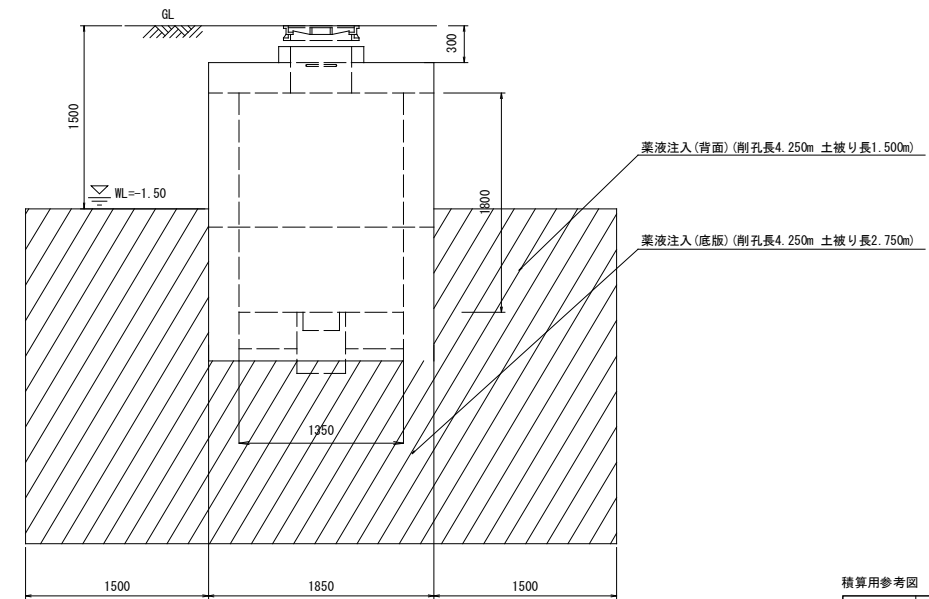
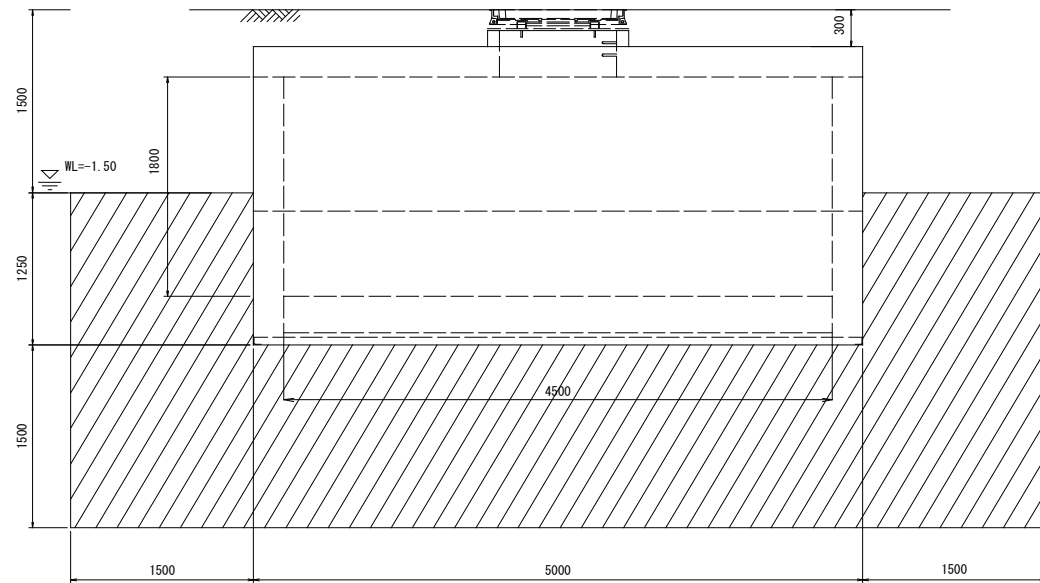
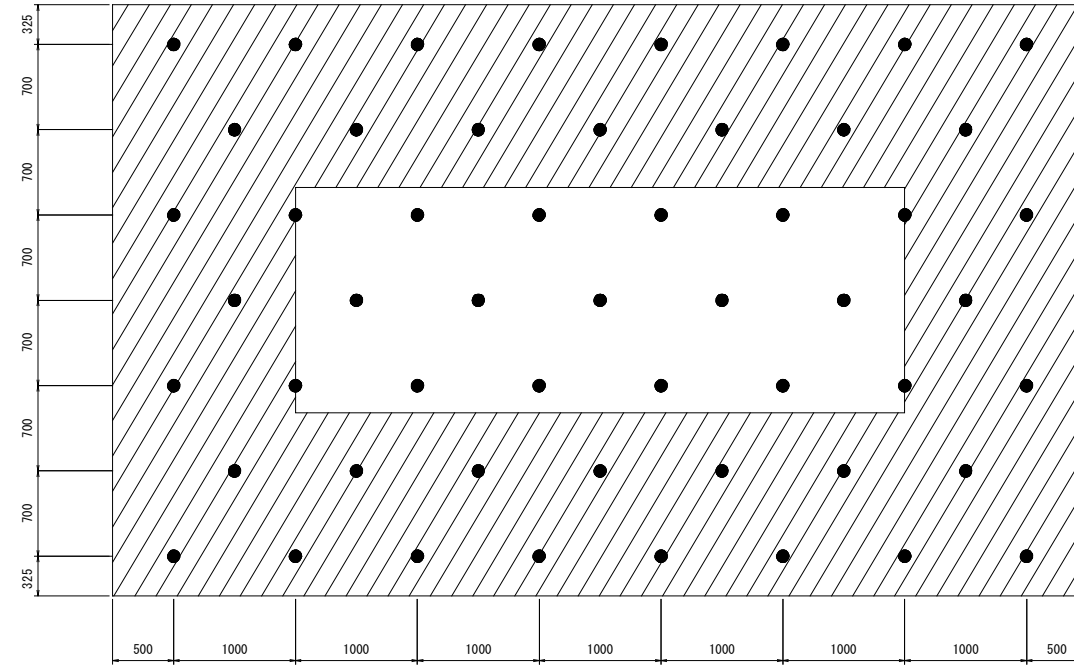
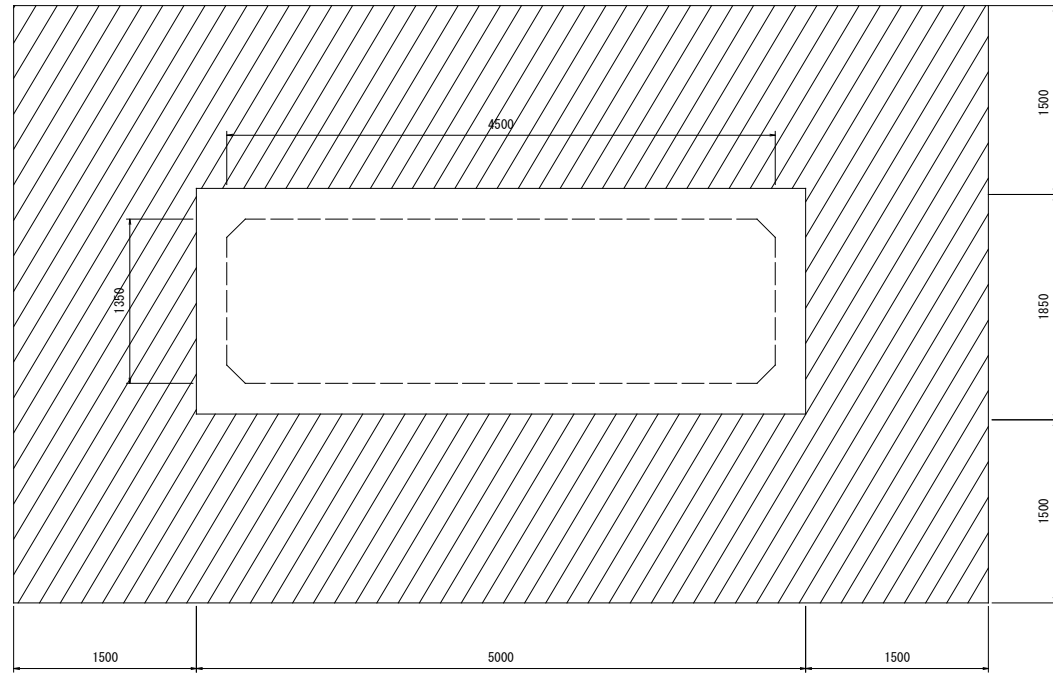
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	薬液注入詳細図(5)		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	20 葉之内 11
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

薬液注入詳細図(6)

(S型マンホール)

MS2, MS6

注入孔間隔



積算用参考図

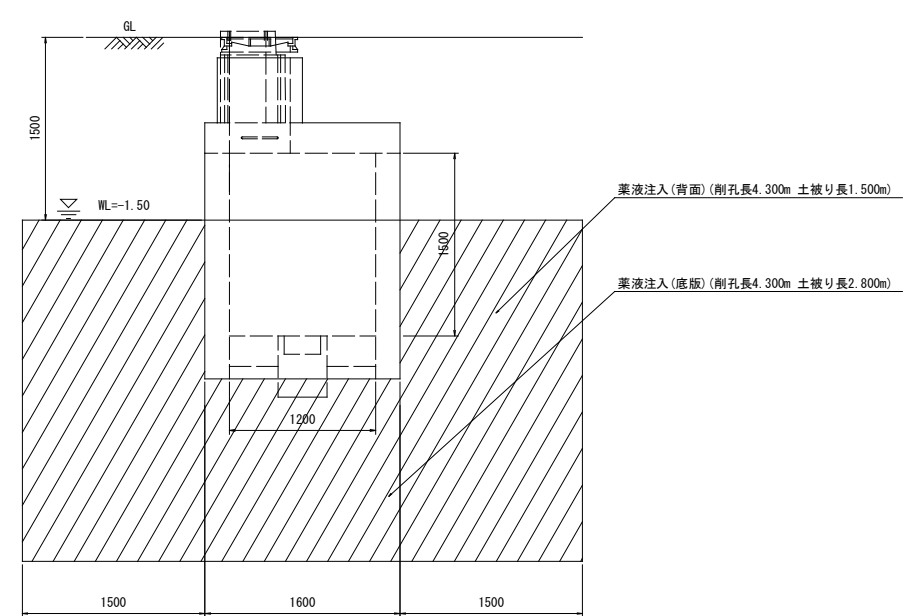
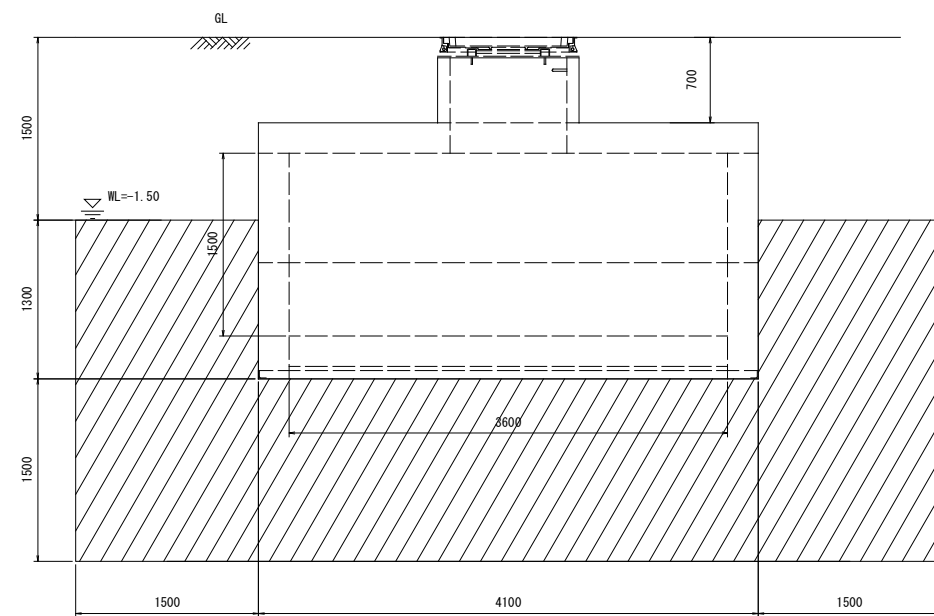
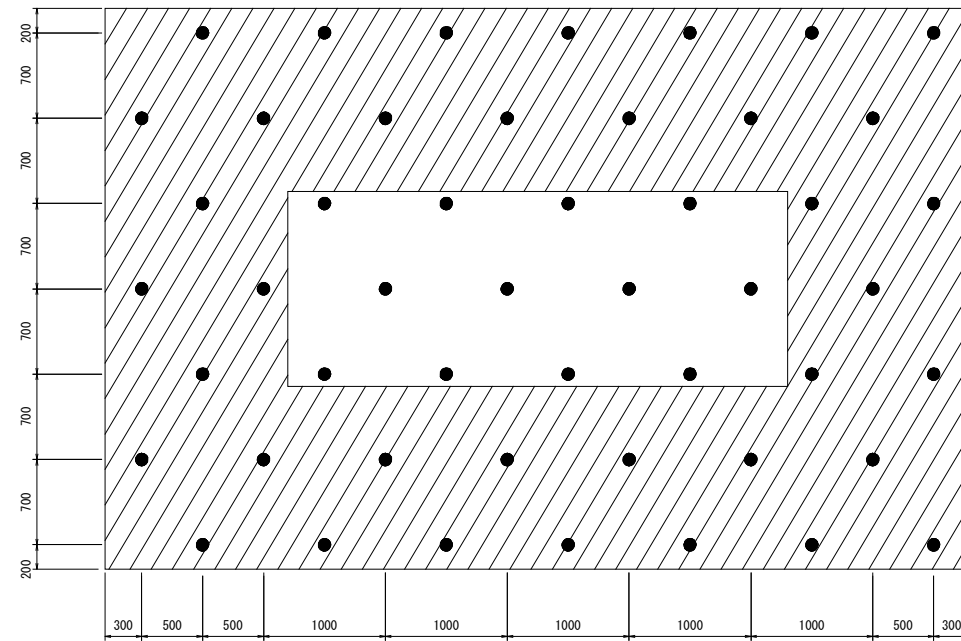
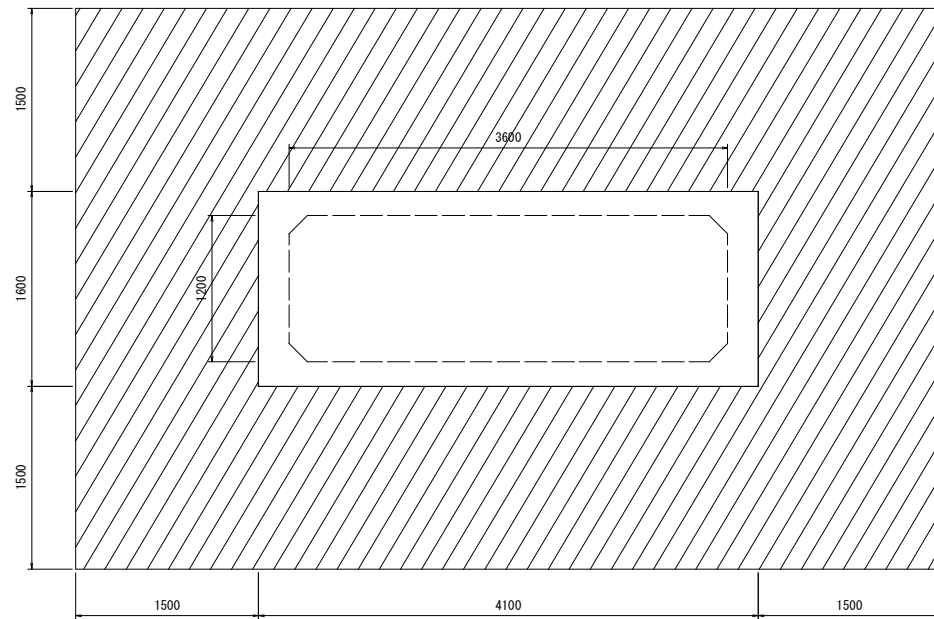
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	薬液注入詳細図(6)		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	20 葉之内 12
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

薬液注入詳細図(7)

(電力地上機器部)

AS1

注入孔間隔



積算用参考図

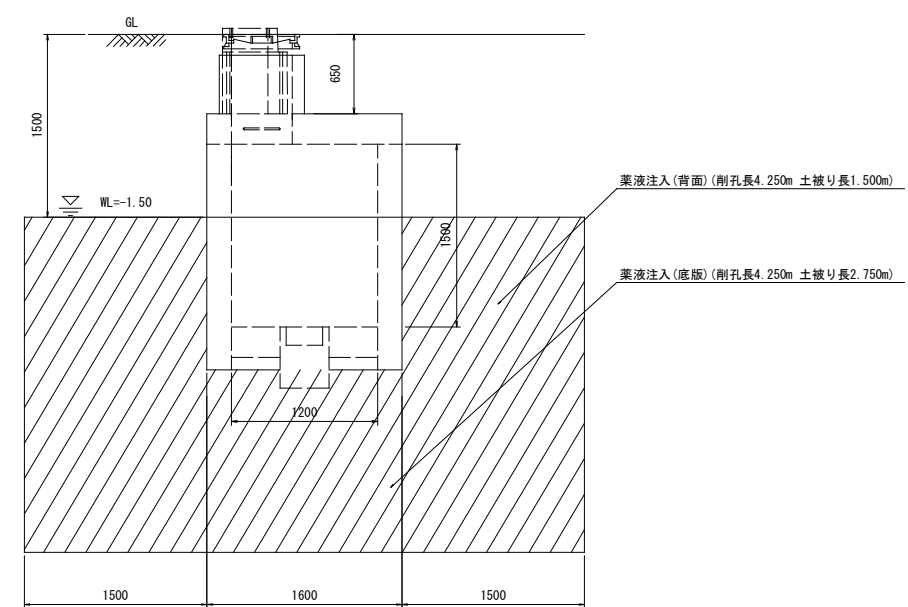
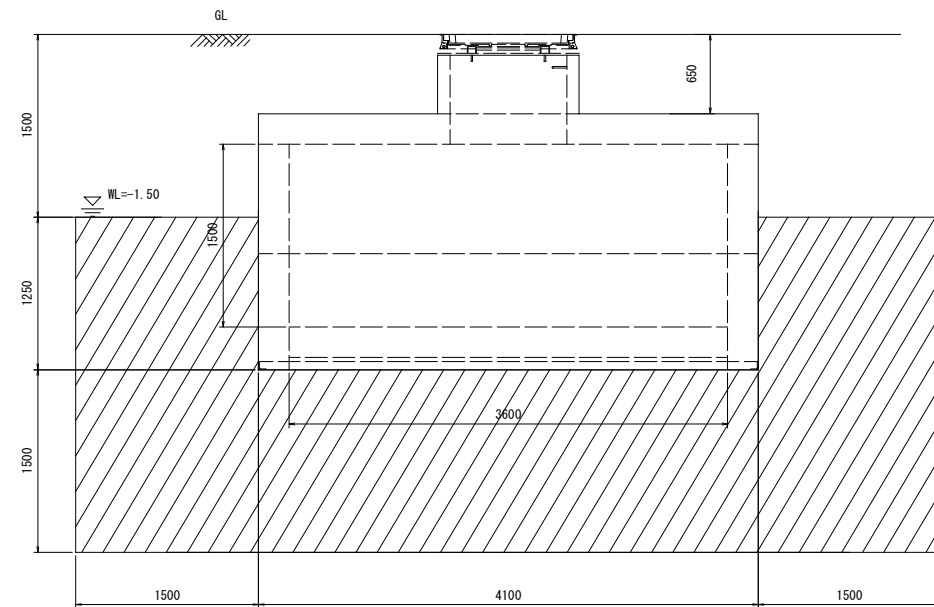
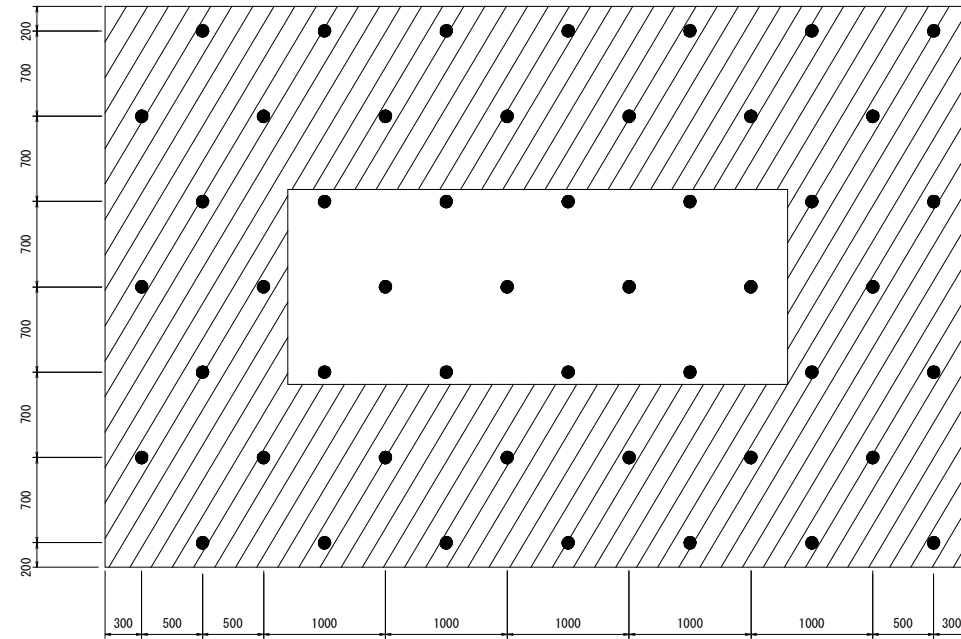
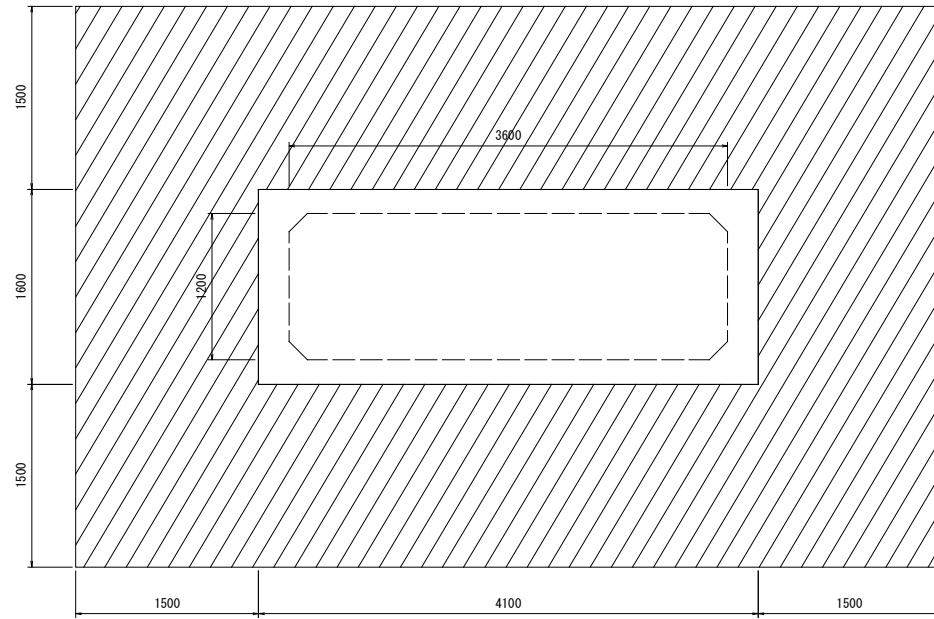
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	薬液注入詳細図(7)		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	20 葉之内 13
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

薬液注入詳細図(8)

(電力地上機器部)

AN1

注入孔間隔



積算用参考図

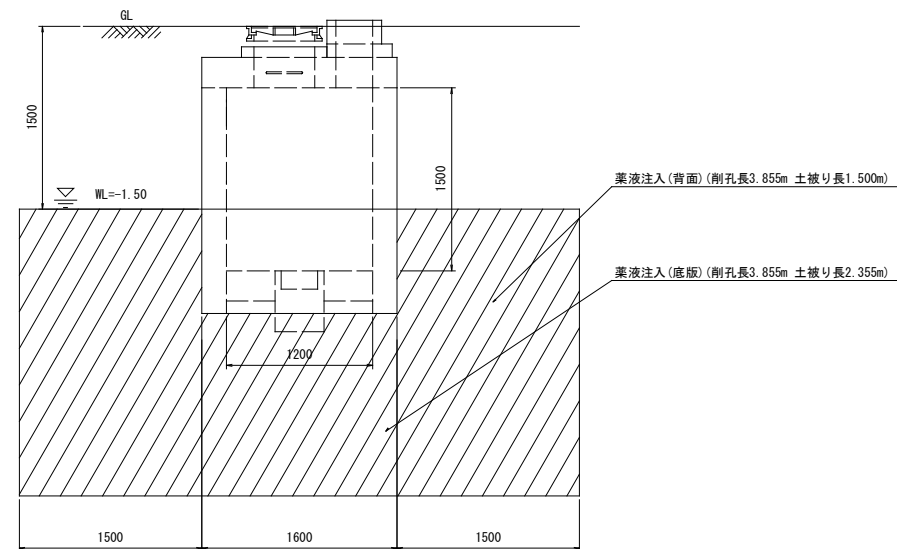
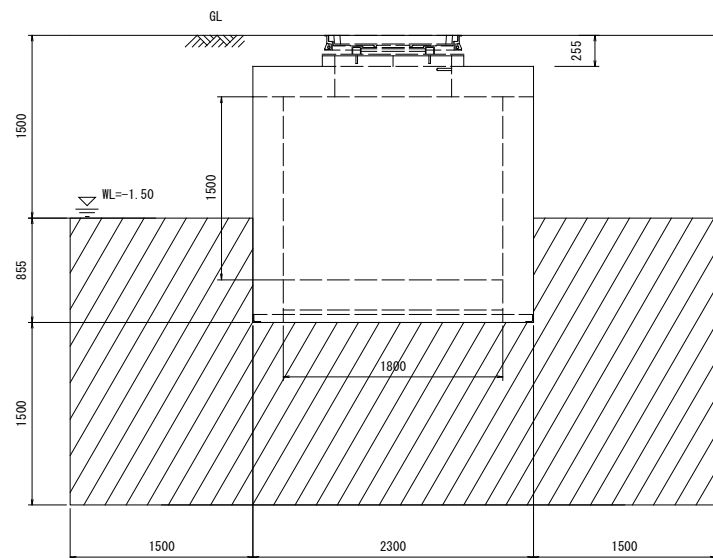
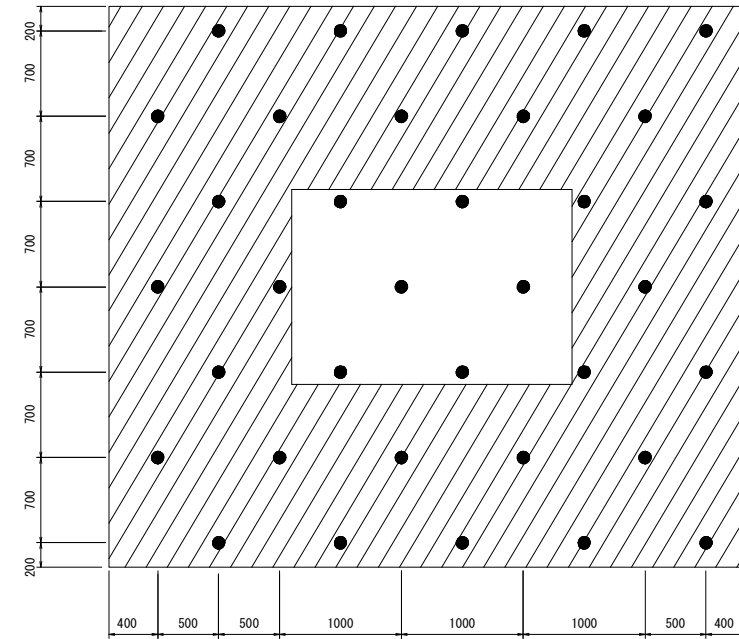
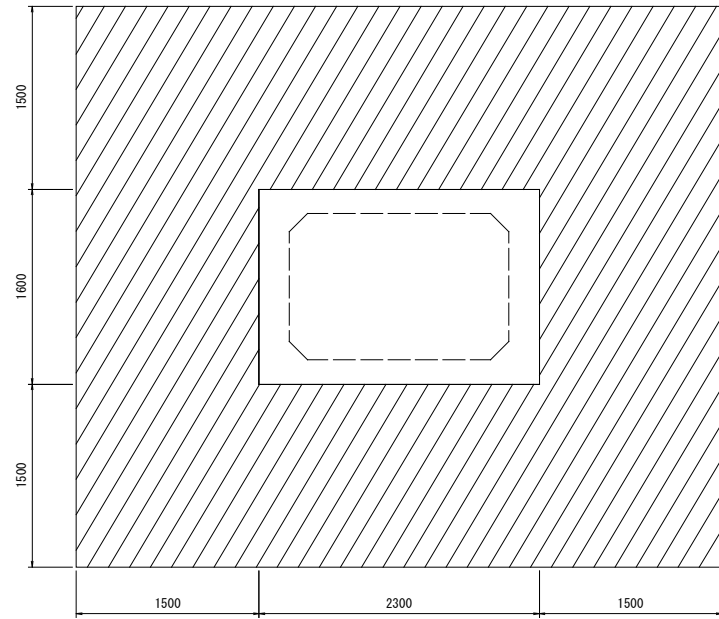
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	薬液注入詳細図(8)		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	20 葉之内 14
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

薬液注入詳細図(9)

(電力地上機器部)

AS2, AS3
AN2

注入孔間隔



積算用参考図

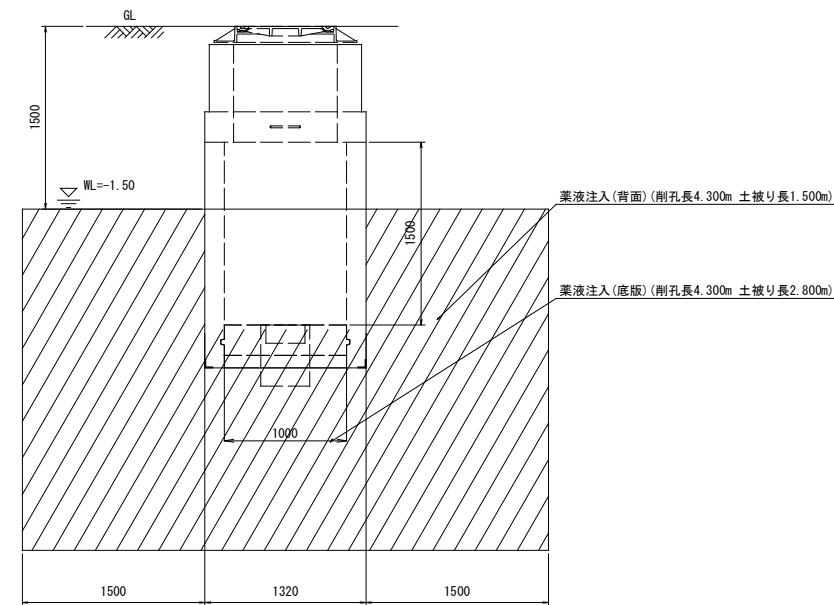
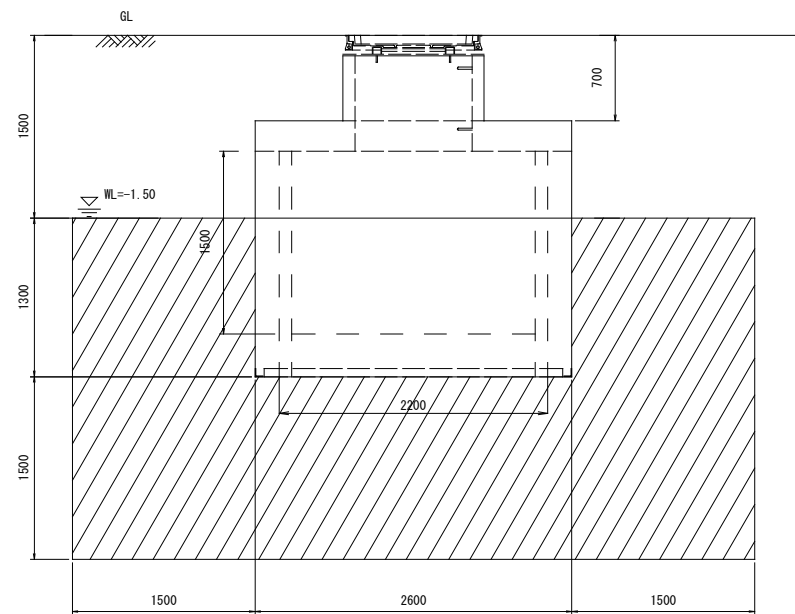
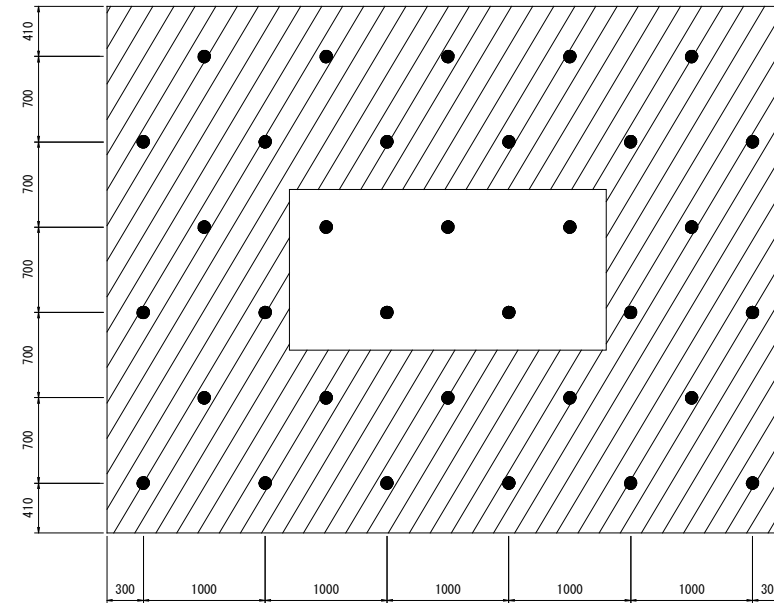
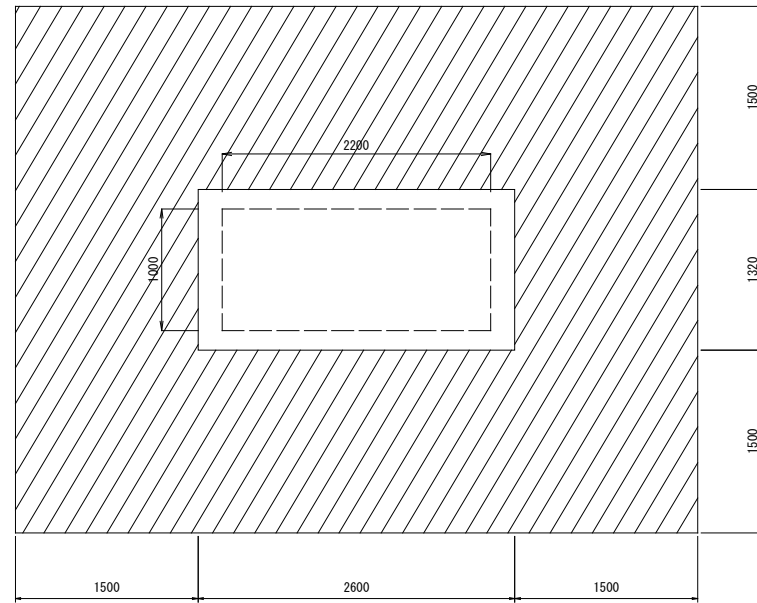
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	薬液注入詳細図(9)		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	20 葉之内 15
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

薬液注入詳細図(10)

(通信基点柵)

TN2

注入孔間隔



積算用参考図

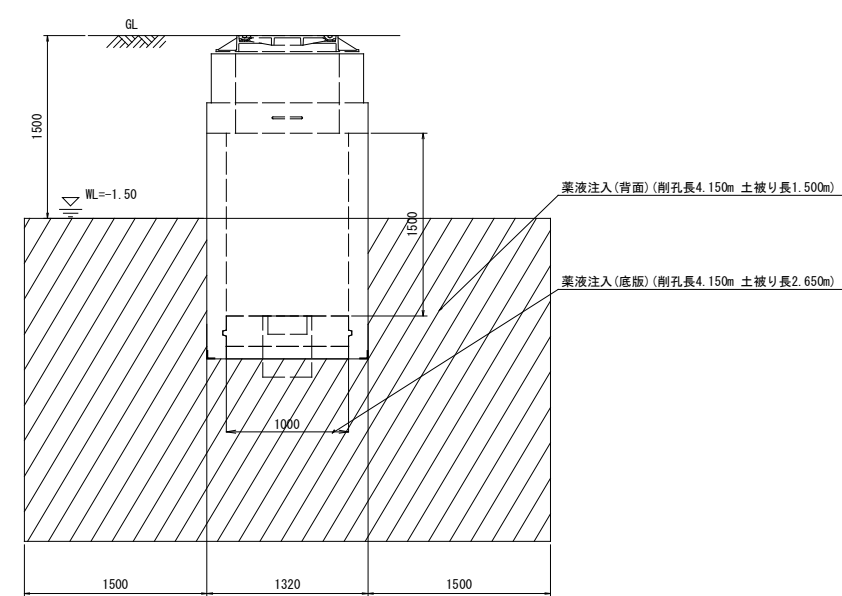
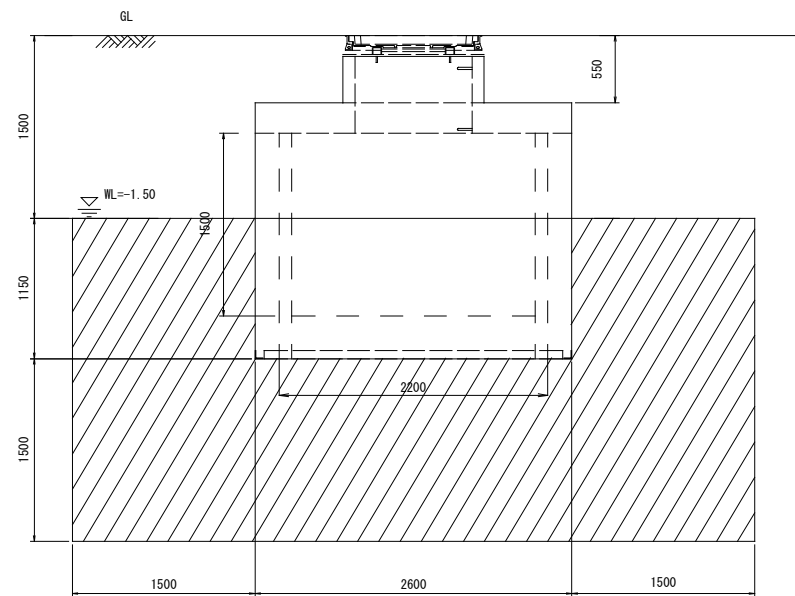
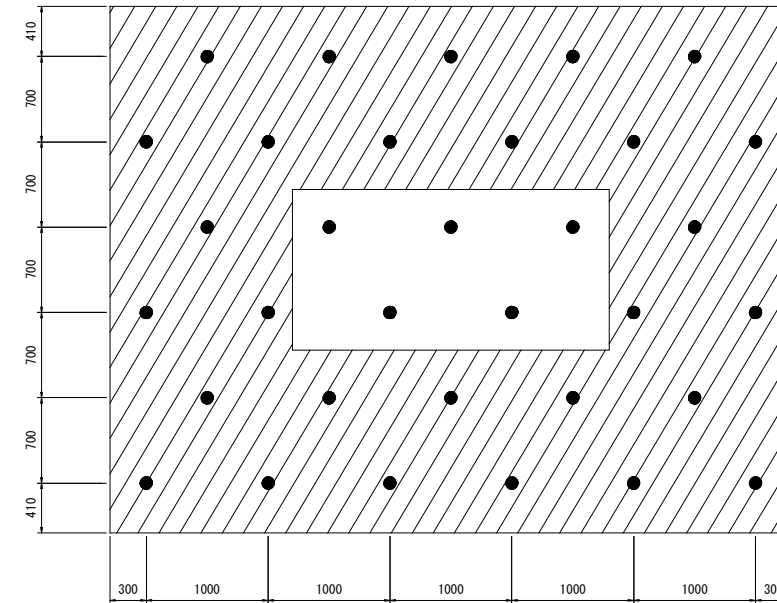
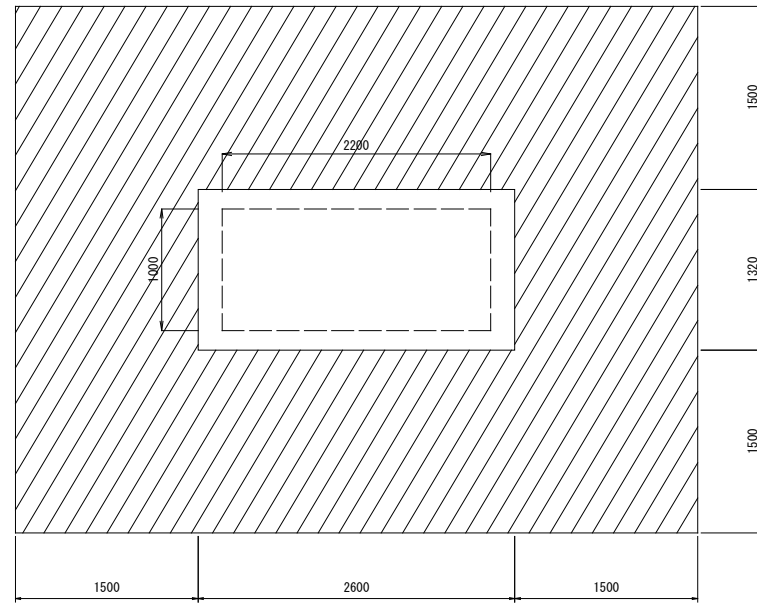
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	薬液注入詳細図(10)		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	20 葉之内 16
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

薬液注入詳細図(11)

(通信基点柵)

TS3, TN5

注入孔間隔



積算用参考図

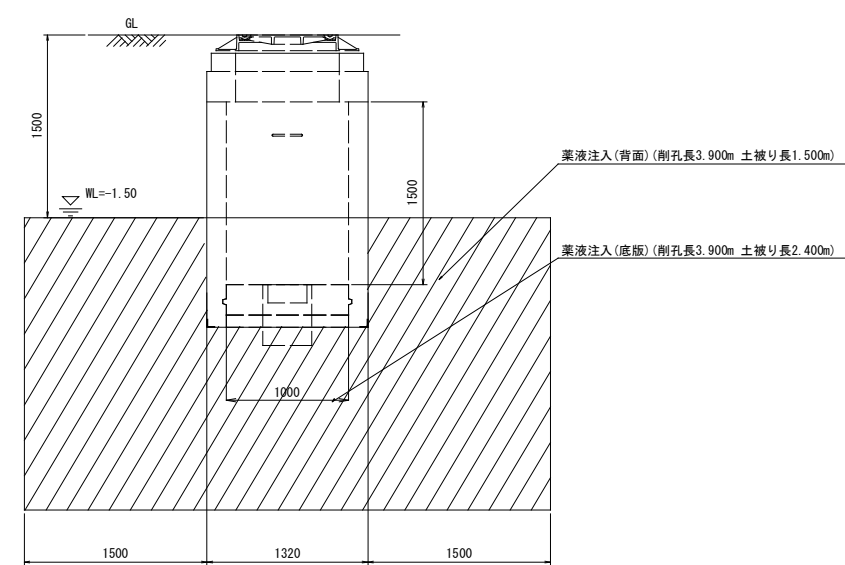
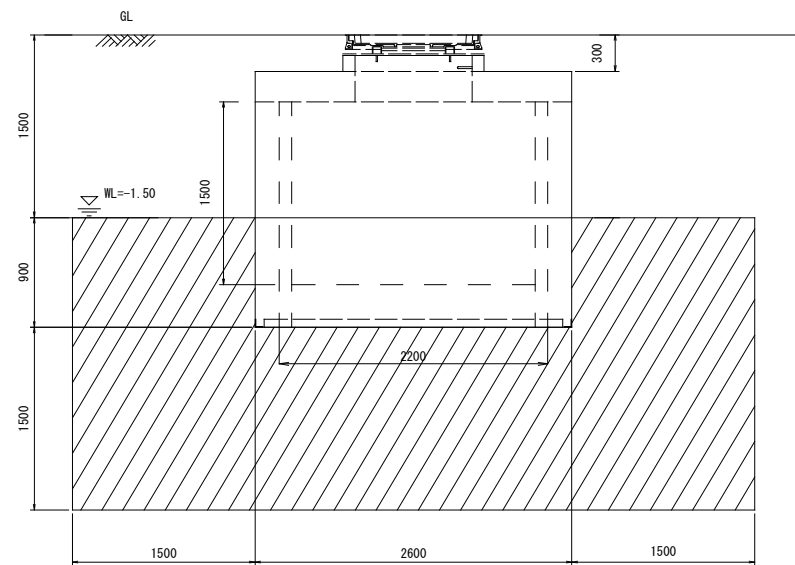
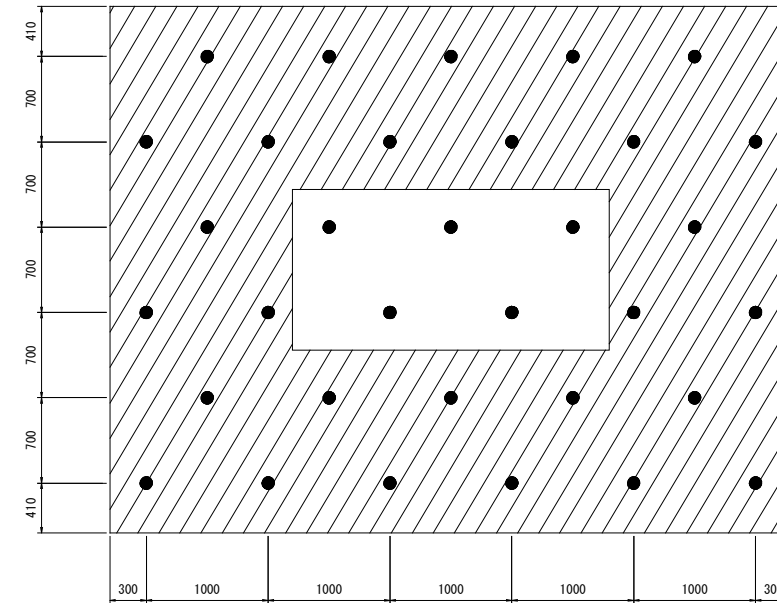
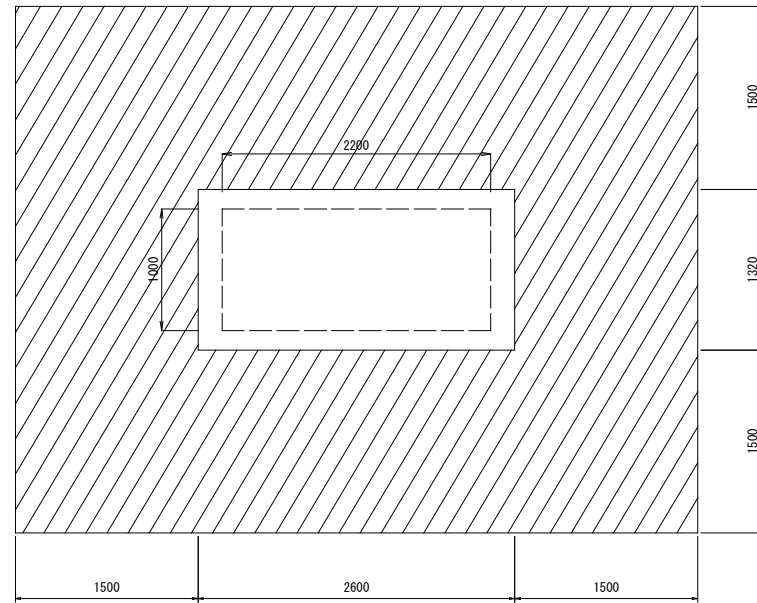
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	薬液注入詳細図(11)		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	20 葉之内 17
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

薬液注入詳細図(12)

(通信基点柵)

TS2

注入孔間隔

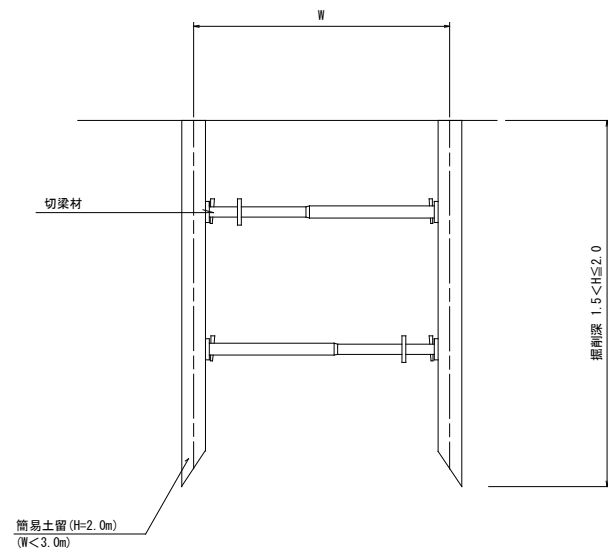


積算用参考図

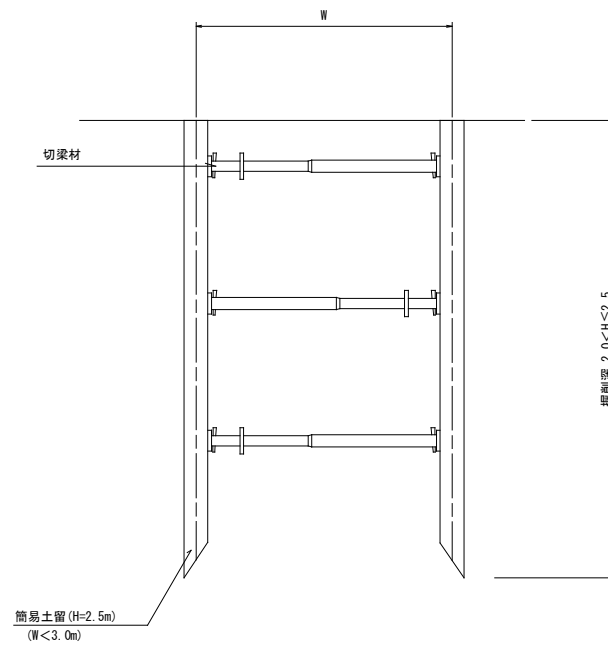
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	薬液注入詳細図(12)		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	20 葉之内 18
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

仮設構造物(1)

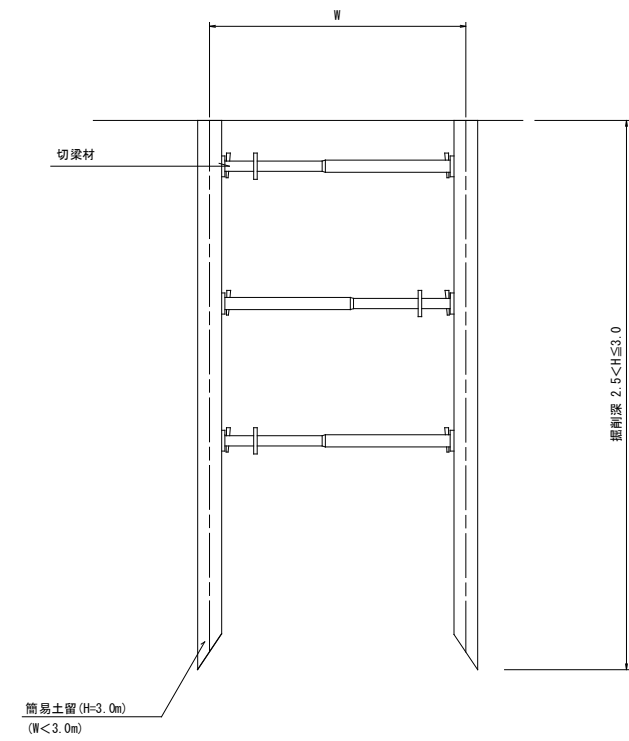
簡易土留
(掘削深 $1.5\text{m} < H \leq 2.0\text{m}$)



簡易土留
(掘削深 $2.0\text{m} < H \leq 2.5\text{m}$)



簡易土留
(掘削深 $2.5\text{m} < H \leq 3.0\text{m}$)

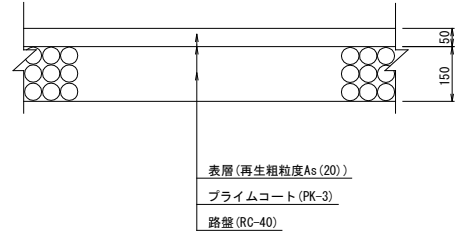


積算用参考図

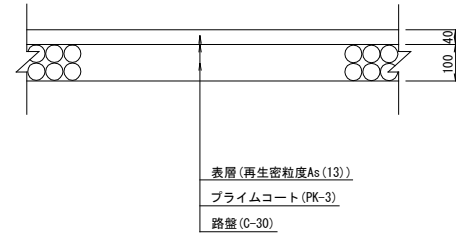
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PFI事業		
図面名	仮設構造物(1)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	20 葉之内 19
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

仮設構造図(2)

仮舗装(A)



仮舗装(B)



積算用参考図

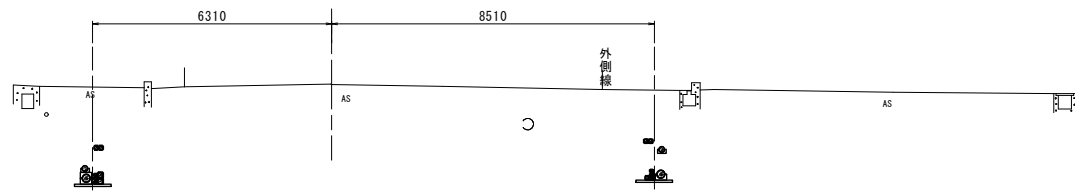
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	仮設構造図(2)		
作成年月日			
縮尺	1:10	図面番号	20 葉之内 20
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

見積参考図面（参考図）

横断図(1)

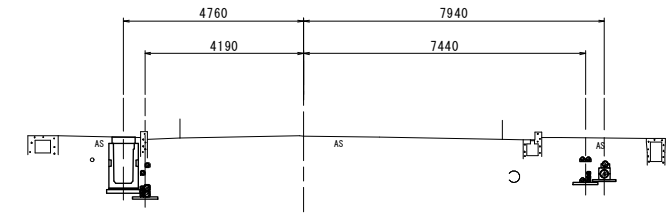
ENO. 0

GH= 3.64
FH=



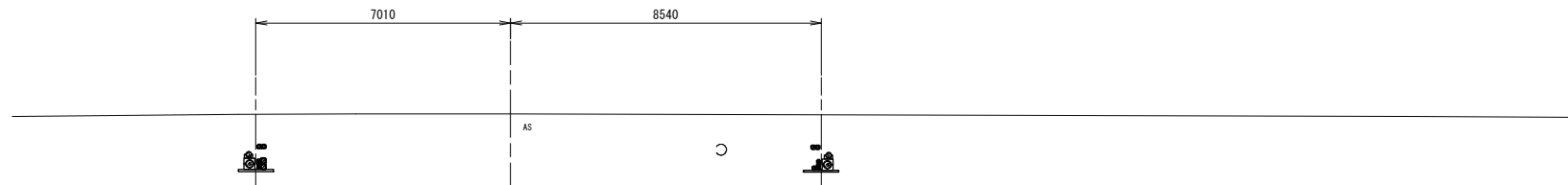
ENO. 3

GH= 3.68
FH=



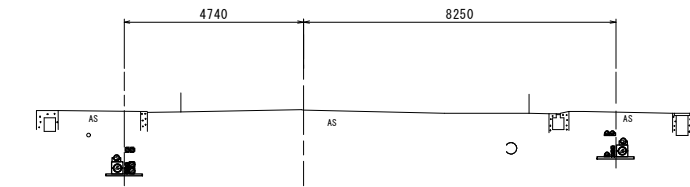
ENO. -1

GH= 3.58
FH=



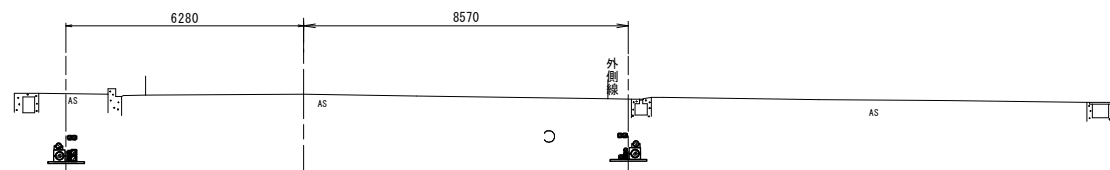
ENO. 2

GH= 3.65
FH=



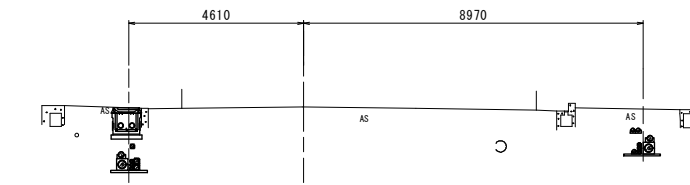
ENO. -2

GH= 3.58
FH=



ENO. 1

GH= 3.64
FH=



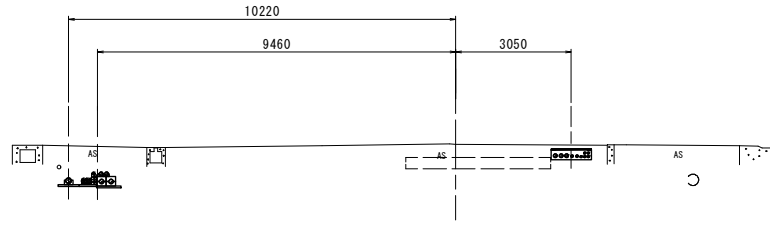
参考図

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	横断図(1)		
作成年月日			
縮尺	1:100	図面番号	10 葉之内 1
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

横断図(2)

ENO. 6

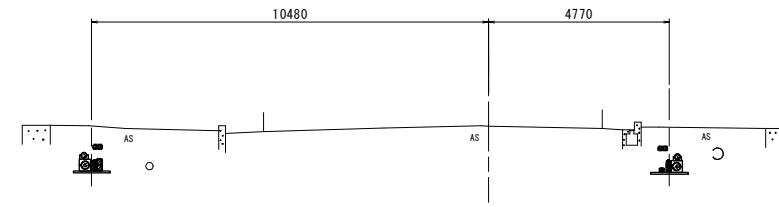
GH= 4.35
FH=



DL=0.00

ENO. 9

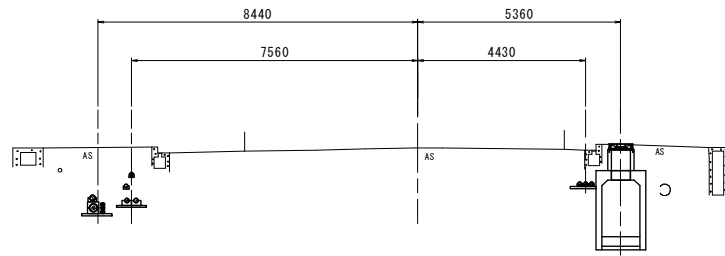
GH= 5.96
FH=



DL=0.00

ENO. 5

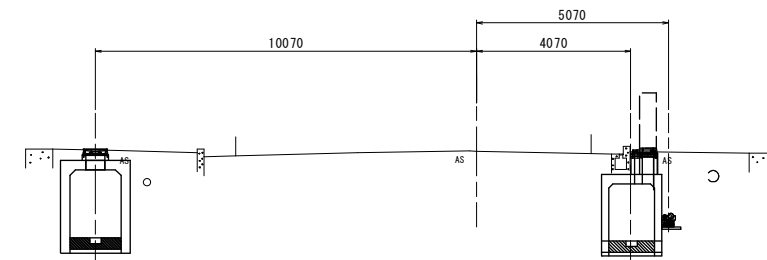
GH= 4.01
FH=



DL=0.00

ENO. 8

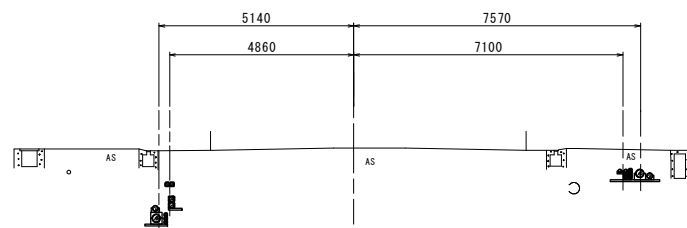
GH= 5.37
FH=



DL=0.00

ENO. 4

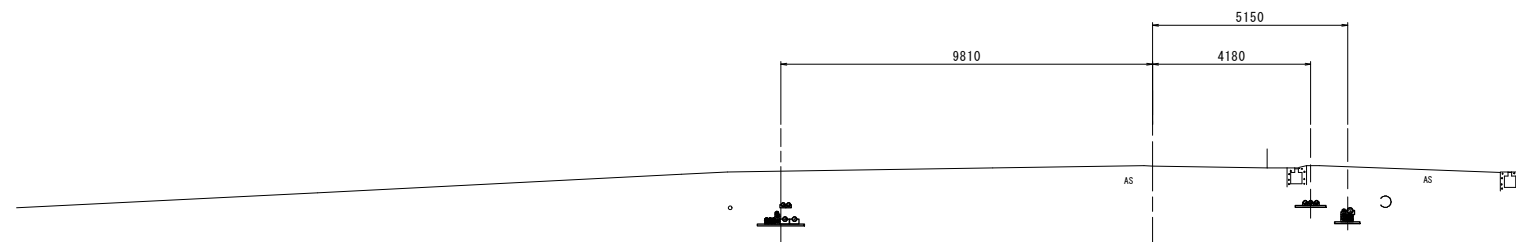
GH= 3.78
FH=



DL=0.00

ENO. 7

GH= 4.81
FH=



DL=0.00

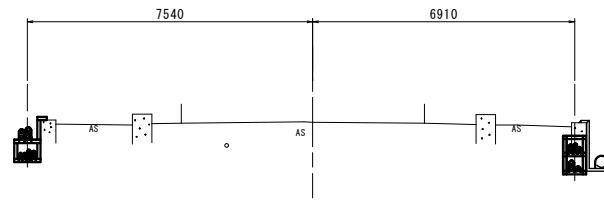
参考図

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	横断図(2)		
作成年月日			
縮尺	1:100	図面番号	10 葉之内 2
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

横断図(3)

ENO. 12

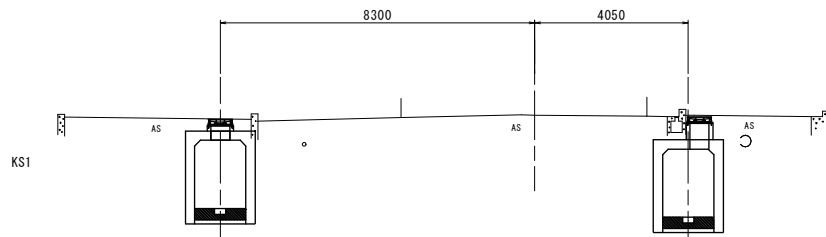
GH= 7.26
FH=



DL=0.00

ENO. 11

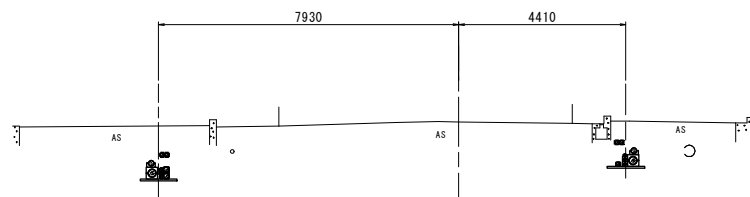
GH= 6.86
FH=



DL=0.00

ENO. 10

GH= 6.44
FH=



DL=0.00

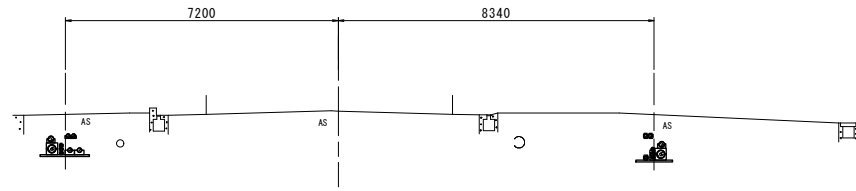
参考図

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	横断図(3)		
作成年月日			
縮尺	1:100	図面番号	10 葉之内 3
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

横断図(4)

WNO. -2

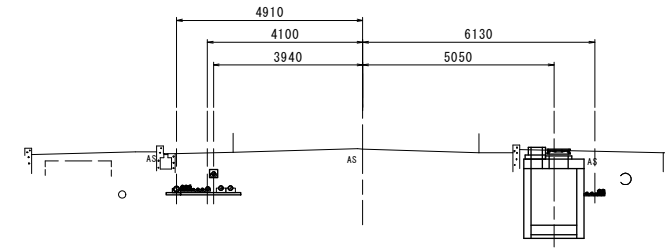
GH= 7.23
FH=



DL=0.00

WNO. 1

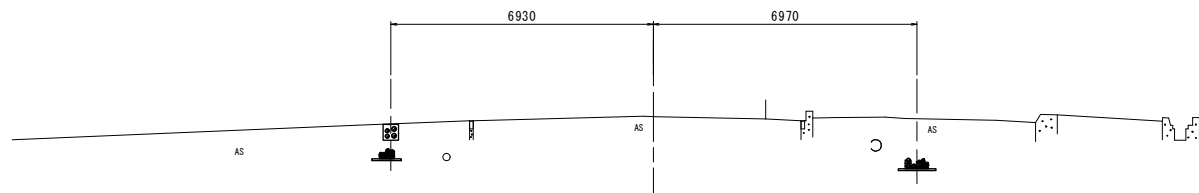
GH= 6.07
FH=



DL=0.00

WNO. -3

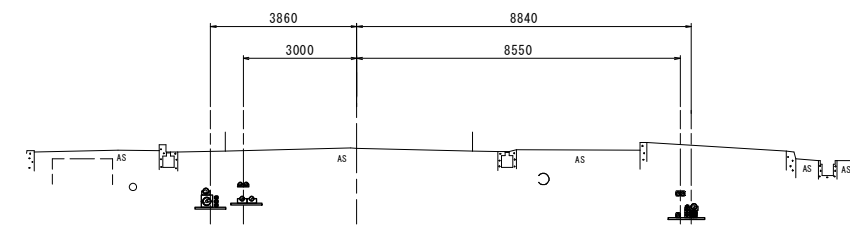
GH= 7.38
FH=



DL=0.00

WNO. 0

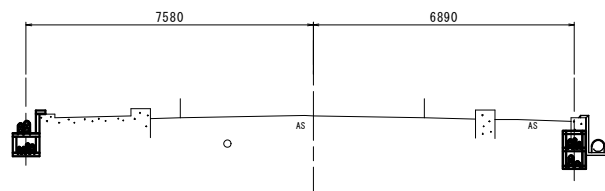
GH= 6.55
FH=



DL=0.00

WNO. -4

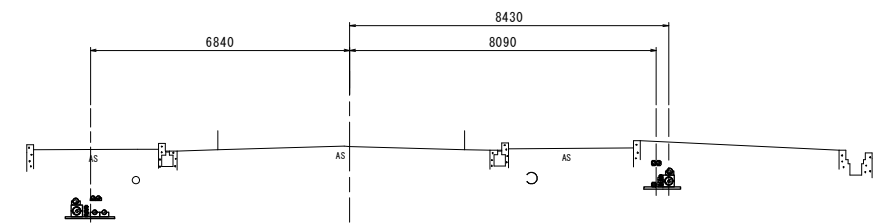
GH= 7.56
FH=



DL=0.00

WNO. -1

GH= 6.96
FH=



DL=0.00

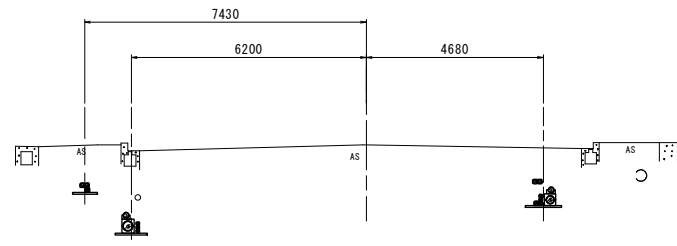
参考図

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	横断図(4)		
作成年月日			
縮尺	1:100	図面番号	10 葉之内 4
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

横断図(5)

WNO. 3

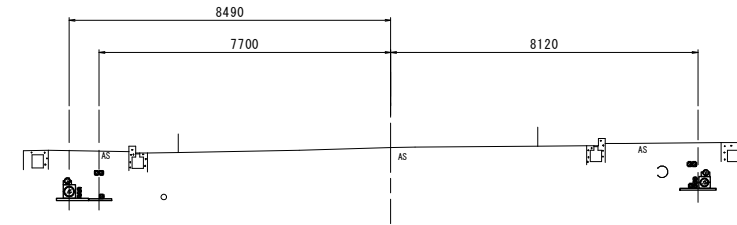
GH= 4.99
FH=



DL=0.00

WNO. 6

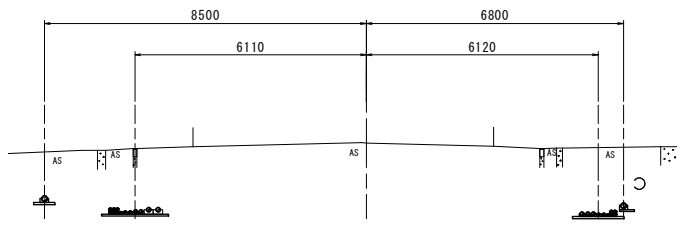
GH= 3.89
FH=



DL=0.00

WNO. 2

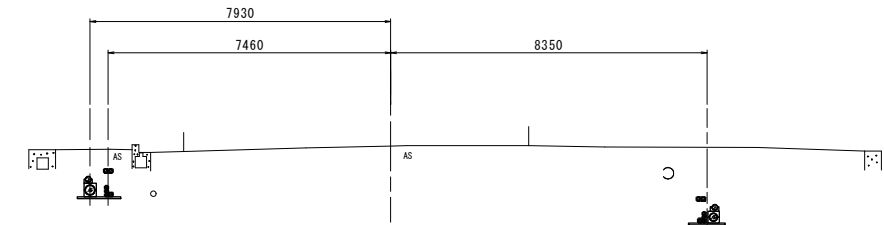
GH= 5.54
FH=



DL=0.00

WNO. 5

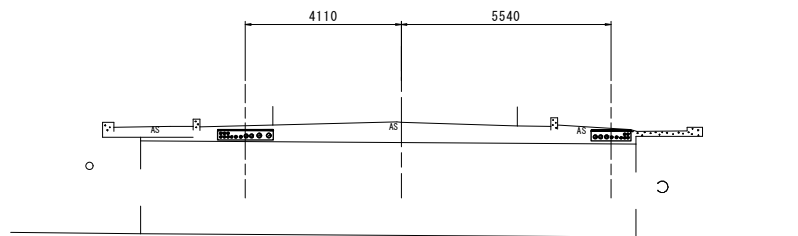
GH= 4.14
FH=



DL=0.00

WNO. 1+15.161

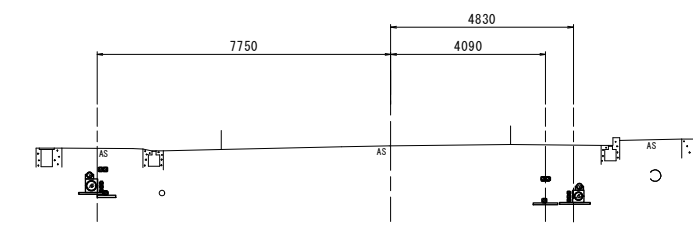
GH= 5.89
FH=



DL=0.00

WNO. 4

GH= 4.50
FH=



DL=0.00

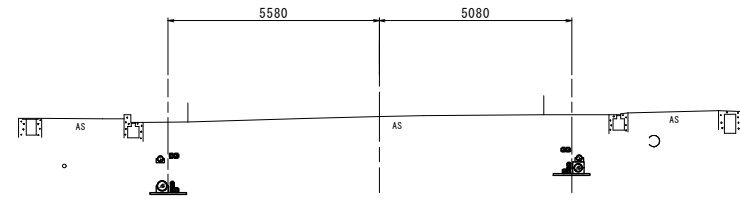
参考図

工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	横断図(5)		
作成年月日			
縮尺	1:100	図面番号	10 葉之内 5
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

横断図(6)

WNO. 9

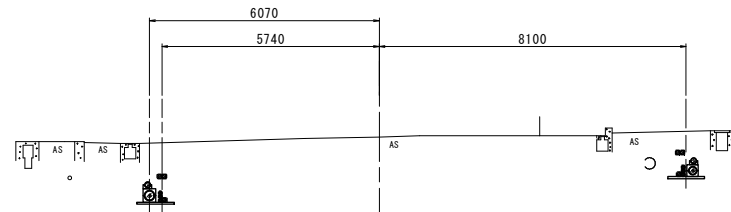
GH= 3.76
FH=



DL=0.00

WNO. 8

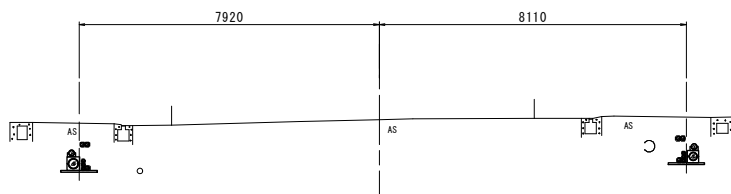
GH= 3.79
FH=



DL=0.00

WNO. 7

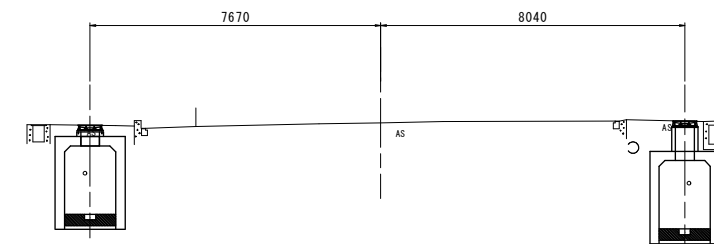
GH= 3.81
FH=



DL=0.00

WNO. 10

GH= 3.73
FH=



DL=0.00

参考図

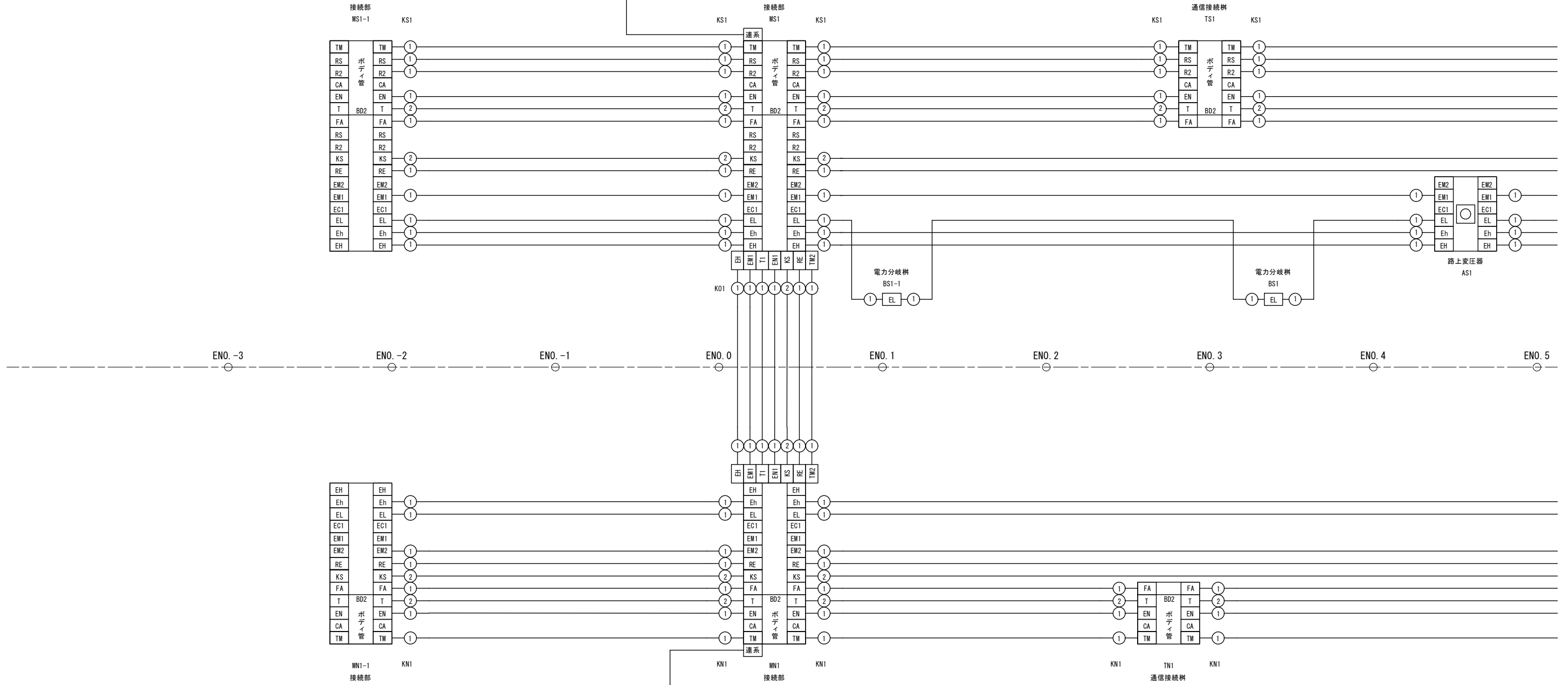
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	横断図(6)		
作成年月日			
縮尺	1:100	図面番号	10 葉之内 6
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

管路系統図(1)

凡例

事業者	記号	管種別	管外径	事業者	記号	管種別	管外径	事業者	記号	管種別	管外径					
中国電力	EH	角型FEPφ130	□162mm	NTT	T1	VPφ150	165mm	ポディー管内	T	SUφ50	58mm					
	Eh	角型FEPφ100	□125mm		T2	PVφ75	96mm		EN	SUφ50	58mm					
	EL	角型FEPφ100	□125mm		T3	PVφ50	60mm		CA	SUφ50	58mm					
	EC1	角型FEPφ75	□99mm	エネルギー・コミュニケーションズ	EN1	角型FEPφ75	□99mm		MC	SUφ50	58mm					
	EM1	角型FEPφ130	□162mm		CA1	角型FEPφ75	□99mm		R1	SUφ50	58mm					
	EM2	角型FEPφ100	□125mm		MC1	角型FEPφ75	□99mm		R2	SUφ50	58mm					
共用FA管	FA	VPφ150	165mm	道路管理者	R1	角型FEPφ75	□99mm	RS	SUφ50	58mm						
	BD1	VPφ250	267mm		R2	角型FEPφ75	□99mm	TM	SUφ50	58mm						
ポディー管	BD2	VPφ200	216mm	道路管理者	RS	角型FEPφ75	□99mm	通信メンテナンス管								
	TM1	VPφ150	165mm		RE	角型FEPφ75	□99mm									
	TM2	角型FEPφ75	□99mm		KS	角型FEPφ75	□99mm									
通信メンテナンス管	TM3	PVφ50	60mm	道路管理者照明用												
	共用FA管	FA	VPφ150									165mm	道路管理者	R1	角型FEPφ75	□99mm
		BD1	VPφ250									267mm		R2	角型FEPφ75	□99mm

日赤(分)
 連系管路
 EH φ125×2 T φ50×3
 Eh φ100×1 EN φ75×1
 EM φ125×1



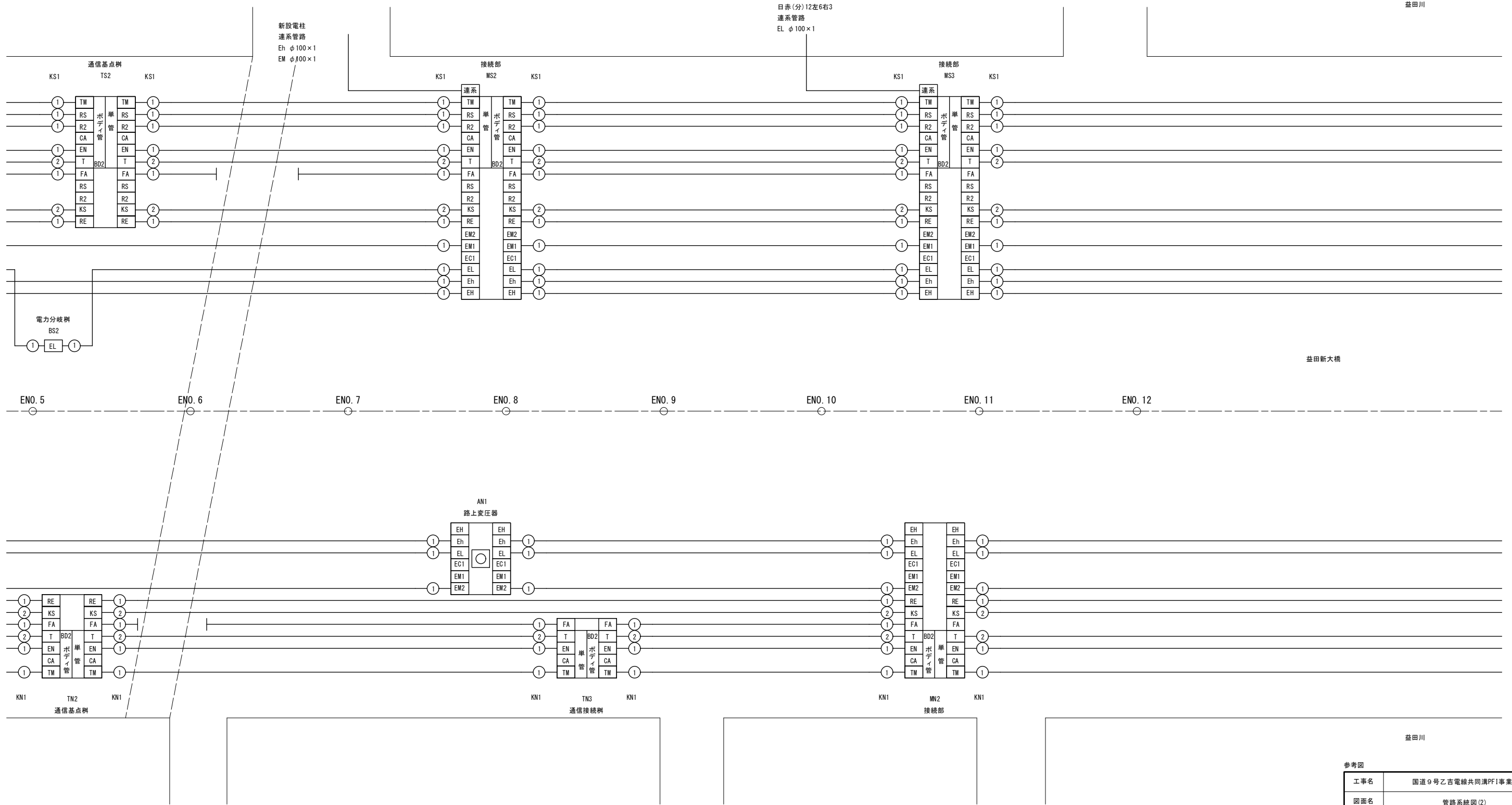
新設電柱
 連系管路
 EH φ125×1
 EM φ125×1
 EN φ75×1

参考図			
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	管路系統図(1)		
作成年月日			
縮尺	-	図面番号	10 葉之内 7
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

管路系統図(2)

凡例

事業者	記号	管種別	管外径	事業者	記号	管種別	管外径	事業者	記号	管種別	管外径
中国電力	EH	角型FEPφ130	□162mm	NTT	T1	VPφ150	165mm	ポディー管内	T	SUφ50	58mm
	Eh	角型FEPφ130	□125mm		T2	PVφ75	96mm		EN	SUφ50	58mm
	EL	角型FEPφ100	□125mm		T3	PVφ50	60mm		CA	SUφ50	58mm
	EC1	角型FEPφ75	□99mm	エネルギー・コミュニケーションズ	EN1	角型FEPφ75	□99mm		MC	SUφ50	58mm
	EM1	角型FEPφ130	□162mm		CA1	角型FEPφ75	□99mm		R1	SUφ50	58mm
	EM2	角型FEPφ100	□125mm		MC1	角型FEPφ75	□99mm		R2	SUφ50	58mm
共用FA管	FA	VPφ150	165mm	道路管理者	R1	角型FEPφ75	□99mm	RS	SUφ50	58mm	
	BD1	VPφ250	267mm		R2	角型FEPφ75	□99mm	TM	SUφ50	58mm	
ポディー管	BD2	VPφ200	216mm	道路管理者照明用	RE	角型FEPφ75	□99mm	通信メンテナンス管			
	TM1	VPφ150	165mm		KS	角型FEPφ75	□99mm				
通信メンテナンス管	TM2	角型FEPφ75	□99mm		公安用						
	TM3	PVφ50	60mm								

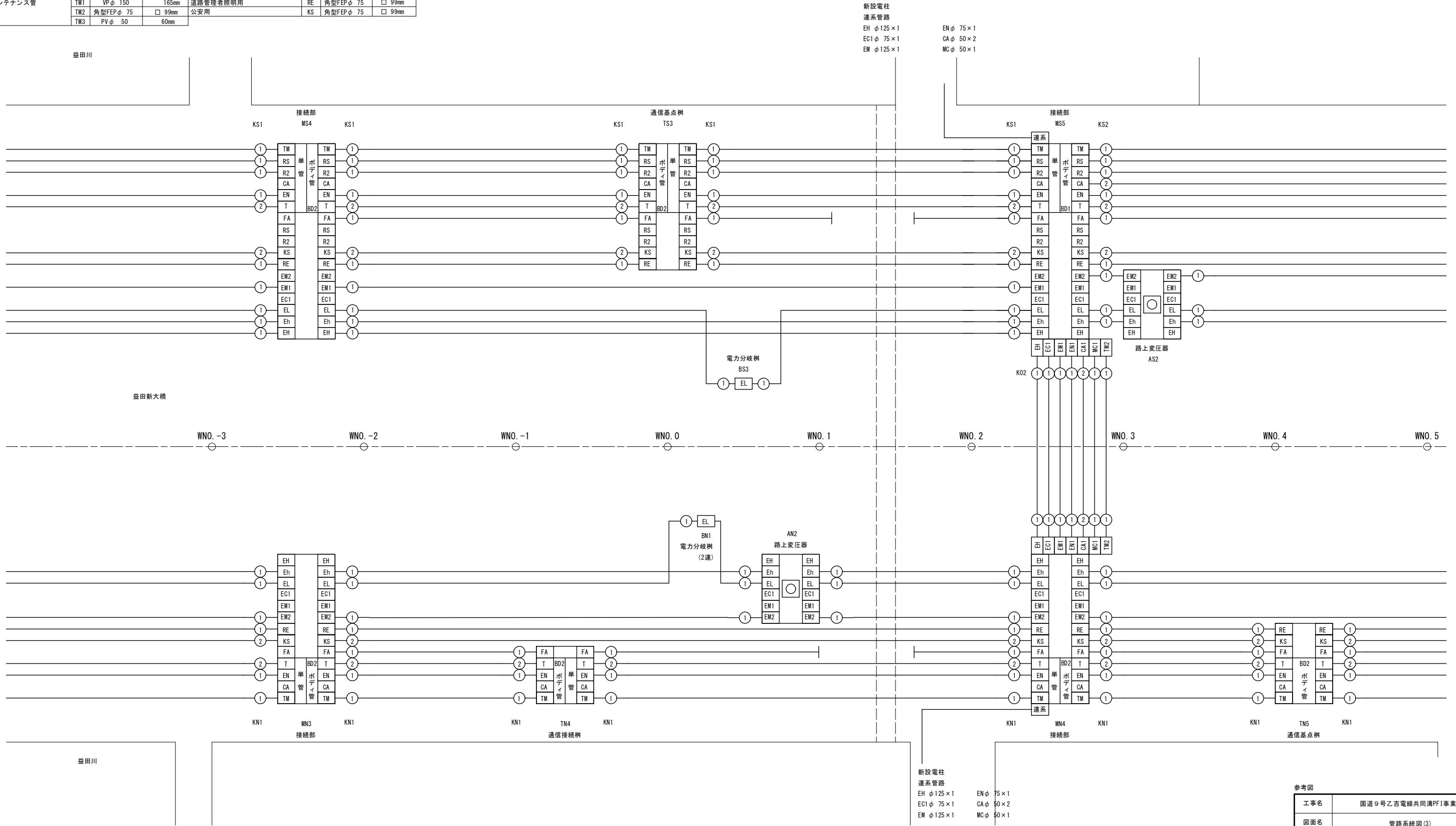


参考図			
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	管路系統図(2)		
作成年月日			
縮尺	-	図面番号	10 葉之内 8
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		

管路系統図(3)

凡例

事業者	記号	管種別	管外径	事業者	記号	管種別	管外径	事業者	記号	管種別	管外径
中国電力	EH	角型FEPφ130	□162mm	NTT	T1	VPφ150	165mm	ポディ管内	T	SUφ50	58mm
	Eh	角型FEPφ100	□125mm		T2	PVφ75	96mm		EN	SUφ50	58mm
	EL	角型FEPφ100	□125mm		T3	PVφ50	60mm		CA	SUφ50	58mm
	EC1	角型FEPφ75	□99mm	エネルギー・コミュニケーションズ	EN1	角型FEPφ75	□99mm		MC	SUφ50	58mm
	EM1	角型FEPφ130	□162mm		CA1	角型FEPφ75	□99mm		R1	SUφ50	58mm
	EM2	角型FEPφ100	□125mm		MC1	角型FEPφ75	□99mm		R2	SUφ50	58mm
共用FA管	FA	VPφ150	165mm	道路管理者	R1	角型FEPφ75	□99mm	RS	SUφ50	58mm	
	BD1	VPφ250	267mm		R2	角型FEPφ75	□99mm	TM	SUφ50	58mm	
ポディ管	BD2	VPφ200	216mm	道路管理者	RS	角型FEPφ75	□99mm	通信メンテナンス管			
	TM1	VPφ150	165mm		RE	角型FEPφ75	□99mm				
	TM2	角型FEPφ75	□99mm		KS	角型FEPφ75	□99mm				
通信メンテナンス管	TM3	PVφ50	60mm	道路管理者照明用				公安用			

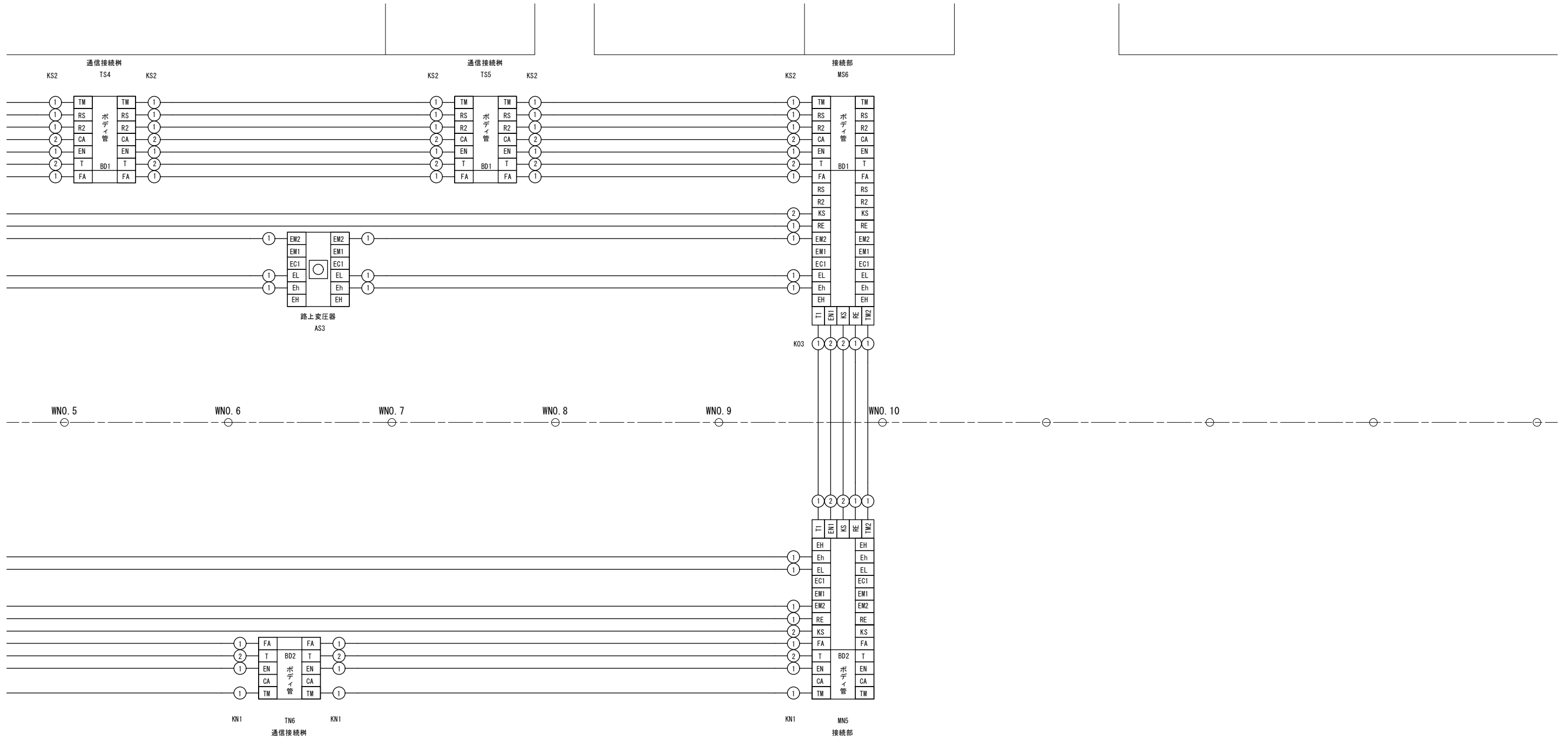


参考図	
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業
図面名	管路系統図(3)
作成年月日	
縮尺	- 図面番号 10 葉之内 9
会社名	
事業者名	浜田河川国道事務所

管路系統図(4)

凡例

事業者	記号	管種別	管外径	事業者	記号	管種別	管外径	事業者	記号	管種別	管外径
中国電力	EH	角型FEPφ130	□162mm	NTT	T1	VPφ150	165mm	ポディー管内	T	SUφ50	58mm
	Eh	角型FEPφ100	□125mm		T2	PVφ75	96mm		EN	SUφ50	58mm
	EL	角型FEPφ100	□125mm		T3	PVφ50	60mm		CA	SUφ50	58mm
	EC1	角型FEPφ75	□99mm	エネルギー・コミュニケーションズ	EN1	角型FEPφ75	□99mm		MC	SUφ50	58mm
	EM1	角型FEPφ130	□162mm		CA1	角型FEPφ75	□99mm		R1	SUφ50	58mm
	EM2	角型FEPφ100	□125mm		MC1	角型FEPφ75	□99mm		R2	SUφ50	58mm
共用FA管	FA	VPφ150	165mm	道路管理者	R1	角型FEPφ75	□99mm	RS	SUφ50	58mm	
	BD1	VPφ250	267mm		R2	角型FEPφ75	□99mm	TM	SUφ50	58mm	
ポディー管	BD2	VPφ200	216mm	道路管理者	RS	角型FEPφ75	□99mm	通信メンテナンス管			
	TM1	VPφ150	165mm		RE	角型FEPφ75	□99mm				
通信メンテナンス管	TM2	角型FEPφ75	□99mm	道路管理者照明用	KS	角型FEPφ75	□99mm	公安用			
	TM3	PVφ50	60mm								



参考図			
工事名	国道9号乙吉電線共同溝PF1事業		
図面名	管路系統図(4)		
作成年月日			
縮尺	-	図面番号	10 葉之内 10
会社名			
事業者名	浜田河川国道事務所		